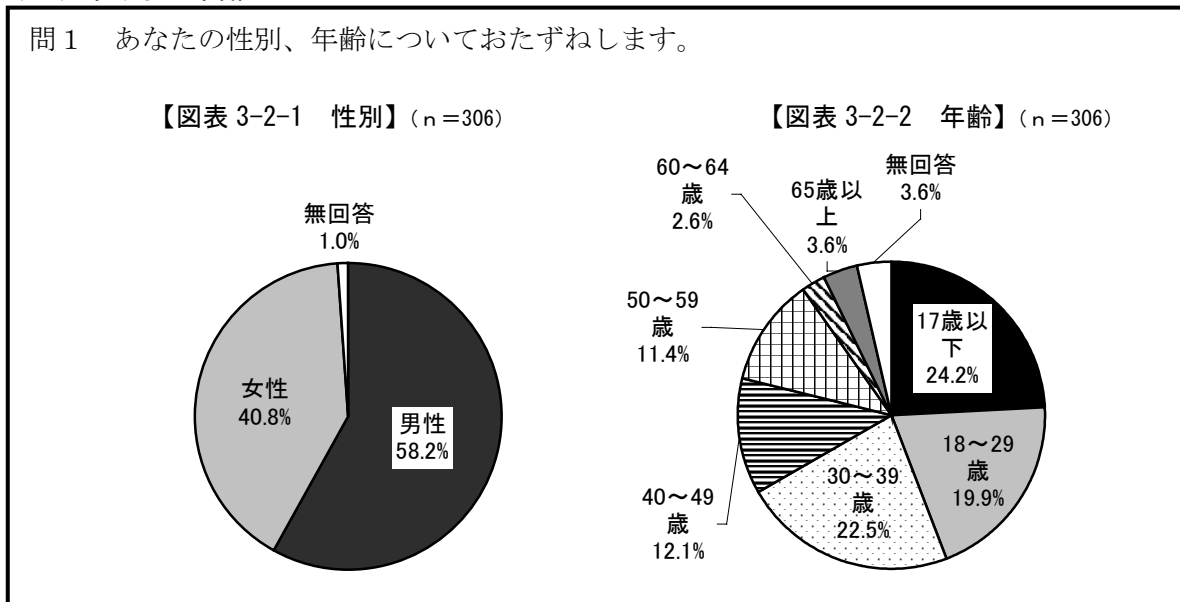


第2節 知的障害者（児）調査

1. 基本属性

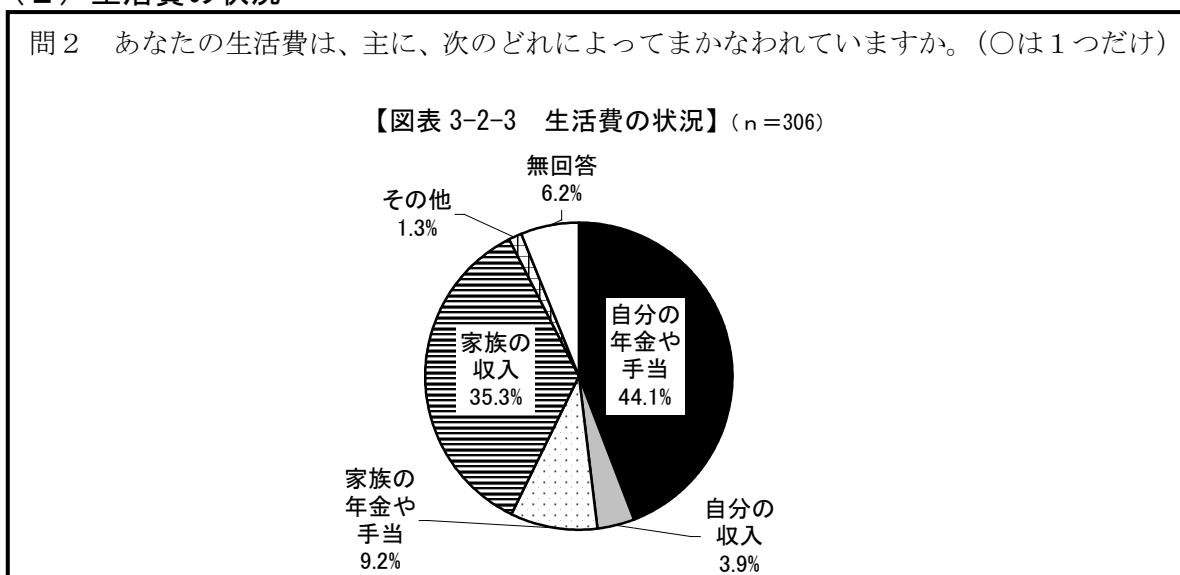
(1) 性別・年齢



性別は、「女性」(40.8%)より「男性」(58.2%)が多い。

年齢は、「17歳以下」(24.2%)が最も多く、次いで「30~39歳」(22.5%)、「18~29歳」(19.9%)となっており、これらの30歳代以下の層で全体の7割弱(66.6%)を占めている。

(2) 生活費の状況



生活費は、「自分の年金や手当」(44.1%)が最も多く、次いで「家族収入」(35.3%)となっている。

年齢別にみると、20歳代以下では「家族収入」が最も多く、30歳代以上では「自分の年金や手当」が最も多くなっている。「自分の収入」は18~29歳(11.5%)で1割を超えているが、その他の年齢層ではいずれも1割以下となっている。

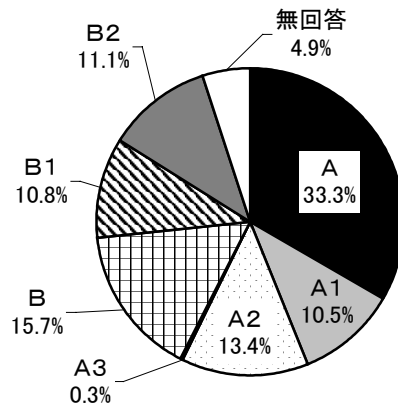
【図表 3-2-4 年齢別 生活費の状況】（%）

	調査数「n」（人）	自分の年金や手当	自分の収入	家族の年金や手当	家族の収入	その他	無回答	
全体	306	44.1	3.9	9.2	35.3	1.3	6.2	
年齢別	17歳以下	74	1.4	-	2.7	89.2	2.7	4.1
	18～29歳	61	34.4	11.5	4.9	39.3	1.6	8.2
	30～39歳	69	63.8	2.9	14.5	13.0	1.4	4.3
	40～49歳	37	62.2	8.1	16.2	8.1	-	5.4
	50～59歳	35	71.4	-	14.3	11.4	-	2.9
	60～64歳	8	75.0	-	12.5	-	-	12.5
	65歳以上	11	81.8	-	-	9.1	-	9.1
	無回答	11	54.5	-	9.1	9.1	-	27.3

（3）障害の程度（療育手帳の判定）

問3 あなたの「療育手帳」の判定は、次のどれですか。（○は1つだけ）

【図表 3-2-5 障害の程度（療育手帳の判定）】（n=306）



障害の程度は、療育手帳A（A・A1・A2・A3）が57.5%、療育手帳B（B・B1・B2）が37.6%となっている。

年齢別にみると、18～29歳では療育手帳A（46.0%）より療育手帳B（50.9%）がやや多いが、その他の年齢層ではいずれも療育手帳Aの方が多く、50歳代（71.5%）や65歳以上（72.7%）では7割を超えている。

第3章 調査結果[知的障害者（児）調査]

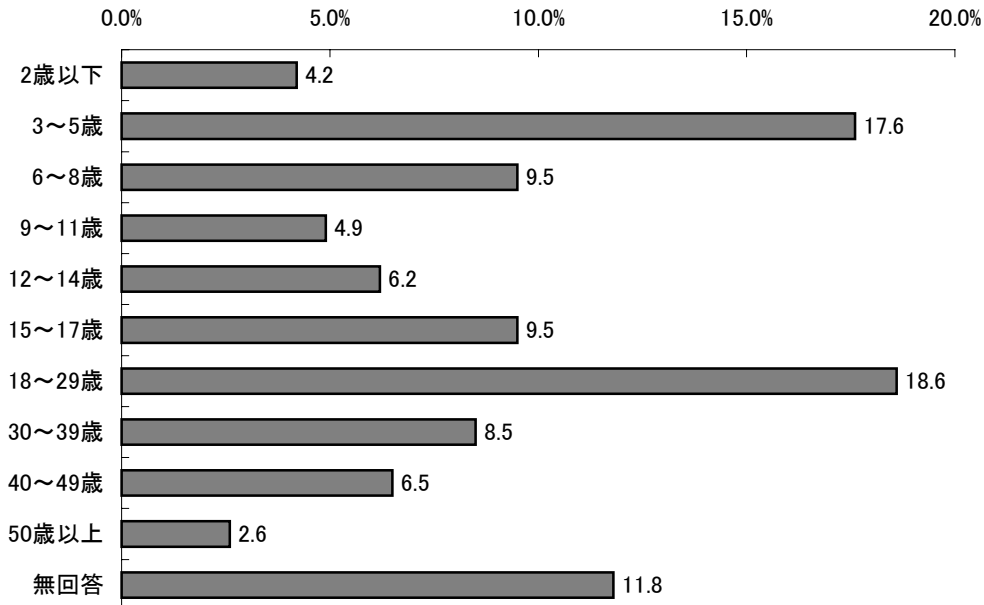
【図表 3-2-6 年齢別 障害の程度（療育手帳の判定）】（%）

		調査数 「n」 (人)	A	A 1	A 2	A 3	B	B 1	B 2	無 回 答
全 体		306	33.3	10.5	13.4	0.3	15.7	10.8	11.1	4.9
年 齢 別	17歳以下	74	6.8	20.3	29.7	-	-	21.6	20.3	1.4
	18～29歳	61	23.0	16.4	6.6	-	21.3	14.8	14.8	3.3
	30～39歳	69	47.8	4.3	10.1	-	20.3	5.8	10.1	1.4
	40～49歳	37	43.2	5.4	8.1	-	21.6	10.8	5.4	5.4
	50～59歳	35	54.3	-	14.3	2.9	20.0	-	2.9	5.7
	60～64歳	8	37.5	25.0	-	-	25.0	-	-	12.5
	65歳以上	11	72.7	-	-	-	27.3	-	-	-
	無回答	11	36.4	-	-	-	9.1	-	-	54.5

(4) 療育手帳の交付時期

問4 あなたが療育手帳の交付を受けたのは何歳のころですか。

【図表 3-2-7 療育手帳の交付時期】(n=306)



療育手帳の交付を受けた時期は、「18～29歳」(18.6%)、「3～5歳」(17.6%)がそれぞれ1割を超えて多く、次いで「6～8歳」(9.5%)、「15～17歳」(9.5%)となっている。また、17歳以下が全体の半数強(51.9%)を占めている。

障害の程度別にみると、療育手帳Aでは「3～5歳」(22.2%)が最も多く、療育手帳Bでは「18～29歳」(25.2%)が最も多い。

【図表 3-2-8 障害の程度別 療育手帳の交付時期】(%)

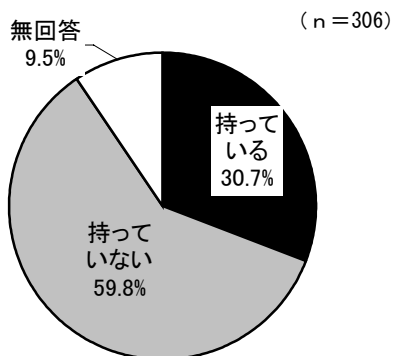
障害程度別の	調査数 「n」 (人)	2歳以下	3 ～ 5歳	6 ～ 8歳	9 ～ 11歳	12 ～ 14歳	15 ～ 17歳
		全体	306	4.2	17.6	9.5	4.9
療育手帳A	176	5.7	22.2	11.9	5.7	5.1	5.1
療育手帳B	115	2.6	11.3	6.1	4.3	8.7	16.5
無回答	15	-	13.3	6.7	-	-	6.7

障害程度別の	調査数 「n」 (人)	18 ～ 29歳	30 ～ 39歳	40 ～ 49歳	50歳以上	無回答
		全体	306	18.6	8.5	6.5
療育手帳A	176	15.9	6.8	7.4	2.8	11.4
療育手帳B	115	25.2	12.2	6.1	2.6	4.3
無回答	15	-	-	-	-	73.3

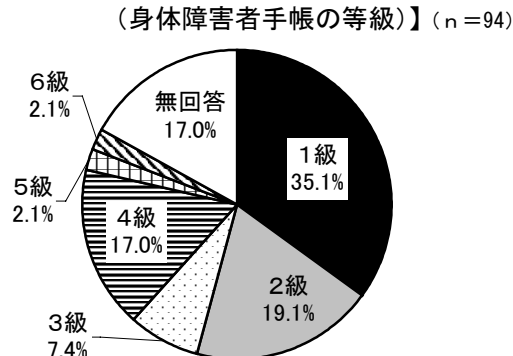
(5) 身体障害者手帳の有無

問5 あなたは「身体障害者手帳」を持っていますか。
 問5-1 (身体障害者手帳を持っている方のみお答えください)「身体障害者手帳」による等級は次のどれですか。

【図表 3-2-9 身体障害者手帳の有無】



【図表 3-2-10 身体障害の程度 (身体障害者手帳の等級)】 (n=94)



身体障害者手帳所持者(「持っている」と回答した者)は30.7%である。

身体障害者手帳所持者の身体障害の程度(手帳の等級)は、重度障害者(1・2級)が54.2%、中度障害者(3・4級)が24.4%、軽度障害者(5・6級)が4.2%となっている。

年齢別にみると、身体障害者手帳所持者は概ね加齢とともに増加し、60歳代以上では半数を超えている。

障害の程度別にみると、身体障害者手帳所持者の割合は、療育手帳B(18.3%)よりA(39.2%)で高く、4割を占めている。

【図表 3-2-11 年齢別・障害の程度別 身体障害者手帳の有無】 (%)

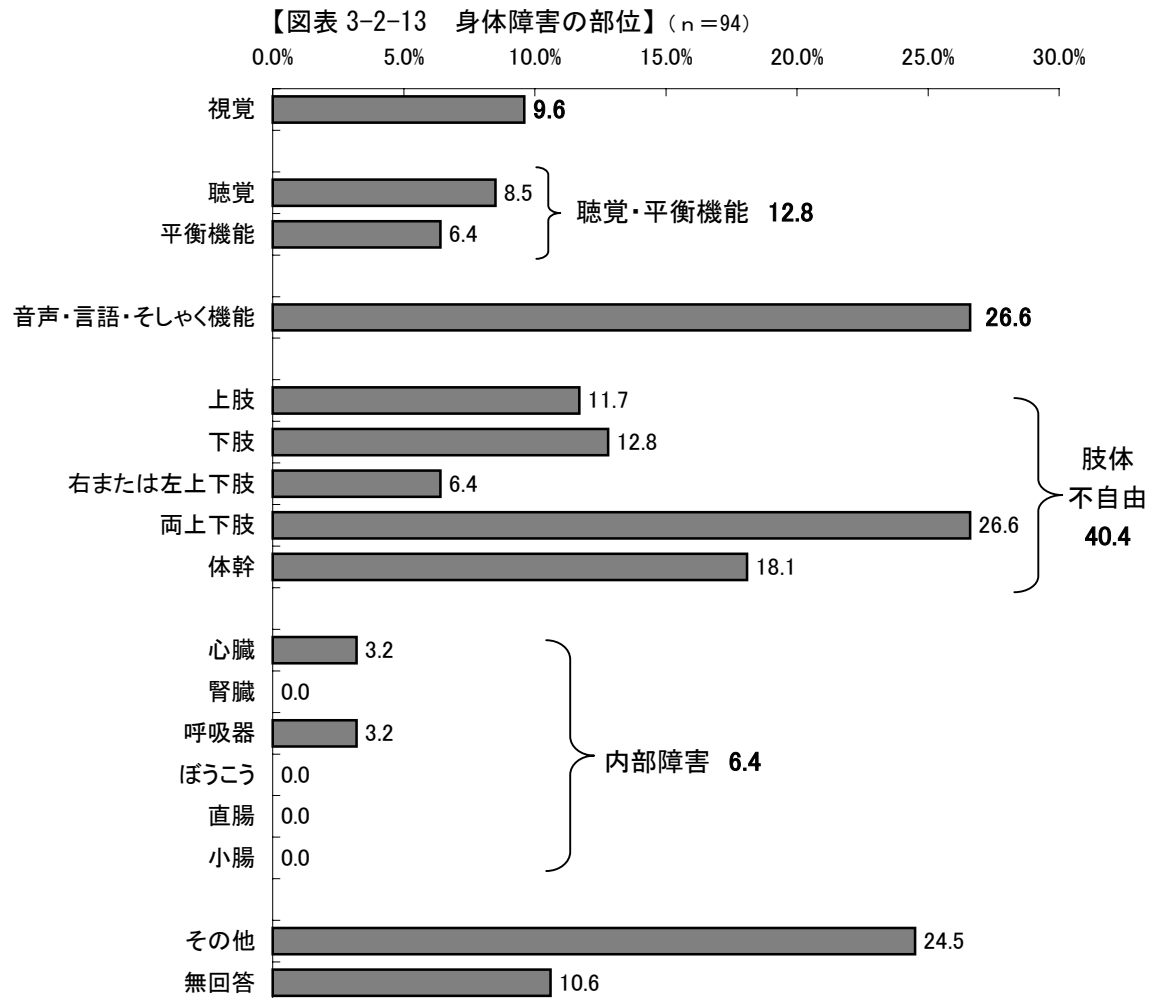
		(「調査人数」)	持っている	持っていない	無回答
全体		306	30.7	59.8	9.5
年齢別	17歳以下	74	25.7	68.9	5.4
	18～29歳	61	16.4	77.0	6.6
	30～39歳	69	36.2	58.0	5.8
	40～49歳	37	32.4	51.4	16.2
	50～59歳	35	37.1	51.4	11.4
	60～64歳	8	50.0	25.0	25.0
	65歳以上	11	54.5	36.4	9.1
度の障害別	療育手帳A	176	39.2	54.0	6.8
	療育手帳B	115	18.3	71.3	10.4
	無回答	15	26.7	40.0	33.3

【図表 3-2-12 年齢別・障害の程度別 身体障害の程度 (身体障害者手帳の等級)】 (%)

		(「調査人数」)	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
全体		94	35.1	19.1	7.4	17.0	2.1	2.1	17.0
年齢別	17歳以下	19	73.7	10.5	-	5.3	-	-	10.5
	18～29歳	10	50.0	30.0	-	-	-	-	20.0
	30～39歳	25	20.0	32.0	-	20.0	-	-	28.0
	40～49歳	12	41.7	8.3	16.7	25.0	8.3	-	-
	50～59歳	13	15.4	7.7	15.4	38.5	7.7	-	15.4
	60～64歳	4	-	50.0	25.0	-	-	-	25.0
	65歳以上	6	-	16.7	-	16.7	-	33.3	33.3
度の障害別	療育手帳A	69	43.5	14.5	8.7	20.3	1.4	1.4	10.1
	療育手帳B	21	9.5	38.1	-	9.5	4.8	4.8	33.3
	無回答	4	25.0	-	25.0	-	-	-	50.0

(6) 身体障害の部位

問5-2 (身体障害者手帳を持っている方のみお答えください) どのような障害(障害の部位)ですか。(〇はあてはまるものすべて)



※この質問は複数回答であり、身体障害の大分類は、小分類のいずれか1つ以上を選択している人の割合である。このため、小分類の合計は大分類の値を超える。

身体障害者手帳所持者の身体障害の部位(大分類)は、『肢体不自由』(40.4%)が最も多く、次いで『音声・言語・そしゃく機能』(26.6%)となっている。

第3章 調査結果[知的障害者（児）調査]

【図表 3-2-14 障害の程度別 身体障害の部位】（%）

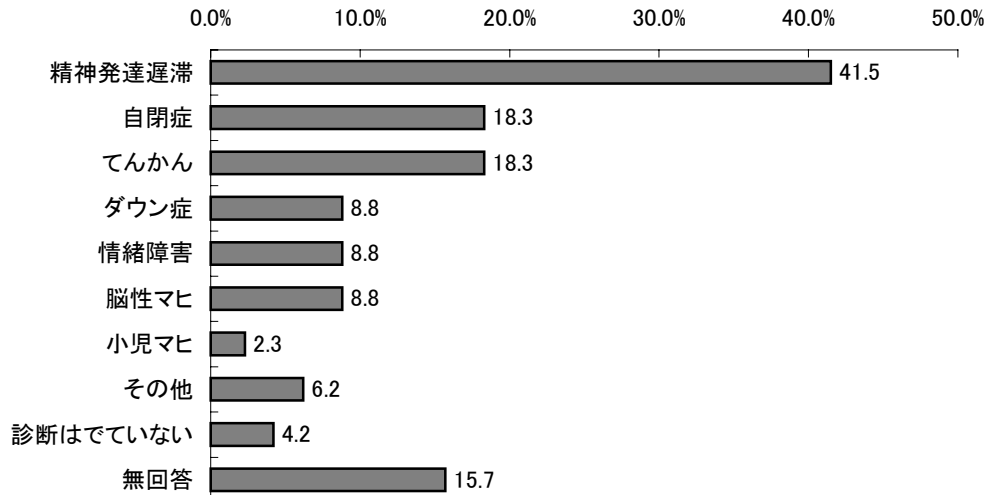
	調査数「n」（人）	視覚	聴覚・平衡機能		音声・言語・そしゃく機能	肢体不自由	上肢	下肢	右または左上下肢	両上下肢	体幹		
			聴覚	平衡機能									
全 体	94	9.6	12.8	8.5	6.4	26.6	40.4	11.7	12.8	6.4	26.6	18.1	
度の障害別	療育手帳A	69	10.1	15.9	10.1	8.7	30.4	50.7	14.5	14.5	7.2	34.8	24.6
	療育手帳B	21	4.8	4.8	4.8	-	14.3	9.5	-	9.5	-	-	-
	無回答	4	25.0	-	-	-	25.0	25.0	25.0	-	25.0	25.0	-

	調査数「n」（人）	内部障害							その他	無回答
		心臓	腎臓	呼吸器	ぼうこう	直腸	小腸			
全 体	94	6.4	3.2	-	3.2	-	-	-	24.5	10.6
度の障害別	療育手帳A	69	8.7	4.3	-	4.3	-	-	20.3	4.3
	療育手帳B	21	-	-	-	-	-	-	38.1	28.6
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0

(7) 知的障害に関わる診断

問6 次の診断を受けたことがありますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-15 知的障害に関わる診断】(n=306)



受けたことがある診断は、「精神発達遅滞」(41.5%)が最も多く、次いで「自閉症」(18.3%)、「てんかん」(18.3%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bいずれにおいても「精神発達遅滞」「自閉症」「てんかん」が上位を占めているが、療育手帳AはBに比べて「脳性マヒ」(14.2%)や「精神発達遅滞」(46.6%)、「ダウン症」(11.9%)などの割合が高い。

【図表 3-2-16 障害の程度別 知的障害に関わる診断】(%)

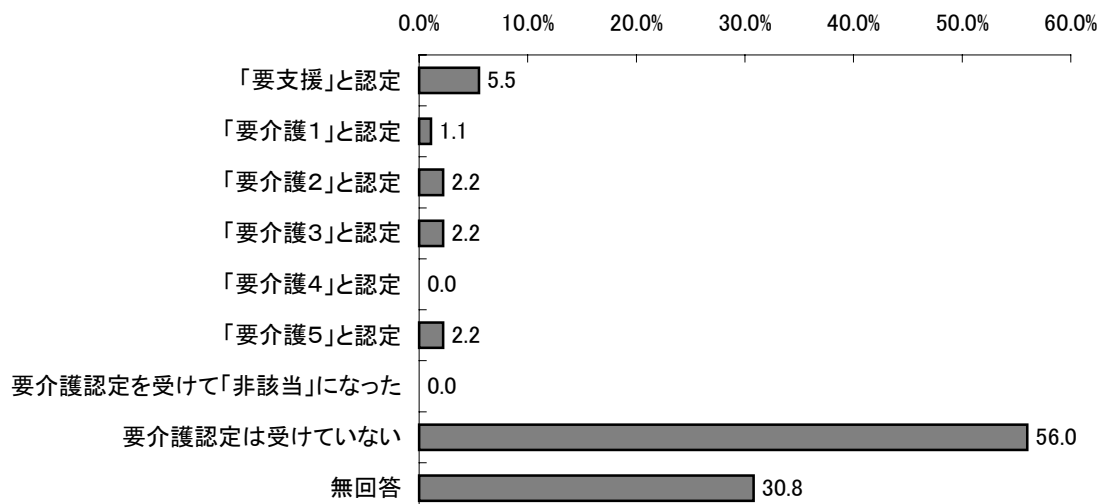
	調査数「n」(人)	精神発達遅滞	自閉症	てんかん	ダウン症	情緒障害	脳性マヒ	小児マヒ	その他	診断はでていない	無回答	
全体	306	41.5	18.3	18.3	8.8	8.8	8.8	2.3	6.2	4.2	15.7	
障害の程度別の	療育手帳A	176	46.6	21.0	21.0	11.9	9.1	14.2	2.8	4.5	1.1	11.9
	療育手帳B	115	37.4	15.7	15.7	4.3	9.6	0.9	-	8.7	7.8	18.3
	無回答	15	13.3	6.7	6.7	6.7	-	6.7	13.3	6.7	13.3	40.0

(8) 要介護認定の有無

【40歳以上の方のみお答えください】

問7 介護保険の要介護認定を受けていますか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-17 要介護認定の有無】(n=91)



40歳以上の人に対して、介護保険の要介護認定の認定状況をたずねたところ、要支援から要介護5までの認定を受けている人が13.2%となっている。

【図表 3-2-18 年齢別 要介護認定の有無】(%)

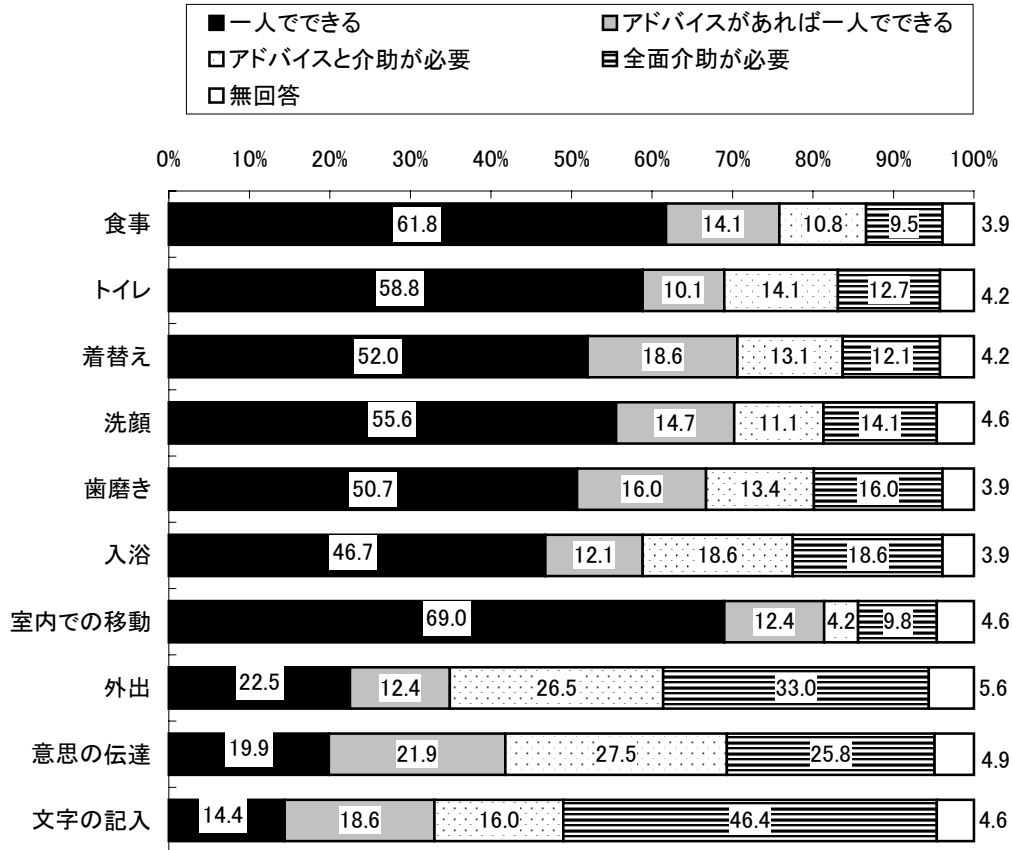
	調査数「n」(人)	「要支援」と認定	「要介護1」と認定	「要介護2」と認定	「要介護3」と認定	「要介護4」と認定	「要介護5」と認定	「要介護認定を受けていない」に受けた	要介護認定は受けていない	無回答
全体	91	5.5	1.1	2.2	2.2	-	2.2	-	56.0	30.8
年齢別	40～49歳	37	10.8	-	-	-	-	-	48.6	40.5
	50～59歳	35	-	-	-	-	-	-	71.4	28.6
	60～64歳	8	-	-	-	12.5	-	12.5	50.0	25.0
	65歳以上	11	9.1	9.1	18.2	9.1	-	9.1	36.4	9.1
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

2. 生活状況

(1) 日常生活動作

問8 あなたは、次のような動作が一人でできますか。それぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。※補装具を使用した状態でお答えください。

【図表 3-2-19 日常生活動作】(n=306)



10項目の日常生活動作について自立度をたずねたところ、「一人でできる」との回答は、『室内での移動』(69.0%)をはじめ、『食事』(61.8%)や『トイレ』(58.8%)、『洗顔』(55.6%)、『着替え』(52.0%)、『歯磨き』(50.7%)で過半数を占めており、これらの動作の自立度は高いといえる。

一方、「アドバイスと介助が必要」「全面介助が必要」をあわせた要介助の割合は『文字の記入』(62.4%)や『外出』(59.5%)、『意思の伝達』(53.3%)で過半数を占めており、これらの動作については介助を必要とする人が比較的多いことがわかる。

障害の程度別に要介助の割合(「アドバイスと介助が必要」+「全面介助が必要」)をみると、療育手帳Aは療育手帳Bに比べてすべての項目において要介助の割合が高く、特に『文字の記入』(81.8%)や『外出』(79.0%)で8割前後と高い。

第3章 調査結果[知的障害者（児）調査]

【図表 3-2-20 障害の程度別 日常生活動作に介助を要する人
（「アドバイスと介助」「全面介助」の合計値）】（%）

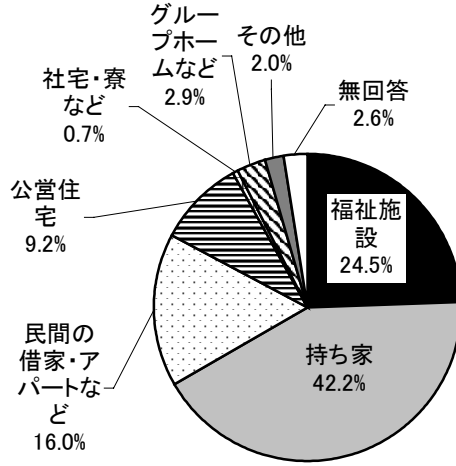
	調査数 「n」 (人)	食事	トイレ	着替え	洗顔	歯磨き	
全体	306	20.3	26.8	25.2	25.2	29.4	
障害程度別の	療育手帳A	176	30.1	40.3	36.9	37.5	44.3
	療育手帳B	115	6.1	7.8	8.7	7.8	8.7
	無回答	15	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3

	調査数 「n」 (人)	入浴	室内での移動	外出	意思の伝達	文字の記入	無回答	
全体	306	37.3	14.1	59.5	53.3	62.4	30.7	
障害程度別の	療育手帳A	176	54.0	21.0	79.0	71.0	81.8	14.2
	療育手帳B	115	13.0	3.5	31.3	29.6	33.0	55.7
	無回答	15	26.7	13.3	46.7	26.7	60.0	33.3

(2) 現在の住まい

問9 あなたの現在のお住まいは次のどれですか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-21 現在の住まい】(n=306)



現在の住まいは、「持ち家」(42.2%)が最も多く、次いで「福祉施設」(24.5%)、「民間の借家・アパートなど」(16.0%)となっている。

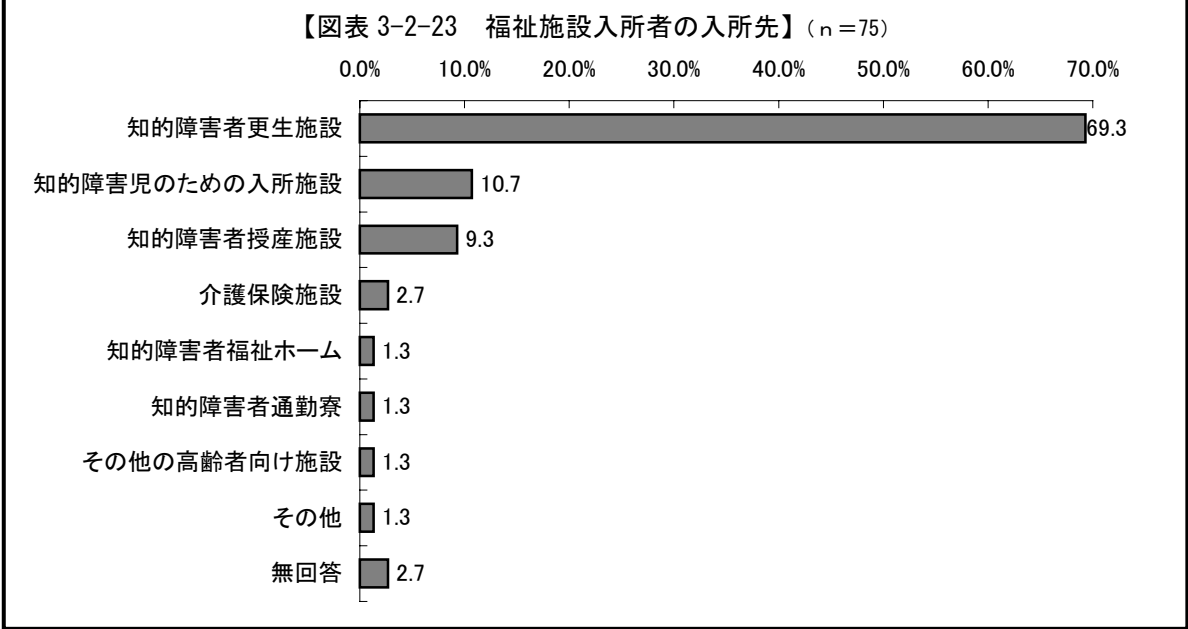
障害の程度別にみると、療育手帳A・Bいずれにおいても「持ち家」が最も多いが、療育手帳AはBに比べて「福祉施設」(28.4%)の割合が高い。

【図表 3-2-22 障害の程度別 現在の住まい】(%)

	調査数「n」 (人)	福祉施設	持ち家	民間の借家・アパート	公営住宅	社宅・寮など	グループホームなど	その他	無回答
全体	306	24.5	42.2	16.0	9.2	0.7	2.9	2.0	2.6
障害程度別の	療育手帳A	176	28.4	41.5	11.9	8.5	1.1	2.8	2.8
	療育手帳B	115	15.7	45.2	23.5	10.4	-	3.5	0.9
	無回答	15	46.7	26.7	6.7	6.7	-	-	13.3

(3) 福祉施設入所者の入所先

問10から問13は、福祉施設に入所している方のみお答えください。
 問10 現在入所している施設の種類は次のどれですか。(○は1つだけ)



福祉施設入所者の入所先は、「知的障害者更生施設」(69.3%)が7割を占めて最も多く、次いで「知的障害児のための入所施設」(10.7%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bいずれにおいても「知的障害者更生施設」が最も多いが、療育手帳BはAに比べて「知的障害者授産施設」(22.2%)や「知的障害者通勤寮」(5.6%)などの割合が高い。

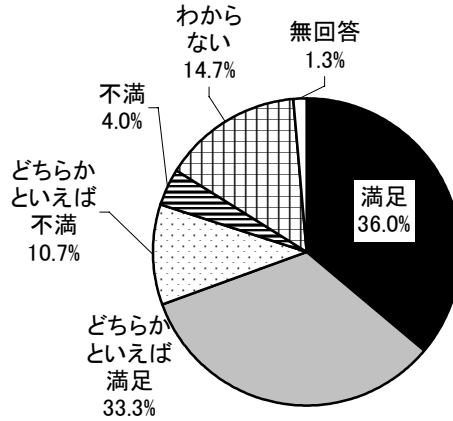
【図表 3-2-24 障害の程度別 福祉施設入所者の入所先】(%)

障害程度別の	調査数「n」(人)	知的障害者更生施設	知的障害児のための入所施設	知的障害者授産施設	介護保険施設	知的障害者福祉ホーム	知的障害者通勤寮	その他の高齢者向け施設	その他	無回答
		全体	75	69.3	10.7	9.3	2.7	1.3	1.3	1.3
療育手帳A	50	76.0	14.0	2.0	2.0	2.0	-	-	-	4.0
療育手帳B	18	66.7	-	22.2	-	-	5.6	5.6	-	-
無回答	7	28.6	14.3	28.6	14.3	-	-	-	14.3	-

(4) 福祉施設入所者の満足度

問11 現在入所している施設での生活に満足していますか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-25 福祉施設入所者の満足度】(n=75)



福祉施設入所者の入所施設に対する満足度は、「満足」(36.0%)が最も多く、次いで「どちらかといえば満足」(33.3%)となっており、これらをあわせると『満足層』が69.3%となっている。

一方、「どちらかといえば不満」(10.7%)・「不満」(4.0%)をあわせた『不満層』は14.7%となっている。

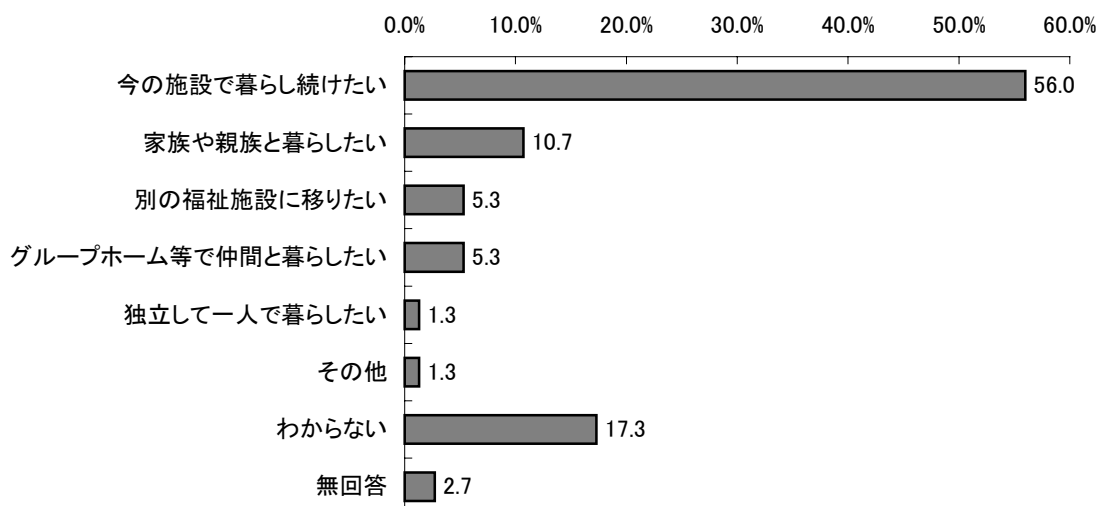
【図表 3-2-26 入所施設別 福祉施設入所者の満足度】(%)

	調査数「n」 (人)	満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	わからない	無 回 答	
全 体	75	36.0	33.3	10.7	4.0	14.7	1.3	
入 所 施 設 別	知的障害者更生施設	52	32.7	32.7	9.6	3.8	19.2	1.9
	知的障害者授産施設	7	28.6	14.3	42.9	-	14.3	-
	知的障害者福祉ホーム	1	100.0	-	-	-	-	-
	知的障害者通所寮	1	-	100.0	-	-	-	-
	知的障害児のための入所施設	8	37.5	50.0	-	12.5	-	-
	介護保険施設	2	50.0	50.0	-	-	-	-
	その他の高齢者向け施設	1	100.0	-	-	-	-	-
	その他	1	100.0	-	-	-	-	-
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-

(5) 福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方

問12 あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-27 福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方】(n=75)



福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方は、「今の施設で暮らし続けたい」(56.0%)が半数を超えて最も多く、次いで「わからない」(17.3%)、「家族や親族と暮らしたい」(10.7%)となっている。また、「独立して一人で暮らしたい」「家族や親族と暮らしたい」「グループホーム等で仲間と暮らしたい」をあわせた『地域生活移行希望者』は17.3%となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bいずれにおいても「今の施設で暮らし続けたい」が最も多いが、療育手帳AはBに比べて「わからない」(24.0%)の割合が高く、約4人に1人が「わからない」と回答している。一方、療育手帳BはAに比べて「家族や親族と暮らしたい」(22.2%)や「グループホーム等で仲間と暮らしたい」(11.1%)などの地域生活への移行を希望する人の割合が高い。

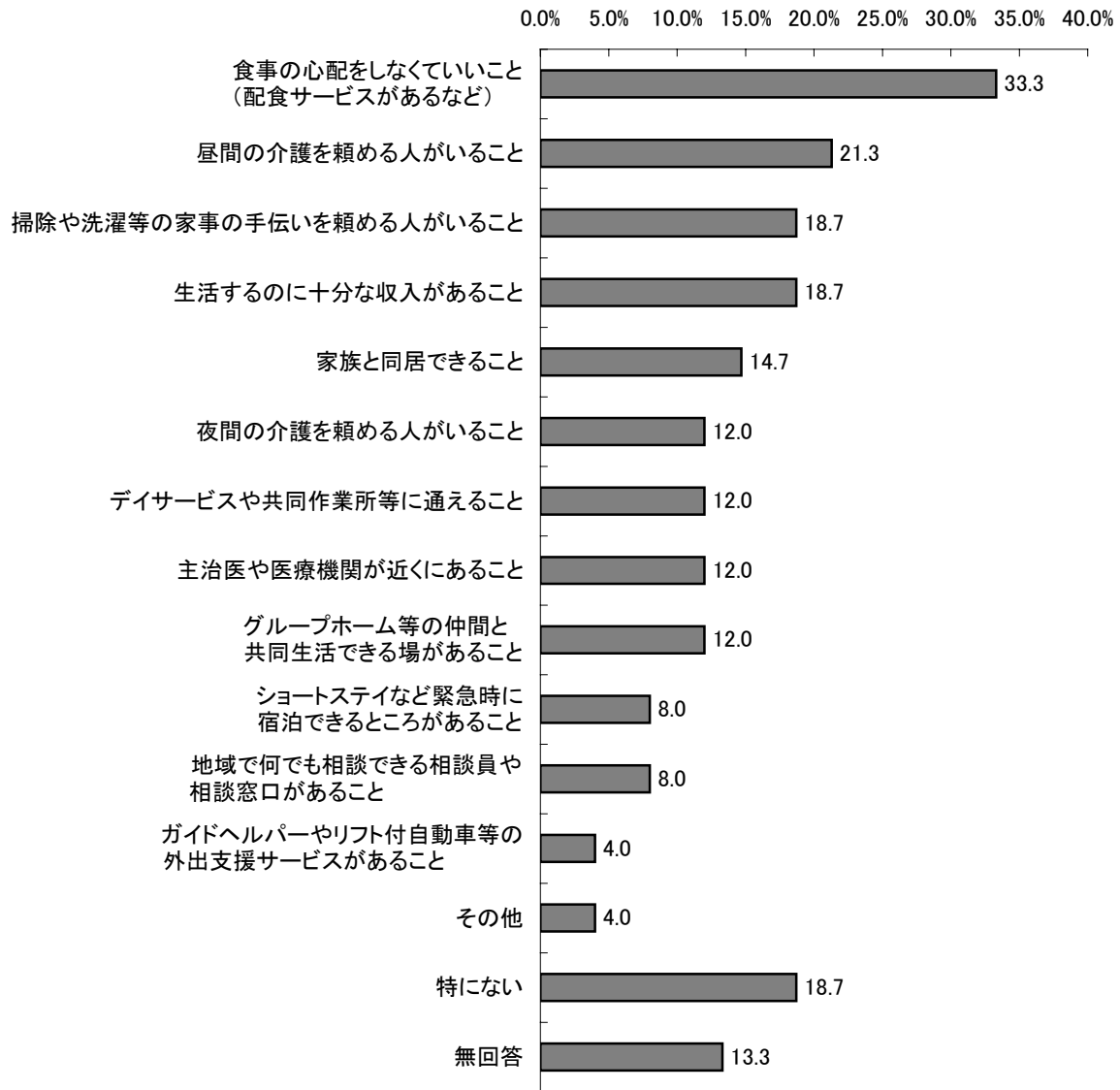
【図表 3-2-28 障害の程度別・入所施設別 福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方】(%)

		調査数「n」 (人)	今の施設で暮らし続けたい	家族や親族と暮らしたい	別の福祉施設に移りたい	グループホーム等で仲間と暮らしたい	独立して一人で暮らしたい	その他	わからない	無回答
全体		75	56.0	10.7	5.3	5.3	1.3	1.3	17.3	2.7
障害程度別の	療育手帳A	50	56.0	4.0	8.0	2.0	2.0	-	24.0	4.0
	療育手帳B	18	55.6	22.2	-	11.1	-	5.6	5.6	-
	無回答	7	57.1	28.6	-	14.3	-	-	-	-
入所施設別の	知的障害者更生施設	52	53.8	11.5	5.8	-	-	1.9	23.1	3.8
	知的障害者授産施設	7	57.1	14.3	-	28.6	-	-	-	-
	知的障害者福祉ホーム	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	知的障害者通勤寮	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	知的障害児のための入所施設	8	75.0	-	12.5	-	-	-	12.5	-
	介護保険施設	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	その他の高齢者向け施設	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	その他	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-
無回答		2	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-

(6) 福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件

問13 あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。(〇は3つまで)

【図表 3-2-29 福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件】(n=75)



福祉施設入所者が自宅や地域で生活するために必要な条件は、「食事の心配をしなくていいこと (配食サービスがあるなど)」(33.3%) が最も多く、次いで「昼間の介護を頼める人がいること」(21.3%)、「掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること」(18.7%)、「生活するのに十分な収入があること」(18.7%) となっている。また、「特になし」も 18.7% となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bいずれにおいても「食事の心配をしなくていいこと (配食サービスがあるなど)」が最も多いが、その割合は療育手帳A (28.0%) よりB (50.0%) で高く、半数を占めている。

また、「主治医や医療機関が近くにあること」(A : 8.0%、B : 22.2%) や「グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること」(A : 8.0%、B : 22.2%)、「地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること」(A : 4.0%、B : 16.7%) などもAよりBで割合が高い。

第3章 調査結果[知的障害者（児）調査]

【図表 3-2-30 障害の程度別・入所施設別 福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件】
(%)

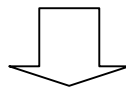
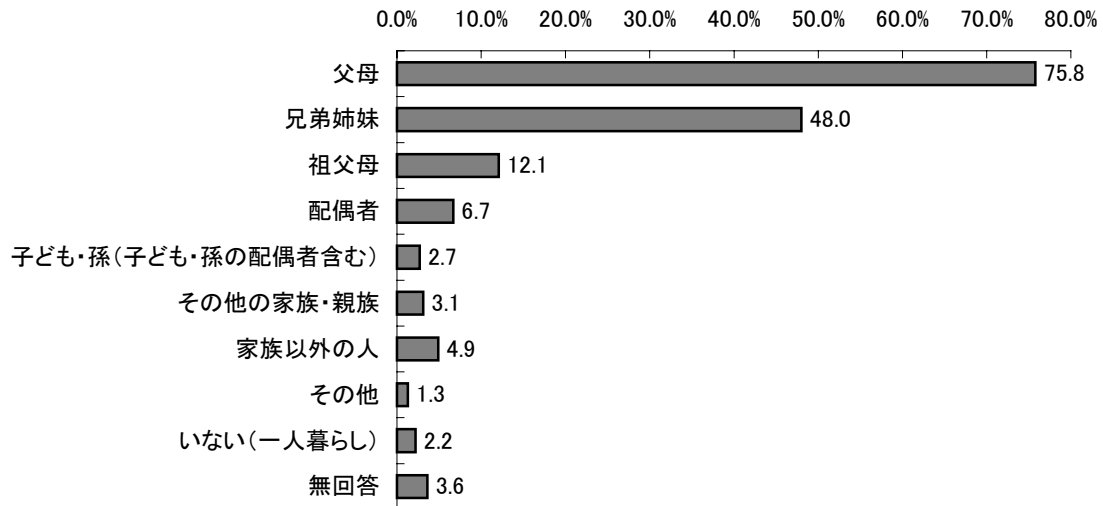
	調査数「n」 (人)	食事が配膳を しなくて いけないこと (配食サービス がないことなど)	昼間の介護を 頼める人が いないこと	掃除や洗濯等 の家事の 手伝いを頼 める人がい ないこと	生活するのに 十分な収 入があること	家族と同居 できること	夜間の介護を 頼める人が いないこと	デイサービス や共同作業 所等に 通えること	
全体	75	33.3	21.3	18.7	18.7	14.7	12.0	12.0	
障害程度別の	療育手帳A	50	28.0	22.0	14.0	18.0	14.0	14.0	
	療育手帳B	18	50.0	22.2	27.8	22.2	11.1	5.6	
	無回答	7	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	
入所施設別の	知的障害者更生施設	52	34.6	19.2	15.4	17.3	19.2	11.5	13.5
	知的障害者授産施設	7	57.1	14.3	42.9	28.6	-	-	14.3
	知的障害者福祉ホーム	1	-	-	-	-	-	-	-
	知的障害者通所寮	1	100.0	-	-	-	-	-	-
	知的障害児のための入所施設	8	12.5	25.0	12.5	25.0	-	12.5	-
	介護保険施設	2	-	50.0	-	-	-	50.0	-
	その他の高齢者向け施設	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
	その他	1	-	100.0	-	-	100.0	100.0	-
	無回答	2	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0

	調査数「n」 (人)	主治医や医療 機関が近 くにあること	間接的な共同 生活できる場 があること	グループホーム 等の仲間 がいること	緊急時に宿泊 できること （ショートステイ など）	地域で相談でき る場所があること	ガイドヘルパー やタクシー等 の外出支 援サービスがあること	その他	特 に な い	無 回 答
全体	75	12.0	12.0	8.0	8.0	4.0	4.0	4.0	18.7	13.3
障害程度別の	療育手帳A	50	8.0	8.0	12.0	4.0	4.0	4.0	24.0	14.0
	療育手帳B	18	22.2	22.2	-	16.7	5.6	5.6	11.1	5.6
	無回答	7	14.3	14.3	-	14.3	-	-	-	28.6
入所施設別の	知的障害者更生施設	52	11.5	9.6	5.8	7.7	3.8	5.8	19.2	13.5
	知的障害者授産施設	7	14.3	28.6	14.3	28.6	-	-	-	14.3
	知的障害者福祉ホーム	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	知的障害者通所寮	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	知的障害児のための入所施設	8	25.0	12.5	12.5	-	-	-	37.5	12.5
	介護保険施設	2	-	-	-	-	-	-	-	50.0
	その他の高齢者向け施設	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-

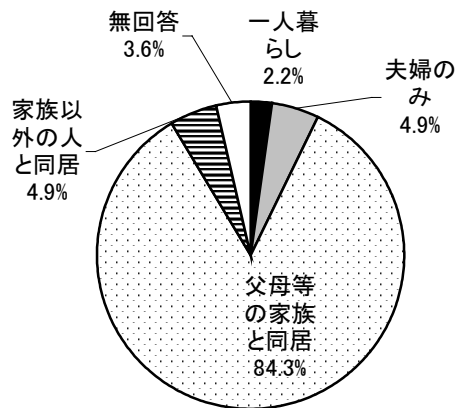
(7) 在宅生活者の同居家族

問14から問17は、福祉施設以外のところで生活されている方のみお答えください。
 問14 あなたは、現在、どなたと同居していますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-31 在宅生活者の同居家族】(n=223)



【図表 3-2-32 在宅生活者の家族構成】(n=223)



在宅生活者の同居家族は、「父母」(75.8%)が最も多く、次いで「兄弟姉妹」(48.0%)、「祖父母」(12.1%)となっている。

同居家族をもとに家族構成を整理すると、「父母等の家族と同居」(84.3%)が8割を超えて最も多い。

年齢別にみると、すべての年齢層で「父母等の家族と同居」が最も多い。

第3章 調査結果[知的障害者（児）調査]

【図表 3-2-33 年齢別 在宅生活者の同居家族】（%）

	調査数「n」 (人)	父母	兄弟姉妹	祖父母	配偶者	子ども・孫の 配偶者含む	その他の家族・ 親族	家族以外の人	その他	いない（一人暮らし）	無回答
全体	223	75.8	48.0	12.1	6.7	2.7	3.1	4.9	1.3	2.2	3.6
年齢別	17歳以下	73	98.6	80.8	23.3	-	4.1	-	-	-	1.4
	18～29歳	46	76.1	50.0	19.6	6.5	4.3	-	6.5	-	2.2
	30～39歳	48	72.9	20.8	-	10.4	6.3	4.2	6.3	2.1	8.3
	40～49歳	23	56.5	17.4	-	4.3	-	4.3	8.7	-	8.7
	50～59歳	19	47.4	26.3	5.3	10.5	-	5.3	15.8	-	5.3
	60～64歳	3	33.3	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-
	65歳以上	6	-	16.7	-	33.3	16.7	-	-	33.3	-
無回答	5	80.0	60.0	-	20.0	-	-	-	-	-	

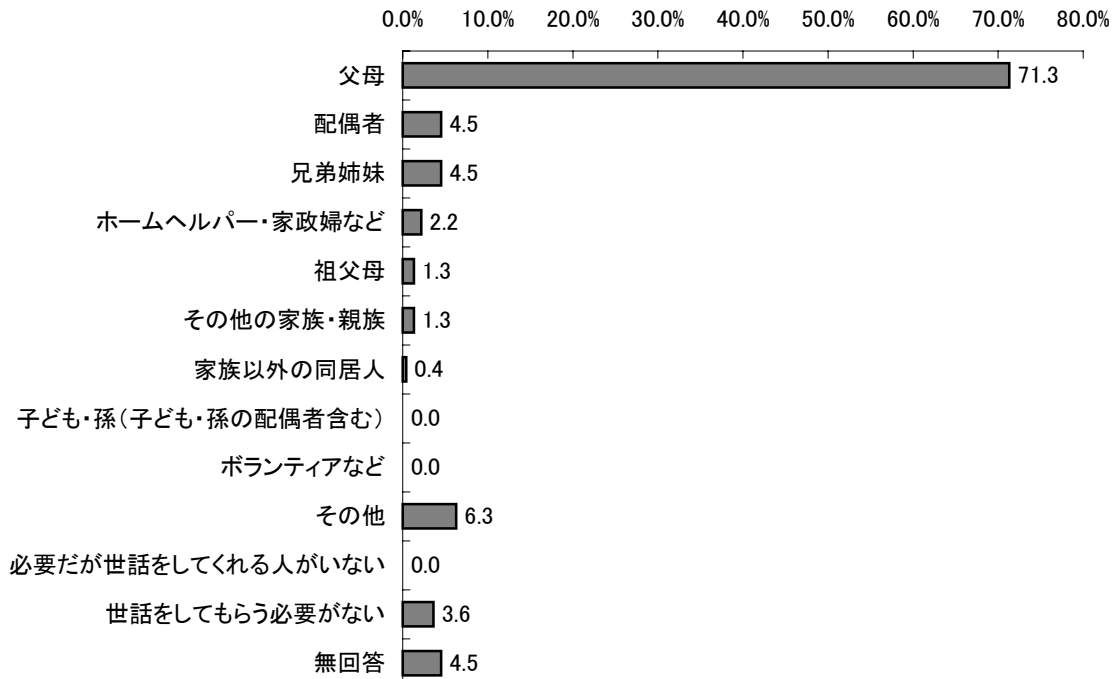
【図表 3-2-34 年齢別 在宅生活者の家族構成】（%）

	調査数「n」 (人)	一人暮らし	夫婦のみ	父母等の家族と同居	家族以外の人と同居	無回答	
全体	223	2.2	4.9	84.3	4.9	3.6	
年齢別	17歳以下	73	-	-	98.6	-	1.4
	18～29歳	46	2.2	4.3	84.8	6.5	2.2
	30～39歳	48	-	6.3	79.2	6.3	8.3
	40～49歳	23	13.0	4.3	65.2	8.7	8.7
	50～59歳	19	5.3	5.3	73.7	15.8	-
	60～64歳	3	-	33.3	66.7	-	-
	65歳以上	6	-	33.3	66.7	-	-
無回答	5	-	20.0	80.0	-	-	

(8) 在宅生活者の主な介助者

問15 あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。(〇は1つだけ)

【図表 3-2-35 在宅生活者の主な介助者】(n=223)



在宅生活者の主な介助者は、「父母」(71.3%)が7割を超えて最も多い。

年齢別にみると、17歳以下では「父母」(94.5%)が9割を占めて最も多いが、この割合は加齢とともに低下し、かわって「兄弟姉妹」の割合が高くなり、50歳代以上では1割を超えている。

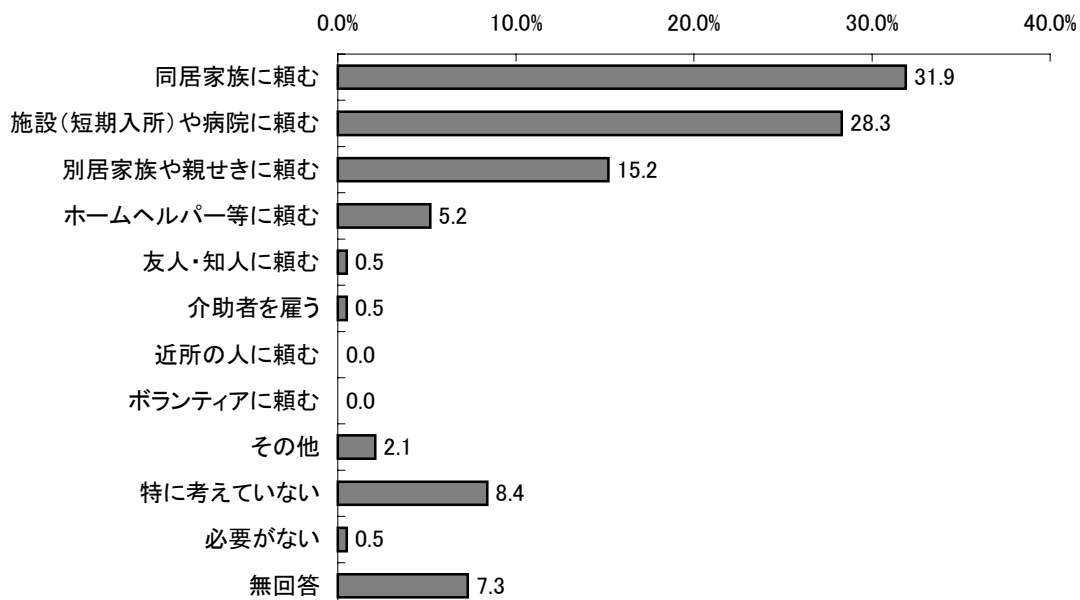
【図表 3-2-36 年齢別 在宅生活者の主な介助者】(%)

	調査数「n」 (人)	父母	配偶者	兄弟姉妹	ホームヘルパー・家政婦など	祖父母	その他の家族・親族	家族以外の同居人	子ども・孫(子ども・孫の配偶者含む)	ボランティアなど	その他	必要だが世話をしてくれる人がいない	世話をしてもらう必要がない	無回答
全体	223	71.3	4.5	4.5	2.2	1.3	1.3	0.4	-	-	6.3	-	3.6	4.5
年齢別	17歳以下	73	94.5	-	-	1.4	-	-	-	-	-	-	1.4	2.7
	18～29歳	46	73.9	6.5	2.2	-	-	-	-	-	6.5	-	4.3	4.3
	30～39歳	48	64.6	4.2	2.1	6.3	-	2.1	-	-	4.2	-	8.3	8.3
	40～49歳	23	52.2	4.3	8.7	-	4.3	8.7	-	-	13.0	-	4.3	4.3
	50～59歳	19	47.4	-	15.8	5.3	5.3	5.3	-	-	15.8	-	-	5.3
	60～64歳	3	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	65歳以上	6	-	33.3	16.7	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
	無回答	5	80.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(9) 在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法

問15-1 (問15で1～9のいずれかを選んだ方のみお答えください) 身の回りの世話をしている方が、万一病気や事故などで、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-37 在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法】(n=191)



在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法は、「同居家族に頼む」(31.9%)が最も多く、次いで「施設(短期入所)や病院に頼む」(28.3%)、「別居家族や親せきに頼む」(15.2%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Aでは「施設(短期入所)や病院に頼む」(37.4%)が最も多く、4割弱を占めている。

家族構成別にみると、一人暮らしや夫婦のみの場合は、他に比べて「ホームヘルパー等に頼む」などの割合が高い。

【図表 3-2-38 障害の程度別・家族構成別

在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法】（％）

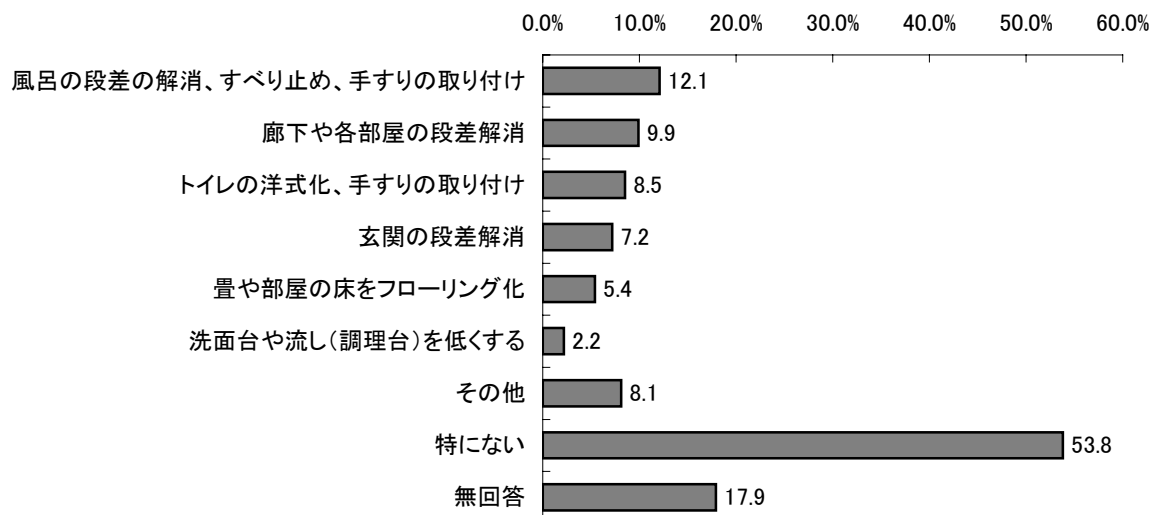
		調査数「n」（人）	同居家族に頼む	施設（短期入所）や病院に頼む	別居家族や親せきに頼む	ホームヘルパー等に頼む	友人・知人に頼む	介助者を雇う
全 体		191	31.9	28.3	15.2	5.2	0.5	0.5
程 度 害 別 の	療育手帳A	107	30.8	37.4	11.2	6.5	-	0.9
	療育手帳B	78	33.3	17.9	20.5	3.8	1.3	-
	無回答	6	33.3	-	16.7	-	-	-
家 族 構 成 別	一人暮らし	4	-	25.0	-	25.0	-	-
	夫婦のみ	11	36.4	9.1	9.1	18.2	-	-
	父母等の家族と同居	173	32.9	30.1	16.2	3.5	0.6	0.6
	家族以外の人と同居	2	-	-	-	50.0	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	-

		調査数「n」（人）	近所の人に頼む	ボランティアに頼む	その他	特に考えていない	必要がない	無回答
全 体		191	-	-	2.1	8.4	0.5	7.3
程 度 害 別 の	療育手帳A	107	-	-	1.9	5.6	-	5.6
	療育手帳B	78	-	-	2.6	11.5	-	9.0
	無回答	6	-	-	-	16.7	16.7	16.7
家 族 構 成 別	一人暮らし	4	-	-	-	25.0	-	25.0
	夫婦のみ	11	-	-	-	18.2	-	9.1
	父母等の家族と同居	173	-	-	1.7	7.5	0.6	6.4
	家族以外の人と同居	2	-	-	50.0	-	-	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	100.0

(10) 住まいの改造希望

問16 現在の住まいで、使い勝手が悪いところや、改造したい（してほしい）ところがありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-39 住まいの改造希望】（n=223）



現在の住まいで改造したいところについては「特にない」（53.8%）が過半数を占めて最も多く、次いで「風呂の段差の解消、すべり止め、手すりの取り付け」（12.1%）となっている。

障害の程度別にみると、住まいの改造意向は療育手帳BよりAで高く、具体的な改造希望場所についてはいずれの項目においても療育手帳AがBを上回っている。

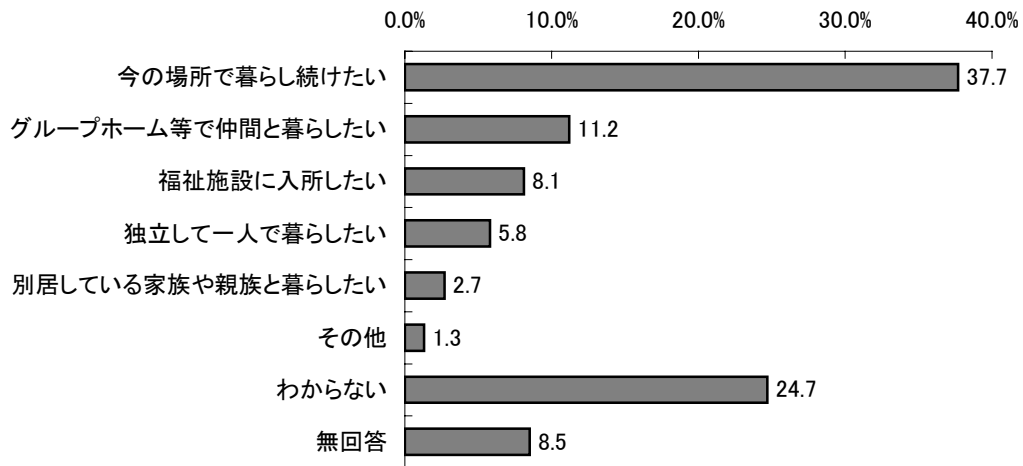
【図表 3-2-40 障害の程度別 住まいの改造希望】 (%)

	調査数「n」（人）	リベ 付 け 止 め 、 手 す り の 取 す	風 呂 の 段 差 の 解 消 、 す べ り 止 め	消 廊 下 や 各 部 屋 の 段 差 解 消	リ ト イ レ の 取 り 付 け の 洋 式 化 、 手 す り	玄 関 の 段 差 解 消	リ 置 や 部 屋 の 床 を フ ロ ー リ ン グ 化	台 洗 面 台 や 流 し （ 調 理 台 ） を 低 く す る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	223	12.1	9.9	8.5	7.2	5.4	2.2	8.1	53.8	17.9	
程 障 度 害 別 の	療育手帳A	121	18.2	16.5	10.7	11.6	5.8	4.1	6.6	44.6	21.5
	療育手帳B	96	4.2	2.1	6.3	2.1	5.2	-	10.4	64.6	13.5
	無回答	6	16.7	-	-	-	-	-	-	66.7	16.7

(1.1) 在宅生活者が希望する将来の暮らし方

問17 あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-41 在宅生活者が希望する将来の暮らし方】(n=223)



在宅生活者が希望する将来の暮らし方は、「今この場所で暮らし続けたい」(37.7%)が最も多く、次いで「わからない」(24.7%)、「グループホーム等で仲間と暮らしたい」(11.2%)となっている。

「今この場所で暮らし続けたい」「独立して一人で暮らしたい」「別居している家族や親族と暮らしたい」「グループホーム等で仲間と暮らしたい」をあわせると、自宅や地域で生活したいと考えている人が57.4%を占めており、これに対して福祉施設入所希望者(「福祉施設に入所したい」)は8.1%となっている。

年齢別にみると、17歳以下では「わからない」(39.7%)が最も多いが、その他の年齢層では「今この場所で暮らし続けたい」が最も多い。また、30歳代以下では他の年齢層に比べて「独立して一人で暮らしたい」や「グループホーム等で仲間と暮らしたい」の割合が高い。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bいずれにおいても「今この場所で暮らし続けたい」が最も多いが、「福祉施設に入所したい」や「グループホーム等で仲間と暮らしたい」などの割合は療育手帳BよりAで高く、「独立して一人で暮らしたい」の割合は療育手帳AよりBで高い。

【図表 3-2-42 年齢別・障害の程度別・家族構成別 在宅生活者が希望する将来の暮らし方】(%)

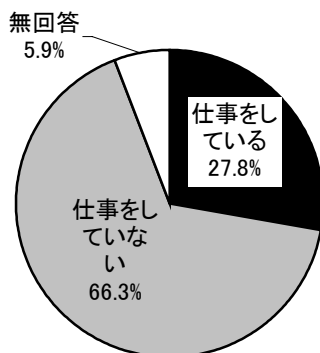
	(調査人数「n」)	今この場所で暮らしたい (%)	グループホームと暮らしたい (%)	福祉施設に入所したい (%)	独立して一人で暮らしたい (%)	別居している家族と暮らしたい (%)	その他 (%)	わからない (%)	無回答 (%)	
全体	223	37.7	11.2	8.1	5.8	2.7	1.3	24.7	8.5	
年齢別	17歳以下	73	30.1	12.3	4.1	4.1	-	-	39.7	9.6
	18～29歳	46	39.1	17.4	6.5	10.9	-	2.2	21.7	2.2
	30～39歳	48	35.4	14.6	12.5	10.4	2.1	2.1	12.5	10.4
	40～49歳	23	56.5	-	8.7	-	8.7	-	21.7	4.3
	50～59歳	19	42.1	5.3	10.5	-	5.3	-	21.1	15.8
	60～64歳	3	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-
	65歳以上	6	16.7	-	16.7	-	16.7	16.7	16.7	16.7
無回答	5	60.0	-	-	-	20.0	-	-	20.0	
度の障害別	療育手帳A	121	32.2	16.5	12.4	0.8	3.3	1.7	21.5	11.6
	療育手帳B	96	42.7	5.2	3.1	12.5	1.0	1.0	29.2	5.2
	無回答	6	66.7	-	-	-	16.7	-	16.7	-
成家別族構	一人暮らし	5	40.0	-	-	-	-	20.0	20.0	20.0
	夫婦のみ	11	36.4	9.1	-	18.2	9.1	-	27.3	-
	父母等の家族と同居	188	39.4	11.7	9.6	4.3	1.6	1.1	26.1	6.4
	家族以外の人と同居	11	27.3	18.2	-	27.3	18.2	-	9.1	-
	無回答	8	12.5	-	-	-	-	-	12.5	75.0

3. 就労について

(1) 就労状況

問18 あなたは現在仕事をしていますか。

【図表 3-2-43 就労状況】(n=306)



回答者の27.8%は現在仕事をしている。

年齢別にみると、仕事をしている人の割合は、18～29歳（49.2%）で最も高く、次いで40歳代（40.5%）、30歳代（36.2%）となっている。

障害の程度別にみると、仕事をしている人の割合は、障害の程度が軽い療育手帳B（36.5%）がA（19.9%）を上回っている。

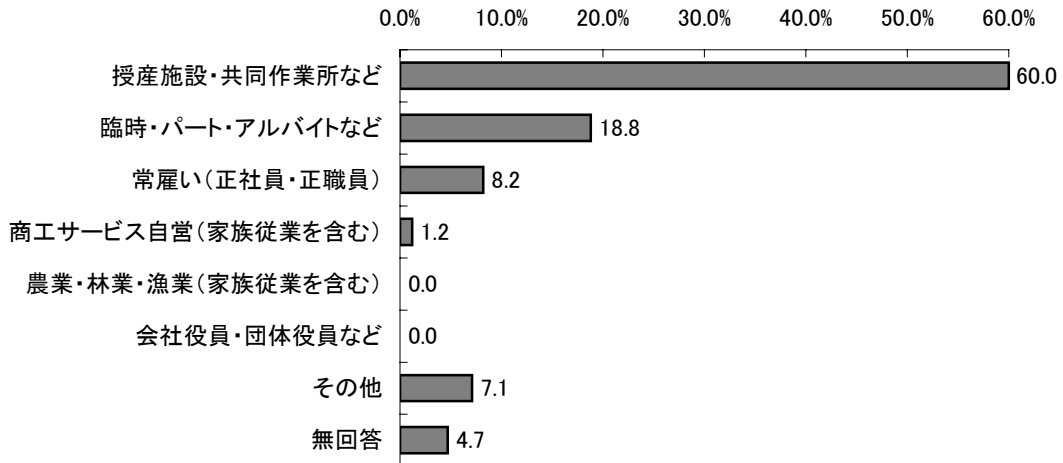
【図表 3-2-44 性別・年齢別・障害の程度別 就労状況】(%)

		調査数「n」 (人)	仕事をしている	仕事をしていない	無回答
全 体		306	27.8	66.3	5.9
性別	男性	178	28.1	67.4	4.5
	女性	125	27.2	65.6	7.2
	無回答	3	33.3	33.3	33.3
年齢別	17歳以下	74	-	98.6	1.4
	18～29歳	61	49.2	47.5	3.3
	30～39歳	69	36.2	53.6	10.1
	40～49歳	37	40.5	56.8	2.7
	50～59歳	35	22.9	65.7	11.4
	60～64歳	8	25.0	62.5	12.5
	65歳以上	11	-	90.9	9.1
	無回答	11	45.5	45.5	9.1
障害程度別の	療育手帳A	176	19.9	71.6	8.5
	療育手帳B	115	36.5	61.7	1.7
	無回答	15	53.3	40.0	6.7

(2) 仕事の種類

問18-1 (仕事をしている方のみお答えください) あなたはどのような仕事をしていますか。(〇は1つだけ)

【図表 3-2-45 仕事の種類】(n=85)



仕事の種類は、「授産施設・共同作業所など」(60.0%)が6割を占めて最も多く、次いで「臨時・パート・アルバイトなど」(18.8%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bのいずれにおいても「授産施設・共同作業所など」が最も多いが、その割合は療育手帳B(42.9%)よりA(82.9%)で高く、8割を超えている。

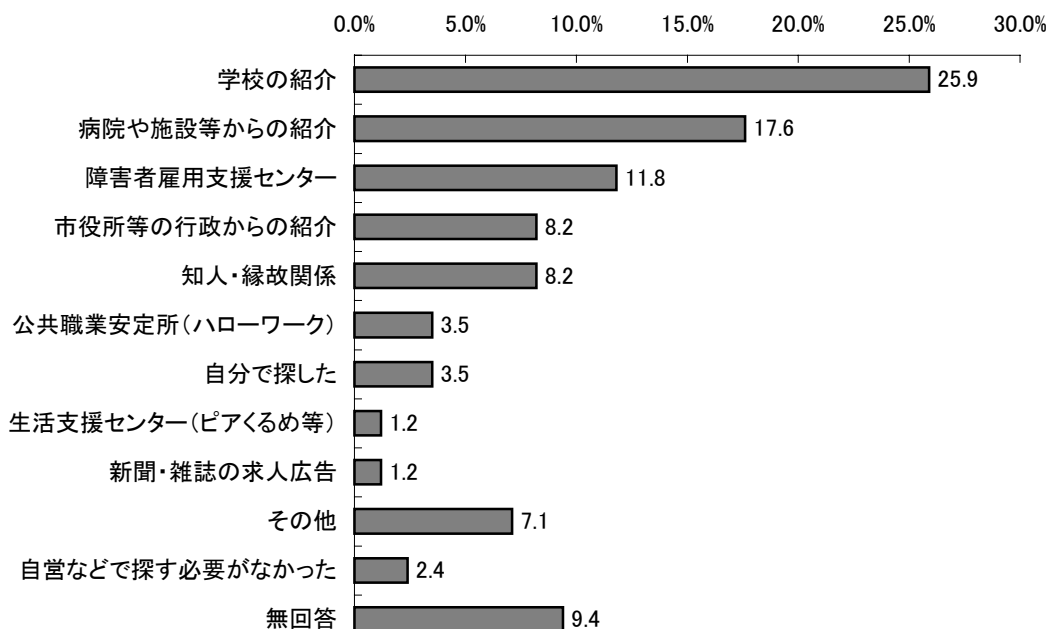
【図表 3-2-46 障害の程度別 仕事の種類】(%)

障害程度別の	調査数「n」(人)	授産施設・共同作業所	臨時・パート・アルバイト	常雇い(正社員・正職員)	商工サービス自営(家族従業を含む)	農業・林業・漁業(家族従業を含む)	会社役員・団体役員など	その他	無回答
		全体	85	60.0	18.8	8.2	1.2	-	-
療育手帳A	35	82.9	8.6	-	-	-	-	2.9	5.7
療育手帳B	42	42.9	31.0	14.3	2.4	-	-	9.5	-
無回答	8	50.0	-	12.5	-	-	-	12.5	25.0

(3) 仕事を見つけた方法

問18-2 (仕事をしている方のみお答えください) 仕事はどのような方法で見つけましたか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-47 仕事を見つけた方法】(n=85)



仕事を見つけた方法は、「学校の紹介」(25.9%)が最も多く、次いで「病院や施設等からの紹介」(17.6%)、「障害者雇用支援センター」(11.8%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳AはBに比べて「市役所等の行政からの紹介」(14.3%)などの割合が高く、療育手帳BはAに比べて「障害者雇用支援センター」(21.4%)などの割合が高い。

【図表 3-2-48 障害の程度別 仕事を見つけた方法】(%)

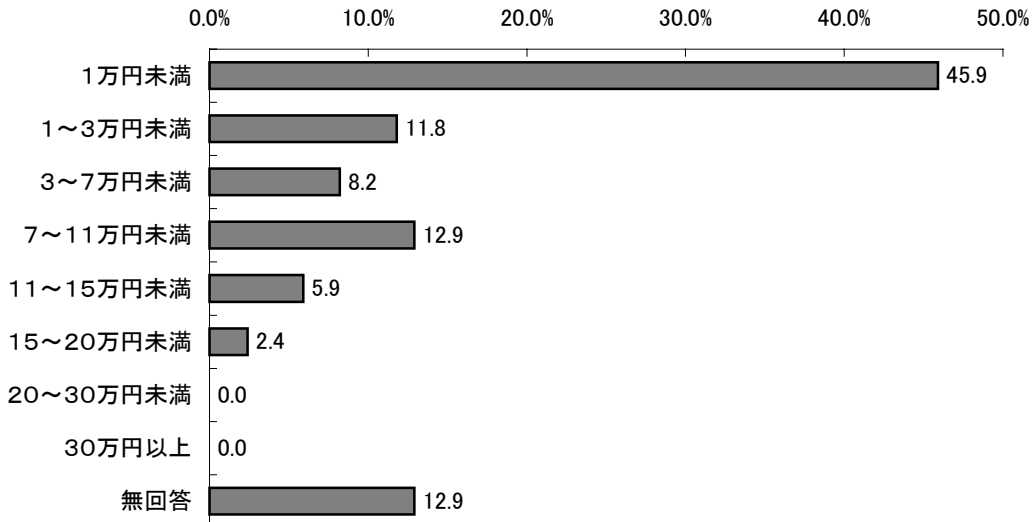
	調査数「n」(人)	学校の紹介	病院や施設等からの紹介	障害者雇用支援センター	市役所等の行政からの紹介	知人・縁故関係	公共職業安定所(ハローワーク)
全体	85	25.9	17.6	11.8	8.2	8.2	3.5
程度別							
療育手帳A	35	31.4	14.3	-	14.3	8.6	-
療育手帳B	42	21.4	21.4	21.4	4.8	9.5	4.8
無回答	8	25.0	12.5	12.5	-	-	12.5

	調査数「n」(人)	自分で探した	生活支援センター(ピアくるめ等)	新聞・雑誌の求人広告	その他	自営などで探す必要がなかった	無回答
全体	85	3.5	1.2	1.2	7.1	2.4	9.4
程度別							
療育手帳A	35	2.9	-	-	5.7	2.9	20.0
療育手帳B	42	4.8	2.4	2.4	4.8	2.4	-
無回答	8	-	-	-	25.0	-	12.5

(4) 月収

問18-3 (仕事をしている方のみお答えください) あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-49 月収】(n=85)



仕事で得る月収は、「1万円未満」(45.9%)が半数弱を占めて最も多く、次いで「7~11万円未満」(12.9%)、「1~3万円未満」(11.8%)となっている。月収20万円以上の人はおらず、全体の7割弱(65.9%)は月収7万円未満である。

仕事の種類別にみると、授産施設・共同作業所などでは、「1万円未満」が最も多く、68.6%となっている。

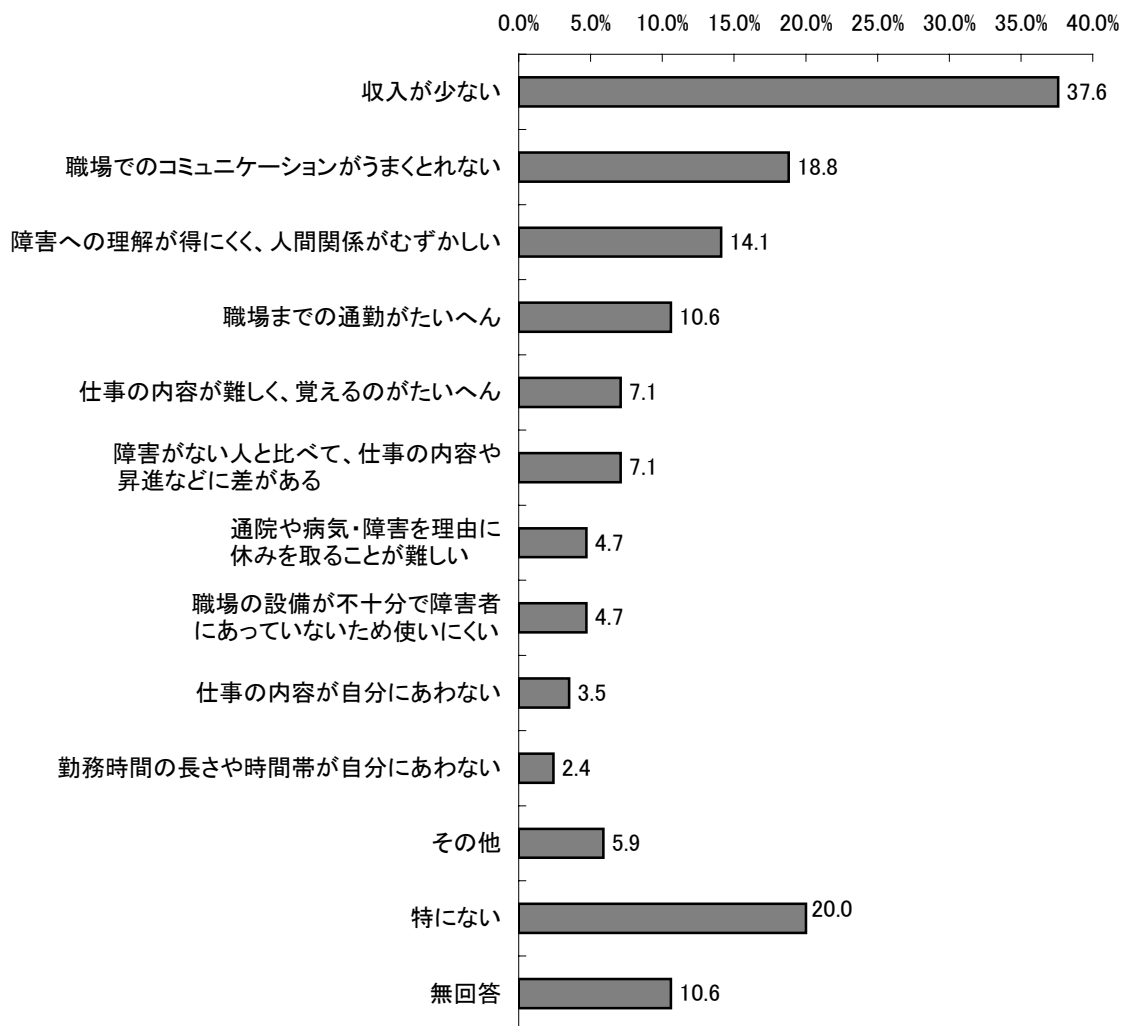
【図表 3-2-50 仕事の種類別 月収】(%)

仕事の種類別	調査数「n」(人)	月収 (%)							無回答	
		1万円未満	1~3万円未満	3~7万円未満	7~11万円未満	11~15万円未満	15~20万円未満	20~30万円未満		30万円以上
全体	85	45.9	11.8	8.2	12.9	5.9	2.4	-	-	12.9
農業・林業・漁業(家族従業員を含む)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
商工サービス自営(家族従業員を含む)	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
会社役員・団体役員など	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
常雇い(正社員・正職員)	7	-	-	14.3	28.6	57.1	-	-	-	-
臨時・パート・アルバイトなど	16	12.5	12.5	12.5	50.0	6.3	6.3	-	-	-
授産施設・共同作業所など	51	68.6	15.7	2.0	-	-	-	-	-	13.7
その他	6	33.3	-	33.3	16.7	-	-	-	-	16.7
無回答	4	-	-	-	-	-	25.0	-	-	75.0

(5) 仕事上の悩みや困っていること

問18-4 (仕事をしている方のみお答えください) 仕事のことによって悩んでいることや困っていることがありますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-51 仕事上の悩みや困っていること】(n=85)



仕事上の悩みや困っていることは、「収入が少ない」(37.6%)が最も多く、次いで「特にない」(20.0%)、「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」(18.8%)、「障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい」(14.1%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bのいずれにおいても「収入が少ない」が最も多いが、療育手帳BはAに比べて「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」(28.6%)や「障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい」(23.8%)などの割合が高い。

仕事の種類別にみると、授産施設・共同作業所などでは「収入が少ない」(41.2%)が最も多いが、常雇いや臨時・パート・アルバイトなどでは「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」や「障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい」が最も多い。また、常雇いは他に比べて全般的に悩み・困っていることの割合が高い。

【図表 3-2-52 障害の程度別・仕事の種類別 仕事上の悩みや困っていること】(%)

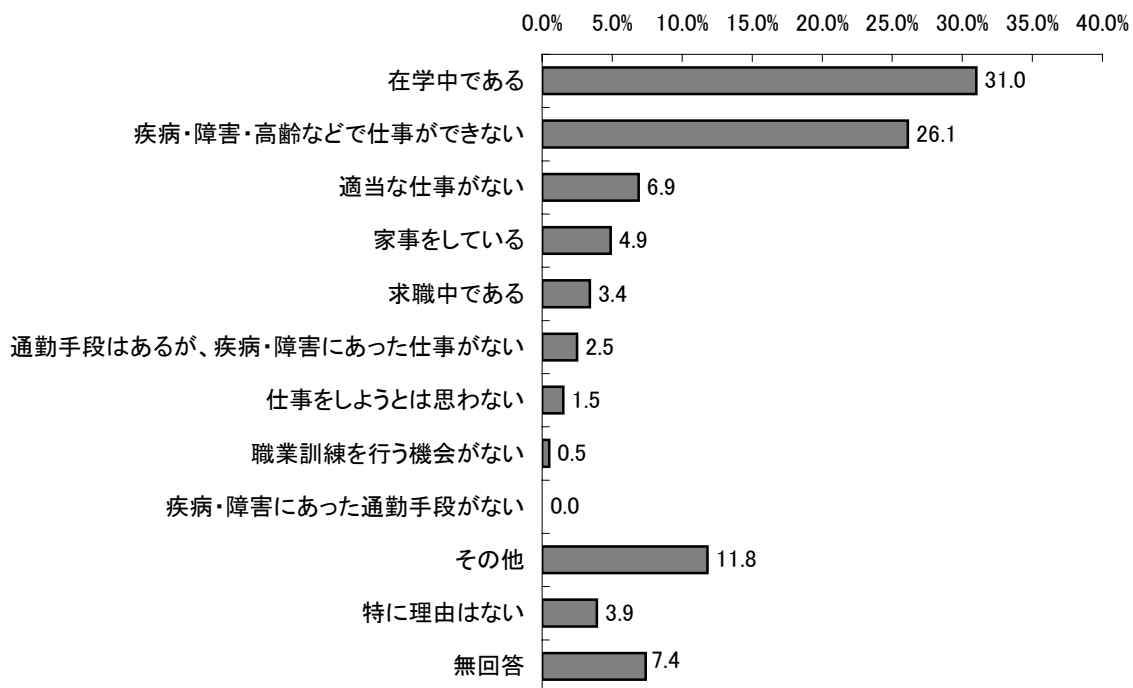
	調査数「n」 (人)	収入が 少ない	職場 での コミュ ニケー ション が うまく ない	障 害 者 へ の 理 解 が 得 ず に か く	職 場 ま で の 通 勤 が た い へ ん	仕 事 の 内 容 が た い 難 へ ん、 覚 え る の 内 容 が た い 難 へ ん、	障 害 に 差 が あ る 内 容 と 比 べ 進 進	
全 体	85	37.6	18.8	14.1	10.6	7.1	7.1	
程 障 度 害 別 の	療育手帳A	35	37.1	8.6	2.9	5.7	5.7	-
	療育手帳B	42	33.3	28.6	23.8	11.9	7.1	9.5
	無回答	8	62.5	12.5	12.5	25.0	12.5	25.0
仕 事 の 種 類 別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス自営（家族従業を含む）	1	100.0	-	-	-	-	100.0
	会社役員・団体役員など	-	-	-	-	-	-	-
	常雇い（正社員・正職員）	7	28.6	42.9	42.9	28.6	14.3	28.6
	臨時・パート・アルバイトなど	16	25.0	31.3	31.3	6.3	12.5	6.3
	授産施設・共同作業所など	51	41.2	15.7	7.8	9.8	3.9	2.0
	その他	6	50.0	-	-	-	-	16.7
	無回答	4	25.0	-	-	25.0	25.0	-

	調査数「n」 (人)	難 し い 休 み を 取 る 障 害 を 理 解 し な い	通 院 や 病 を 取 る 障 害 を 理 解 し な い	障 害 者 の 設 備 が 不 十 分 な い	職 場 の 内 容 が 自 分 に あ わ な い	仕 事 の 内 容 が 自 分 に あ わ な い	帯 勤 が 自 分 の 長 さ や 時 間 に あ わ な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	85	4.7	4.7	3.5	2.4	5.9	20.0	10.6		
程 障 度 害 別 の	療育手帳A	35	-	2.9	-	-	-	25.7	22.9	
	療育手帳B	42	7.1	7.1	2.4	4.8	11.9	16.7	2.4	
	無回答	8	12.5	-	25.0	-	-	12.5	-	
仕 事 の 種 類 別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	-	-	-	-	-	-	-	-	
	商工サービス自営（家族従業を含む）	1	100.0	-	-	-	-	-	-	
	会社役員・団体役員など	-	-	-	-	-	-	-	-	
	常雇い（正社員・正職員）	7	28.6	14.3	-	14.3	-	-	-	
	臨時・パート・アルバイトなど	16	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	31.3	-	
	授産施設・共同作業所など	51	-	3.9	3.9	-	5.9	17.6	17.6	
	その他	6	-	-	-	-	16.7	33.3	-	
	無回答	4	-	-	-	-	-	25.0	-	

(6) 仕事をしていない理由

問18-5 (仕事をしていない方のみお答えください) 仕事をしていないのは、主にどのような理由によりますか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-53 仕事をしていない理由】(n=203)



仕事をしていない理由は、「在学中である」(31.0%)が最も多く、次いで「疾病・障害・高齢などで仕事ができない」(26.1%)となっている。

年齢別にみると、17歳以下では「在学中である」が最も多く、18歳以上では60～64歳を除いて「疾病・障害・高齢などで仕事ができない」が最も多い。

なお、18歳～40歳代では「適当な仕事がない」の割合が高く、それぞれ1割を超えている。また、18～29歳では「求職中である」(10.3%)も1割を超えて高い。

【図表 3-2-54 性別・年齢別・障害の程度別 仕事をしていない理由】（％）

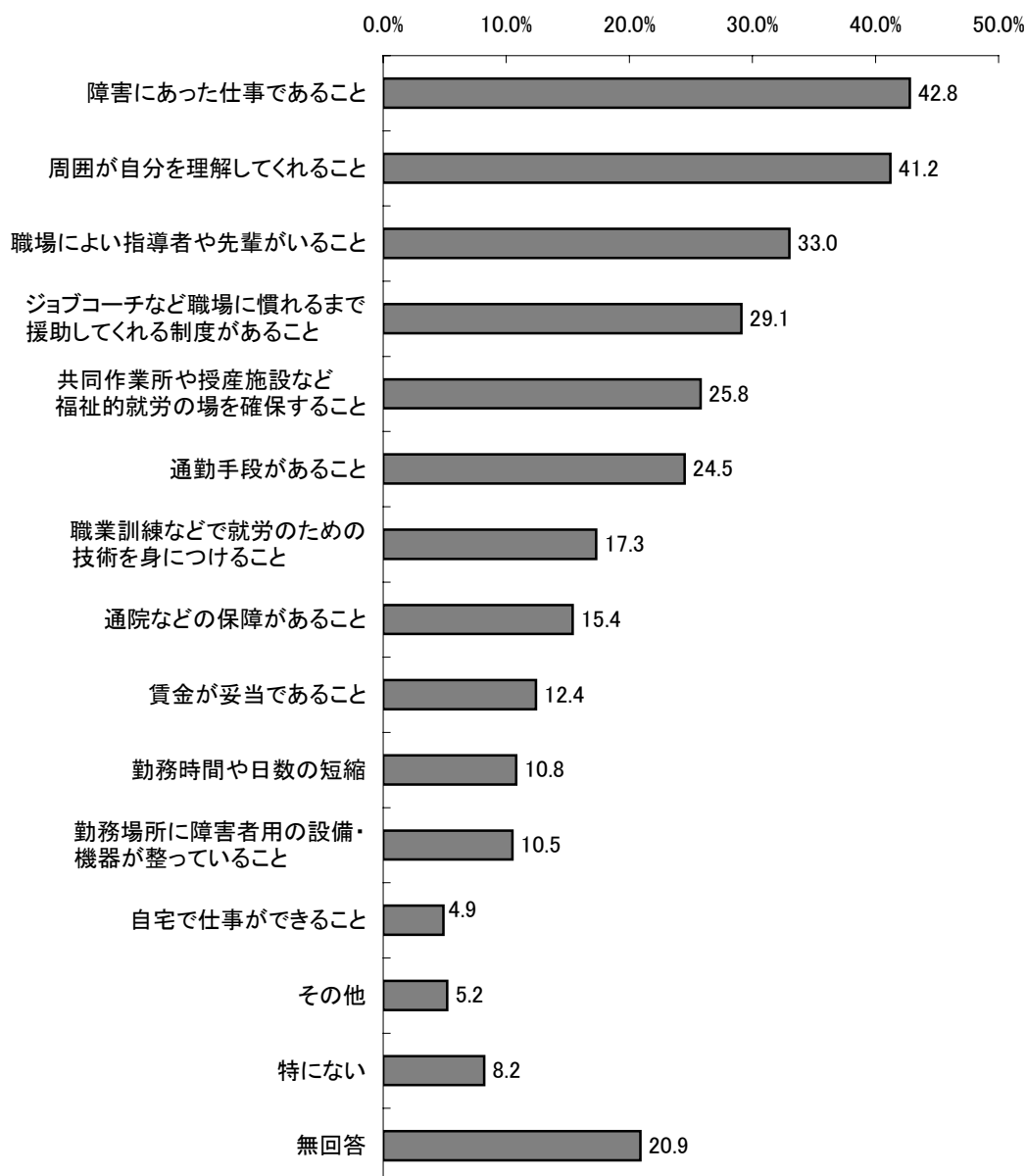
		調査数「n」 （人）	在学中である	で疾病・障害・高齢などで仕事ができない	適当な仕事がない	家事をしている	求職中である	病・障害はあるが、仕事がない
全体		203	31.0	26.1	6.9	4.9	3.4	2.5
性別	男性	120	43.3	19.2	6.7	1.7	4.2	3.3
	女性	82	13.4	36.6	7.3	9.8	2.4	1.2
	無回答	1	-	-	-	-	-	-
年齢別	17歳以下	73	82.2	-	-	1.4	1.4	-
	18～29歳	29	10.3	34.5	13.8	3.4	10.3	3.4
	30～39歳	37	-	35.1	13.5	5.4	5.4	2.7
	40～49歳	21	-	28.6	19.0	19.0	4.8	-
	50～59歳	23	-	52.2	-	8.7	-	8.7
	60～64歳	5	-	20.0	-	-	-	20.0
	65歳以上	10	-	80.0	-	-	-	-
	無回答	5	-	60.0	20.0	-	-	-
障害程度別の	療育手帳A	126	30.2	34.1	4.0	4.0	-	1.6
	療育手帳B	71	33.8	9.9	9.9	7.0	9.9	4.2
	無回答	6	16.7	50.0	33.3	-	-	-

		調査数「n」 （人）	仕事をしようとは思わない	職業訓練を行う機会がない	疾病・障害にあった通	その他	特に理由はない	無回答
全体		203	1.5	0.5	-	11.8	3.9	7.4
性別	男性	120	2.5	-	-	10.0	5.0	4.2
	女性	82	-	1.2	-	14.6	2.4	11.0
	無回答	1	-	-	-	-	-	100.0
年齢別	17歳以下	73	-	-	-	13.7	-	1.4
	18～29歳	29	-	-	-	13.8	6.9	3.4
	30～39歳	37	2.7	2.7	-	8.1	8.1	16.2
	40～49歳	21	4.8	-	-	9.5	-	14.3
	50～59歳	23	-	-	-	4.3	8.7	17.4
	60～64歳	5	-	-	-	40.0	20.0	-
	65歳以上	10	10.0	-	-	10.0	-	-
	無回答	5	-	-	-	20.0	-	-
障害程度別の	療育手帳A	126	1.6	-	-	11.9	4.8	7.9
	療育手帳B	71	1.4	1.4	-	12.7	2.8	7.0
	無回答	6	-	-	-	-	-	-

(7) 仕事をする上で必要な条件整備

問19 (仕事をしている方もしていない方もお答えください) あなたが仕事をするうえで、どのような条件整備が必要ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-55 仕事をする上で必要な条件整備】(n=306)



仕事をする上で必要な条件整備は、「障害にあった仕事であること」(42.8%)が最も多く、次いで「周囲が自分を理解してくれること」(41.2%)、「職場により指導者や先輩がいること」(33.0%)、「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」(29.1%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Aでは「障害にあった仕事であること」(43.8%)が最も多く、Bでは「周囲が自分を理解してくれること」(50.4%)が最も多い。また、療育手帳AはBに比べて「共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること」(31.8%)や「勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること」(14.2%)の割合が高く、BはAに比べて「周囲が自分を理解してくれること」(50.4%)や「職場により指導者や先輩がいること」(42.6%)、「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」(34.8%)などの割合が高い。

就労状況別にみると、現在仕事をしていない人は、仕事をしている人に比べて「障害にあった仕事であること」（49.8%）をはじめ、「職業訓練などで就労のための技術を身につけること」（21.7%）や「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」（34.5%）などの就労支援に関する項目や、「勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること」（13.3%）、「周囲が自分を理解してくれること」（45.8%）などの職場環境の整備に関する項目の割合が高い。

【図表 3-2-56 障害の程度別・就労状況別 仕事をする上で必要な条件整備】（%）

	調査数「n」（人）	障害にあった仕事であること	周囲が自分を理解していること	職場にいるよいう指導者や先輩が先	ジョブコーチなど援助すること	確保する社会的な就労の場を設	通勤手段があること	ためた職業訓練などで身につけること	
全 体	306	42.8	41.2	33.0	29.1	25.8	24.5	17.3	
程 度 害 別 の	療育手帳A	176	43.8	36.4	27.3	26.7	31.8	22.7	15.9
	療育手帳B	115	43.5	50.4	42.6	34.8	16.5	28.7	20.9
	無回答	15	26.7	26.7	26.7	13.3	26.7	13.3	6.7
況 就 別 別 労 状	仕事をしている	85	31.8	38.8	35.3	22.4	27.1	23.5	10.6
	仕事をしていない	203	49.8	45.8	35.0	34.5	27.1	27.1	21.7
	無回答	18	16.7	-	-	-	5.6	-	-

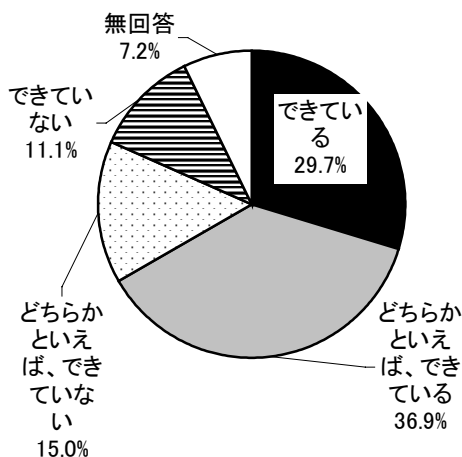
	調査数「n」（人）	通院などの保障があること	賃金が妥当であること	勤務時間や日数の短縮	勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること	自宅で仕事ができること	その他	特にな	無回答	
全 体	306	15.4	12.4	10.8	10.5	4.9	5.2	8.2	20.9	
程 度 害 別 の	療育手帳A	176	14.2	10.2	10.2	14.2	4.0	6.3	8.5	26.7
	療育手帳B	115	19.1	16.5	12.2	6.1	6.1	3.5	8.7	10.4
	無回答	15	-	6.7	6.7	-	6.7	6.7	-	33.3
況 就 別 別 労 状	仕事をしている	85	11.8	12.9	12.9	5.9	1.2	3.5	12.9	11.8
	仕事をしていない	203	17.7	13.3	10.8	13.3	6.9	6.4	6.9	19.7
	無回答	18	5.6	-	-	-	-	-	-	77.8

4. 外出について

(1) 外出の状況

問20 あなたは、ふだん、外出したいと思うところに、外出できていますか。※家族やガイドヘルパー等のつきそい（外出支援）が必要な方は、つきそいがある状態としてお答えください。（○は1つだけ）

【図表 3-2-57 外出の状況】（n=306）



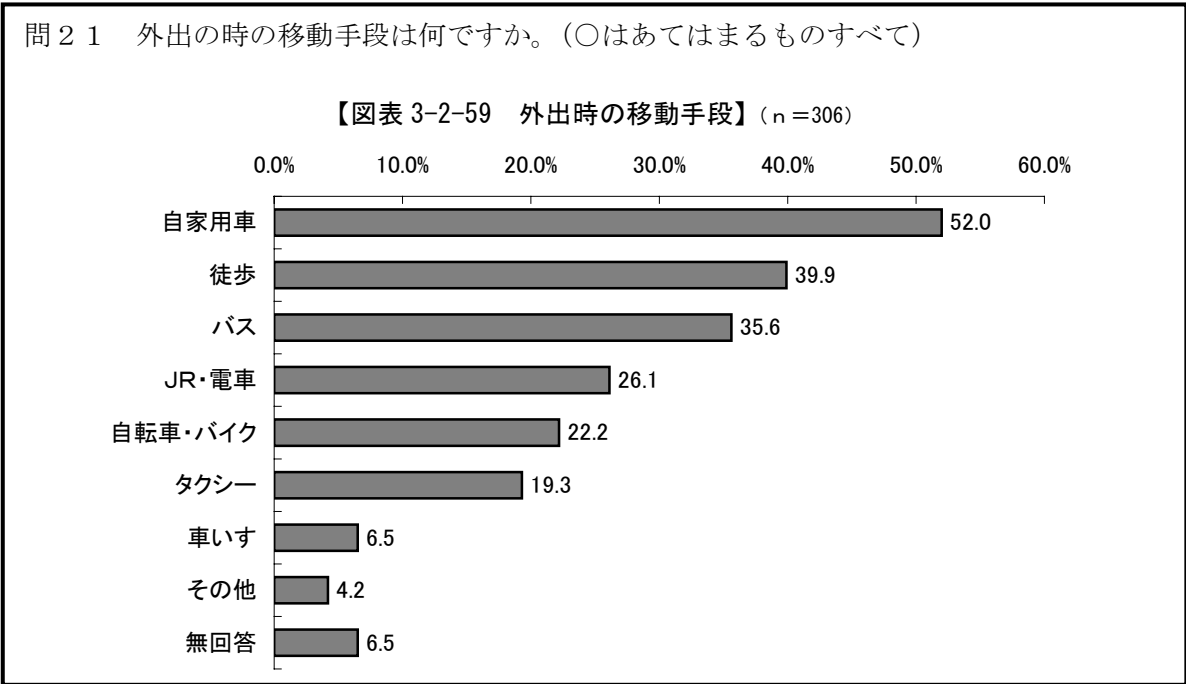
外出したいと思うところに外出できているかという問に対しては、「どちらかといえば、できている」(36.9%)との回答が最も多く、次いで「できている」(29.7%)となっており、これらをあわせると、希望どおりに外出できている人が全体の66.6%を占めている。一方、「どちらかといえば、できていない」(15.0%)・「できていない」(11.1%)をあわせた、希望どおりに外出できていない人は26.1%となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Bでは希望どおりに外出できている人（「できている」+「どちらかといえば、できている」）が84.3%と大半を占めているが、療育手帳Aでは6割弱(55.7%)に留まり、希望どおりに外出できていない人（「どちらかといえば、できていない」+「できていない」）が35.2%と3割を超えている。

【図表 3-2-58 障害の程度別・身体障害者手帳の有無別 外出の状況】(%)

		調査数「n」 (人)	できている	どちらかといえば、できている	どちらかといえば、できていない	できていない	無回答
全体		306	29.7	36.9	15.0	11.1	7.2
障害程度別の	療育手帳A	176	17.6	38.1	18.2	17.0	9.1
	療育手帳B	115	47.8	36.5	11.3	1.7	2.6
	無回答	15	33.3	26.7	6.7	13.3	20.0
無障害身別の者体 有手障	持っている	94	21.3	38.3	12.8	14.9	12.8
	持っていない	183	32.2	39.3	16.4	9.3	2.7
	無回答	29	41.4	17.2	13.8	10.3	17.2

(2) 外出時の移動手段



外出時の移動手段では、「自家用車」(52.0%)が最も多く、次いで「徒歩」(39.9%)、「バス」(35.6%)、「JR・電車」(26.1%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Aでは「自家用車」(64.8%)、Bでは「徒歩」(51.3%)が最も多い。また、障害の程度が軽い療育手帳Bでは、Aに比べて「JR・電車」(39.1%)や「バス」(49.6%)などの公共交通機関や、「自転車・バイク」(41.7%)、「徒歩」(51.3%)の割合が高い。

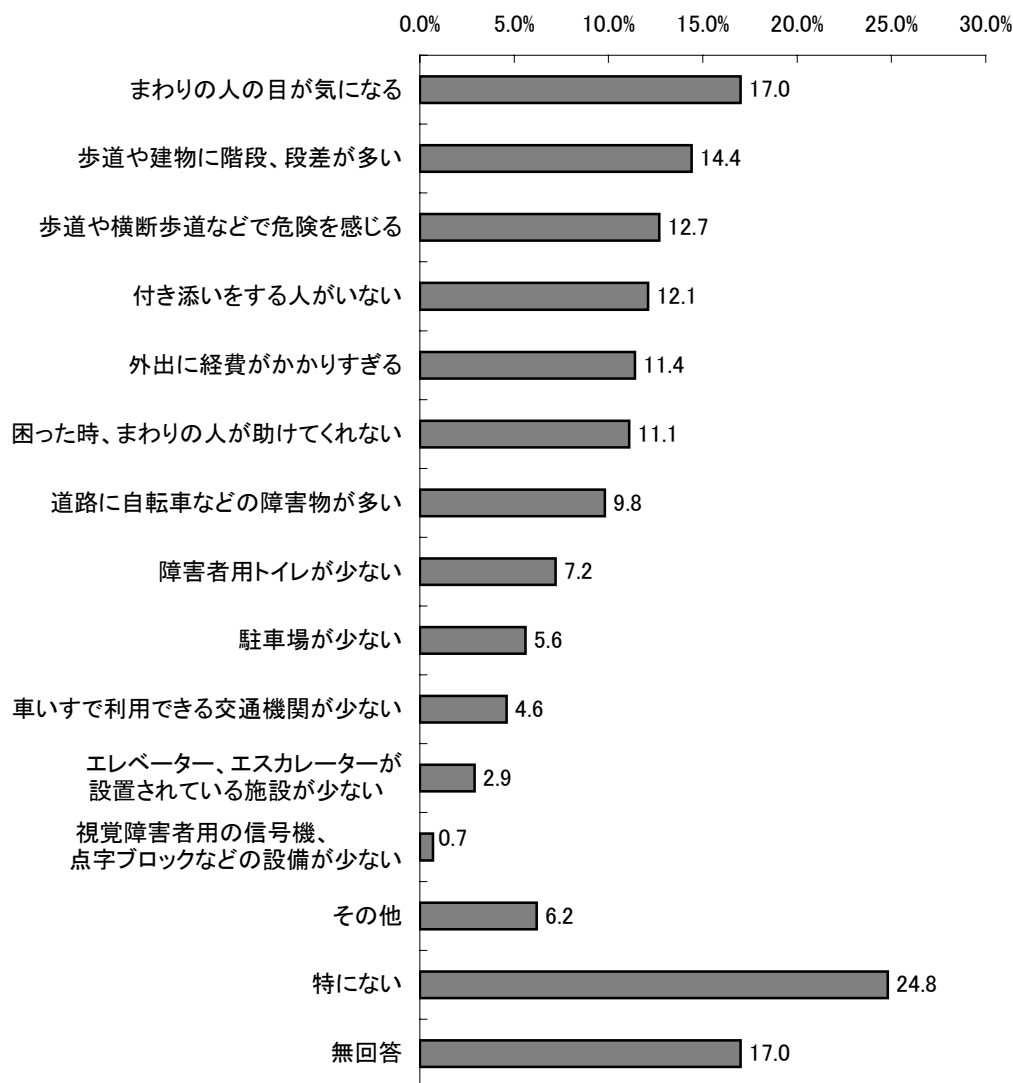
【図表 3-2-60 障害の程度別・身体障害者手帳の有無別 外出時の移動手段】(%)

		調査数「n」 (人)	自家用車	徒歩	バス	JR・電車	自転車・バイク	タクシー	車いす	その他	無回答
全体		306	52.0	39.9	35.6	26.1	22.2	19.3	6.5	4.2	6.5
程度 障害 別の	療育手帳A	176	64.8	33.0	26.7	18.2	8.0	20.5	9.1	5.1	9.7
	療育手帳B	115	36.5	51.3	49.6	39.1	41.7	16.5	1.7	2.6	0.9
	無回答	15	20.0	33.3	33.3	20.0	40.0	26.7	13.3	6.7	13.3
無 帳 害 身 別 の 者 体 有 手 障	持っている	94	46.8	21.3	18.1	10.6	12.8	19.1	21.3	6.4	9.6
	持っていない	183	56.3	49.7	43.7	36.1	28.4	20.2	-	2.7	4.4
	無回答	29	41.4	37.9	41.4	13.8	13.8	13.8	-	6.9	10.3

(3) 外出時に不便や困難を感じること

問22 外出するとき、あなたはどのようなことに不便や困難を感じる人が多いですか。
(○は3つまで)

【図表 3-2-61 外出時に不便や困難を感じること】(n=306)



外出時に不便や困難を感じることは、「特にない」(24.8%)が最も多いが、具体的な内容では「まわりの人の目が気になる」(17.0%)が最も多く、次いで「歩道や建物に階段、段差が多い」(14.4%)となっている。

身体障害者手帳の有無別にみると、身体障害がある人(手帳を持っている人)は、身体障害がない人に比べて「歩道や建物に階段、段差が多い」(29.8%)や「車いすで利用できる交通機関が少ない」(12.8%)、「障害者用トイレが少ない」(12.8%)などのハード面について不便や困難を感じている人の割合が高い。

【図表 3-2-62 障害の程度別・身体障害者手帳の有無別 外出時に不便や困難を感じること】（%）

		調査数「n」 （人）	なるまわりの人の目が気に	歩道や建物の階段、段差が多い	歩道や横断歩道などで危険を感じる	付き添いをする人がいない	外出に経費がかかりすぎる	困った時、まわりの人が助けてくれない	道路に自転車などの障害物が多い
全体		306	17.0	14.4	12.7	12.1	11.4	11.1	9.8
障害程度別の	療育手帳A	176	15.3	18.8	13.1	14.8	11.4	8.5	8.0
	療育手帳B	115	20.0	7.8	12.2	8.7	12.2	13.9	13.0
	無回答	15	13.3	13.3	13.3	6.7	6.7	20.0	6.7
身体障害者手帳の有無別の	持っている	94	8.5	29.8	10.6	8.5	12.8	6.4	12.8
	持っていない	183	21.3	8.2	14.8	14.2	11.5	13.1	9.8
	無回答	29	17.2	3.4	6.9	10.3	6.9	13.8	-

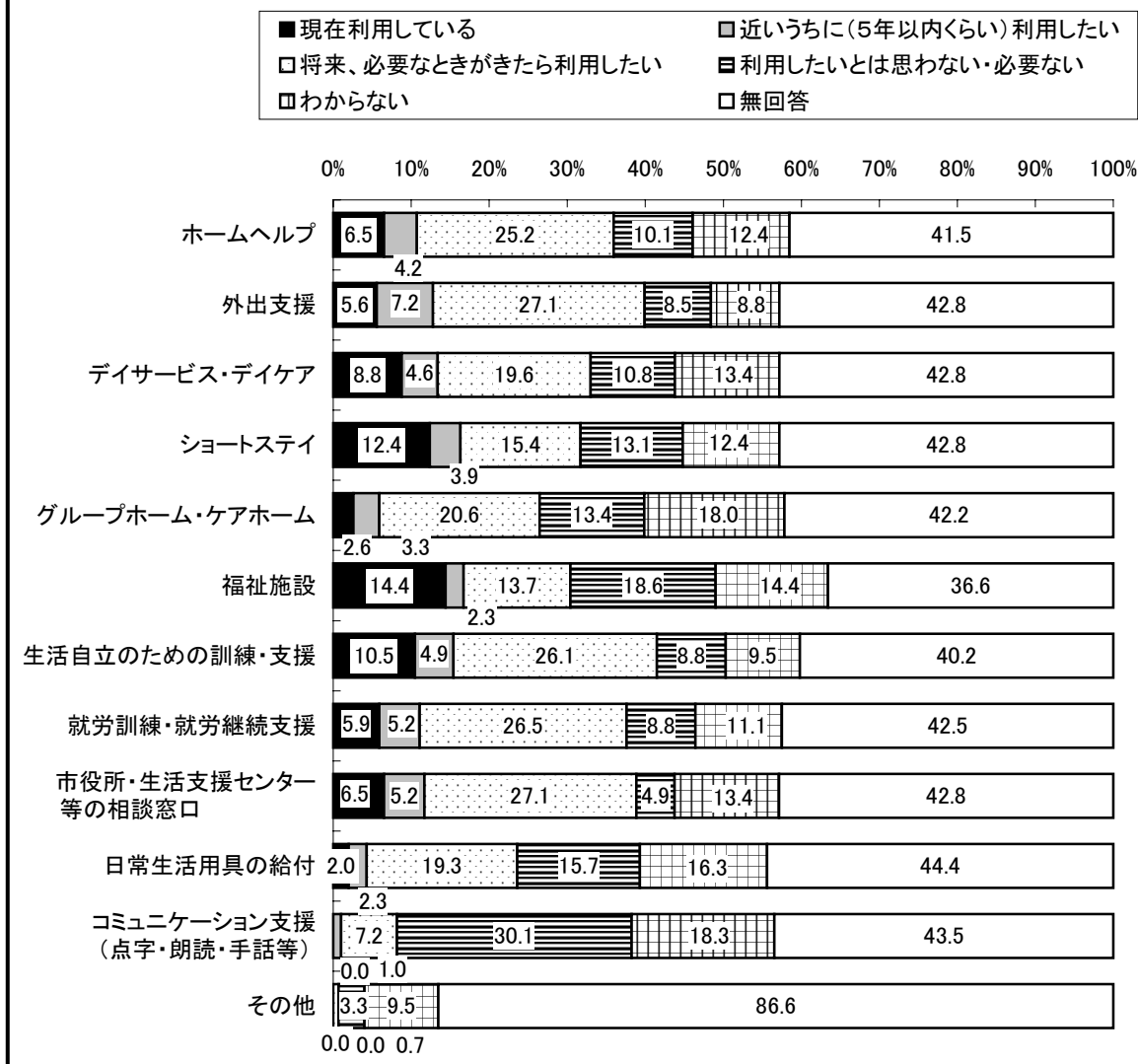
		調査数「n」 （人）	障害者用トイレが少ない	駐車場が少ない	車いすで利用できる交通機関が少ない	エレベーター、エスカレーターが設置されていない	視覚障害者用の信号機の設備が少ない	その他	特になし	無回答
全体		306	7.2	5.6	4.6	2.9	0.7	6.2	24.8	17.0
障害程度別の	療育手帳A	176	10.8	6.3	6.3	2.8	0.6	6.3	17.0	22.2
	療育手帳B	115	2.6	5.2	2.6	2.6	0.9	6.1	36.5	7.8
	無回答	15	-	-	-	6.7	-	6.7	26.7	26.7
身体障害者手帳の有無別の	持っている	94	12.8	8.5	12.8	5.3	2.1	6.4	16.0	23.4
	持っていない	183	5.5	4.9	1.1	1.6	-	6.0	29.0	10.9
	無回答	29	-	-	-	3.4	-	6.9	27.6	34.5

5. 福祉サービスについて

(1) 福祉サービスの利用状況・利用意向

問23 ①～⑫の福祉サービスについて、あてはまるものにそれぞれ1つだけ○をつけてください。①～④のサービスで「1（現在利用している）」または「2（近いうちに[5年以内くらい]利用したい）」に○をつけた方は、利用している、または利用したいと思うサービス日数や時間数を記入してください。

【図表 3-2-63 福祉サービスの利用状況・利用意向】(n=306)



現在実施されている、もしくは、今後、障害者自立支援法により新たに導入される予定の福祉サービスについて、利用状況と利用意向をたずねたが、いずれも4割前後が無回答であった。

利用意向（「近いうちに（5年以内くらい）利用したい」＋「将来、必要なときがきたら利用したい」）は、「外出支援」（34.3％）で最も高く、次いで「市役所・生活支援センター等の相談窓口」（32.4％）、「就労訓練・就労継続支援」（31.7％）、「生活自立のための訓練・支援」（31.0％）、「ホームヘルプ」（29.4％）となっている。

年齢別に利用意向をみると、17歳以下は、他の年齢層に比べて全般的に利用意向が高く、特に「就労訓練・就労継続支援」（67.6％）や「外出支援」（64.9％）、「生活自立のための訓練・支援」（63.5％）で高く、6割を超えている。

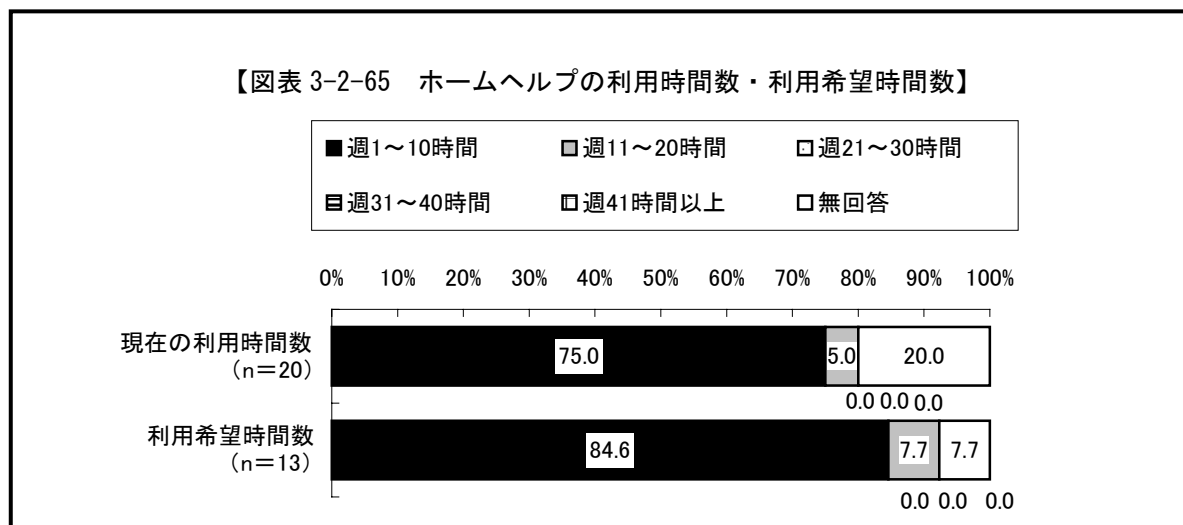
障害の程度別に利用意向をみると、重度の療育手帳Aでは「外出支援」（35.2%）や「ホームヘルプ」（32.4%）等の介護サービスの利用意向が高いが、療育手帳Bでは「就労訓練・就労継続支援」（42.6%）や「生活自立のための訓練・支援」（38.3%）などの訓練等を行うサービスの利用意向が高い。

【図表 3-2-64 年齢別・障害の程度別 福祉サービスの利用意向（「近いうちに（5年以内くらい）利用したい」「将来、必要なときがきたら利用したい」の合計値）】（%）

		調査数「n」（人）	ホームヘルプ	外出支援	アデイサービス・デイケ	ショートステイ	グループホーム・ケア	福祉施設
全体		306	29.4	34.3	24.2	19.3	23.9	16.0
年齢別	17歳以下	74	55.4	64.9	54.1	33.8	40.5	25.7
	18～29歳	61	27.9	34.4	26.2	21.3	32.8	14.8
	30～39歳	69	21.7	26.1	15.9	14.5	17.4	14.5
	40～49歳	37	24.3	21.6	10.8	8.1	13.5	10.8
	50～59歳	35	11.4	11.4	5.7	11.4	5.7	8.6
	60～64歳	8	-	12.5	-	12.5	25.0	12.5
	65歳以上	11	18.2	27.3	-	9.1	-	18.2
	無回答	11	18.2	18.2	9.1	18.2	18.2	9.1
障害程度別の	療育手帳A	176	32.4	35.2	24.4	20.5	26.7	20.5
	療育手帳B	115	25.2	33.0	24.3	19.1	20.9	11.3
	無回答	15	26.7	33.3	20.0	6.7	13.3	-

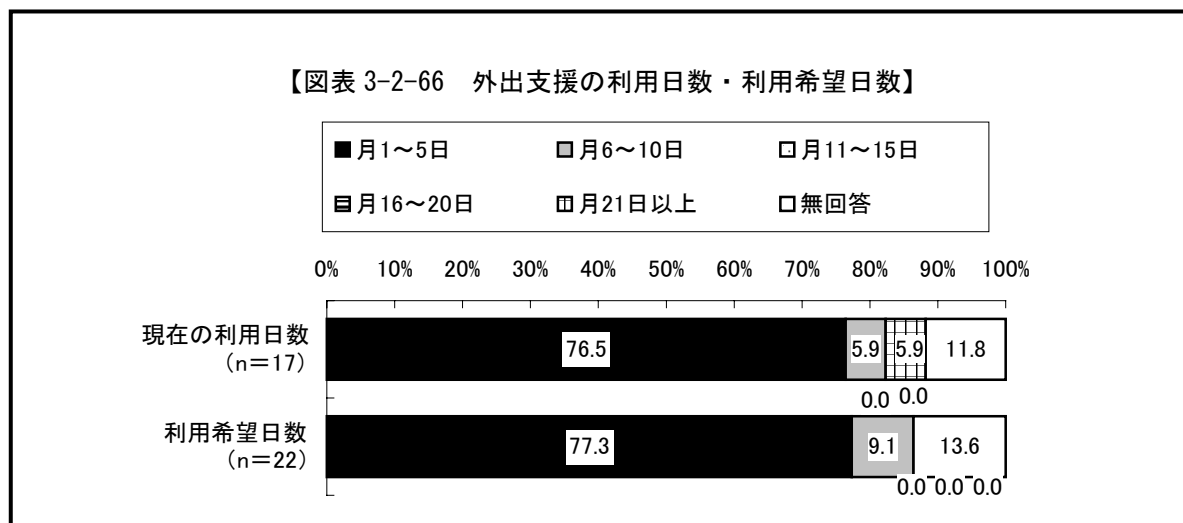
		調査数「n」（人）	生活自立のための訓練・支援	就労訓練・就労継続支援	市役所等の生活支援センター	日常生活用具の給付	等）援（点字・朗読・手話	その他	無回答
全体		306	31.0	31.7	32.4	21.6	8.2	0.7	44.4
年齢別	17歳以下	74	63.5	67.6	59.5	32.4	14.9	-	20.3
	18～29歳	61	41.0	44.3	41.0	27.9	13.1	-	23.0
	30～39歳	69	24.6	18.8	26.1	20.3	5.8	2.9	55.1
	40～49歳	37	5.4	10.8	8.1	2.7	2.7	-	70.3
	50～59歳	35	2.9	5.7	14.3	22.9	2.9	-	65.7
	60～64歳	8	-	-	25.0	12.5	-	-	62.5
	65歳以上	11	9.1	-	-	-	-	-	72.7
	無回答	11	18.2	9.1	18.2	9.1	-	-	63.6
障害程度別の	療育手帳A	176	26.7	26.1	30.7	26.7	7.4	0.6	43.8
	療育手帳B	115	38.3	42.6	35.7	16.5	10.4	0.9	43.5
	無回答	15	26.7	13.3	26.7	-	-	-	60.0

(2) ホームヘルプの利用状況・利用意向



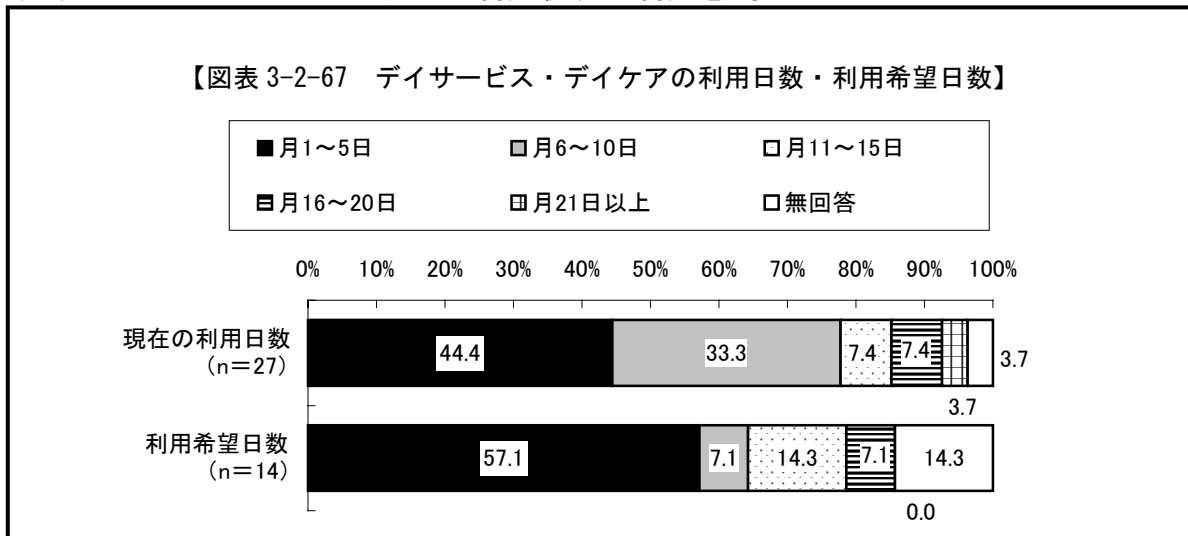
ホームヘルプ利用者の現在の利用時間数は、「週1~10時間」(75.0%)が最も多く、利用希望者の希望時間数でも「週1~10時間」(84.6%)が最も多い。

(3) 外出支援の利用状況・利用意向



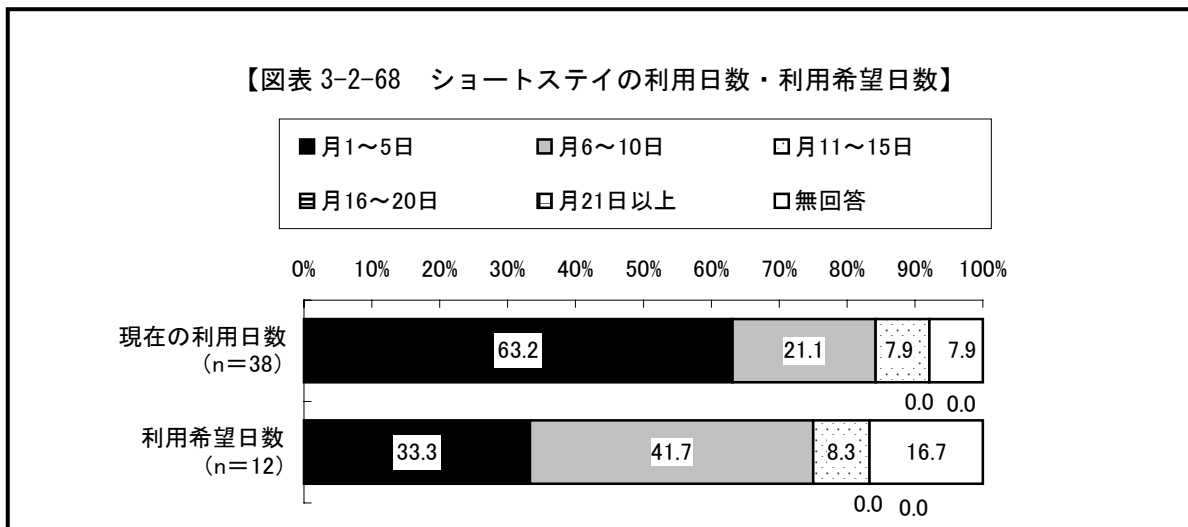
外出支援利用者の現在の利用日数は、「月1~5日」(76.5%)が最も多く、利用希望者の希望日数でも「月1~5日」(77.3%)が最も多い。

(4) デイサービス・デイケアの利用状況・利用意向



通所サービス利用者の現在の利用日数は、「月 1～5 日」(44.4%) が最も多く、次いで「月 6～10 日」(33.3%) となっている。利用希望者の希望日数では「月 1～5 日」(57.1%) が最も多い。

(5) ショートステイの利用状況・利用意向



ショートステイ利用者の現在の利用日数は、「月 1～5 日」(63.2%) が最も多く、利用希望者の希望日数では「月 6～10 日」(41.7%) が最も多い。

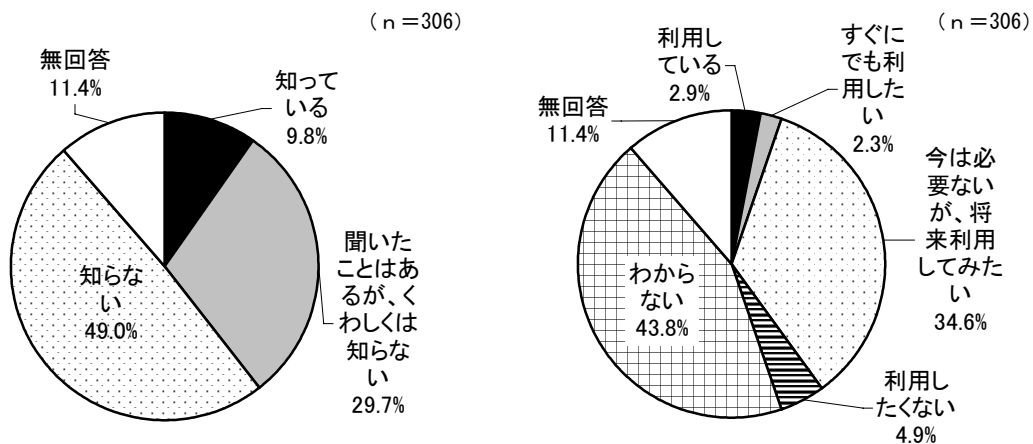
(6) 権利擁護関連制度の認知度・利用意向

問24 障害がある方が、地域で自立して生活できるように、ご本人の意思に基づいて、福祉サービスの利用手続きや生活費・財産管理のお手伝いなどをする制度として、「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」があります。あなたはこのような制度や事業をご存知ですか。(○は1つだけ)

問25 「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-69 権利擁護関連制度の認知度】

【図表 3-2-70 権利擁護関連制度の利用意向】



「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」等の判断能力が不十分な知的・精神障害者等の権利擁護に関する制度について、認知度と利用意向をたずねた。

これらの権利擁護関連制度の認知度では、「知らない」(49.0%)が半数を占めて最も多く、次いで「聞いたことはあるが、くわしくは知らない」(29.7%)となっており、「知っている」(9.8%)は1割となっている。

利用意向では「わからない」(43.8%)が最も多く、次いで「今は必要ないが、将来利用してみたい」(34.6%)となっている。また、「利用している」は2.9%、「すぐにでも利用したい」は2.3%となっている。

年齢別にみると、認知度(「知っている」の割合)は、30歳代(15.9%)・40歳代(16.2%)で他の年齢層に比べてやや高い。

【図表 3-2-71 年齢別・障害の程度別 権利擁護関連制度の認知度】(%)

		調査数「n」(人)	知っている	く聞いたくわしいことは知らないが、	知らない	無回答
全体		306	9.8	29.7	49.0	11.4
年齢別	17歳以下	74	8.1	29.7	60.8	1.4
	18～29歳	61	3.3	47.5	44.3	4.9
	30～39歳	69	15.9	24.6	47.8	11.6
	40～49歳	37	16.2	24.3	43.2	16.2
	50～59歳	35	-	28.6	42.9	28.6
	60～64歳	8	12.5	-	75.0	12.5
	65歳以上	11	9.1	27.3	36.4	27.3
	無回答	11	27.3	9.1	36.4	27.3
障害程度別の	療育手帳A	176	11.9	32.4	40.3	15.3
	療育手帳B	115	6.1	26.1	63.5	4.3
	無回答	15	13.3	26.7	40.0	20.0

【図表 3-2-72 年齢別・障害の程度別 権利擁護関連制度の利用意向】（%）

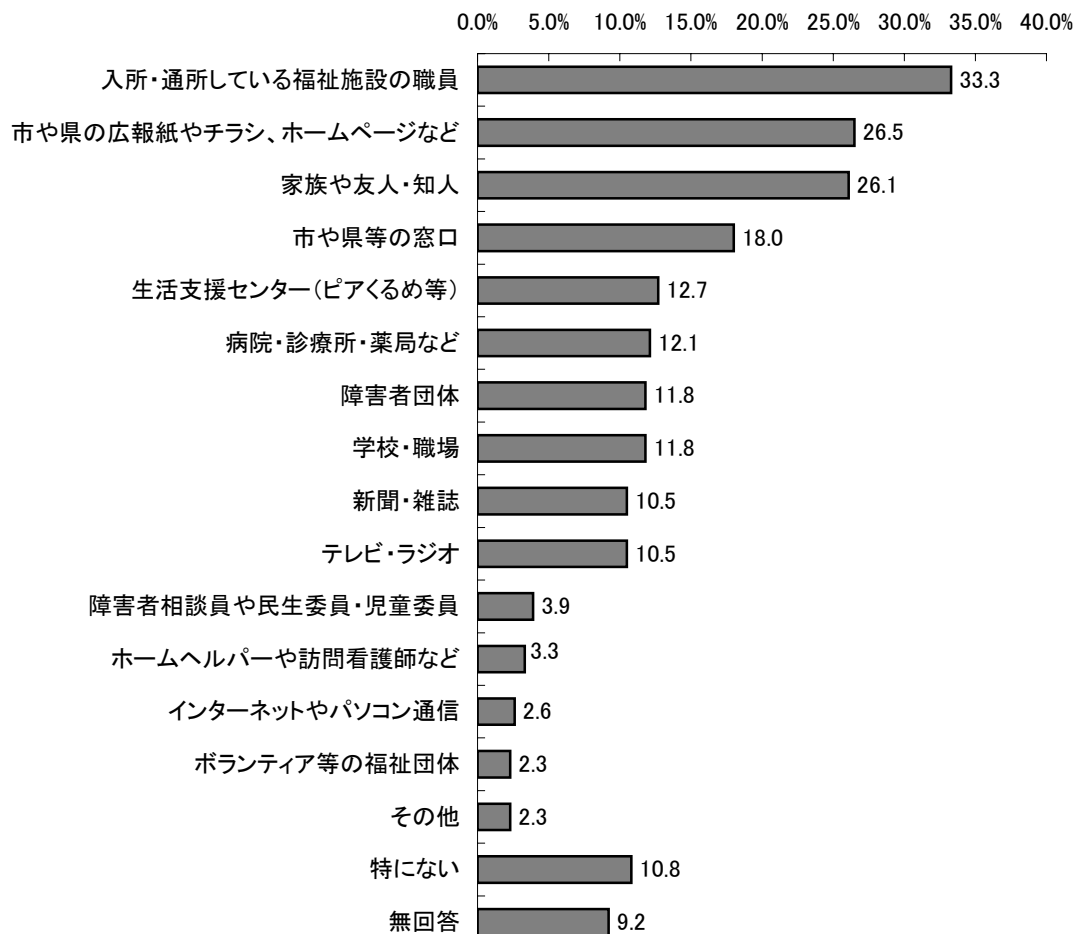
		調査数「n」 （人）	利用している	すぐにも利用したい	今は必要ないが、 将来	利用したくない	わからない	無回答
全 体		306	2.9	2.3	34.6	4.9	43.8	11.4
年 齢 別	17歳以下	74	-	-	50.0	2.7	43.2	4.1
	18～29歳	61	-	-	45.9	6.6	44.3	3.3
	30～39歳	69	4.3	7.2	29.0	5.8	40.6	13.0
	40～49歳	37	10.8	2.7	24.3	5.4	43.2	13.5
	50～59歳	35	2.9	-	14.3	5.7	48.6	28.6
	60～64歳	8	-	-	-	-	87.5	12.5
	65歳以上	11	9.1	9.1	27.3	9.1	27.3	18.2
	無回答	11	-	-	36.4	-	36.4	27.3
程 度 害 別 の	療育手帳A	176	4.5	2.8	36.4	4.5	38.1	13.6
	療育手帳B	115	0.9	1.7	32.2	6.1	52.2	7.0
	無回答	15	-	-	33.3	-	46.7	20.0

6. 情報収集について

(1) 福祉に関する情報入手先

問26 福祉サービスや福祉制度の情報をどこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-73 福祉に関する情報入手先】(n=306)



福祉サービスや福祉制度に関する情報の入手先は、「入所・通所している福祉施設の職員」(33.3%)が最も多く、次いで「市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど」(26.5%)、「家族や友人・知人」(26.1%)、「市や県等の窓口」(18.0%)となっている。

年齢別にみると、17歳以下では「家族や友人・知人」(48.6%)が最も多いが、18歳以上では「入所・通所している福祉施設の職員」が最も多い。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bともに「入所・通所している福祉施設の職員」が最も多いが、「生活支援センター(ピアくるめ等)」の割合は療育手帳A(9.7%)よりB(19.1%)で高い。

【図表 3-2-74 年齢別・障害の程度別 福祉に関する情報入手先】（％）

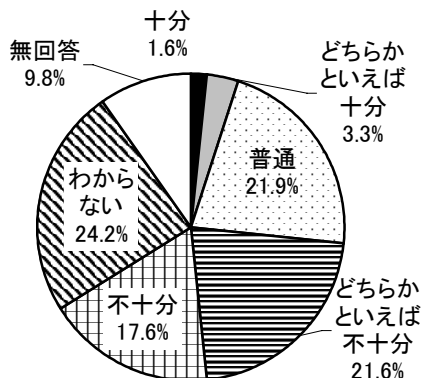
		調査数「n」（人）	福祉施設・通所している職員	市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど	家族や友人・知人	市や県等の窓口	生活支援センター（ピアサポート等）	病院・診療所・薬局など	障害者団体	学校・職場
全 体		306	33.3	26.5	26.1	18.0	12.7	12.1	11.8	11.8
年 齢 別	17歳以下	74	17.6	40.5	48.6	18.9	14.9	24.3	17.6	44.6
	18～29歳	61	45.9	29.5	26.2	21.3	19.7	6.6	13.1	4.9
	30～39歳	69	46.4	20.3	13.0	14.5	10.1	7.2	14.5	-
	40～49歳	37	32.4	21.6	21.6	21.6	10.8	10.8	8.1	-
	50～59歳	35	25.7	14.3	14.3	17.1	2.9	11.4	-	-
	60～64歳	8	50.0	12.5	12.5	12.5	-	-	-	-
	65歳以上	11	18.2	18.2	9.1	-	18.2	18.2	-	-
無回答	11	18.2	27.3	36.4	27.3	9.1	-	18.2	-	
程 度 別	療育手帳A	176	37.5	27.8	29.5	21.0	9.7	14.2	14.8	10.8
	療育手帳B	115	27.0	24.3	20.9	12.2	19.1	9.6	7.0	13.0
	無回答	15	33.3	26.7	26.7	26.7	-	6.7	13.3	13.3

		調査数「n」（人）	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	障害者相談員や民生委員・児童委員	ホームヘルパーや訪問看護師など	インターネットやパソコン通信	ボランティア等の福祉団体	その他	特になし	無回答
全 体		306	10.5	10.5	3.9	3.3	2.6	2.3	2.3	10.8	9.2
年 齢 別	17歳以下	74	13.5	12.2	2.7	1.4	5.4	4.1	5.4	6.8	2.7
	18～29歳	61	16.4	9.8	4.9	6.6	3.3	3.3	1.6	6.6	4.9
	30～39歳	69	8.7	5.8	2.9	2.9	1.4	-	1.4	14.5	7.2
	40～49歳	37	5.4	13.5	-	2.7	2.7	2.7	-	8.1	13.5
	50～59歳	35	5.7	5.7	8.6	2.9	-	-	2.9	17.1	22.9
	60～64歳	8	12.5	12.5	-	12.5	-	12.5	-	12.5	12.5
	65歳以上	11	-	18.2	18.2	-	-	-	-	18.2	18.2
無回答	11	9.1	27.3	-	-	-	-	-	18.2	18.2	
程 度 別	療育手帳A	176	11.9	9.1	3.4	4.5	2.8	1.7	0.6	8.5	10.2
	療育手帳B	115	8.7	12.2	3.5	1.7	2.6	3.5	5.2	13.9	6.1
	無回答	15	6.7	13.3	13.3	-	-	-	-	13.3	20.0

(2) 福祉に関する情報の入手状況

問27 福祉に関する情報を十分に入手できていますか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-75 福祉に関する情報の入手状況】(n=306)



福祉に関する情報を十分に入手できているかについては、「わからない」(24.2%)が最も多く、次いで「普通」(21.9%)、「どちらかといえば不十分」(21.6%)、「不十分」(17.6%)となっている。情報が十分に入手できていないと感じている人(「どちらかといえば不十分」+「不十分」)は39.2%と4割を占めており、情報を十分に入手できていると感じている人(「十分」+「どちらかといえば十分」)の4.9%を大きく上回っている。

年齢別にみると、情報が十分に入手できていないと感じている人(「どちらかといえば不十分」+「不十分」)の割合は、若年層ほど高く、17歳以下では63.5%と6割を超えている。

【図表 3-2-76 年齢別・障害の程度別 福祉に関する情報の入手状況】(%)

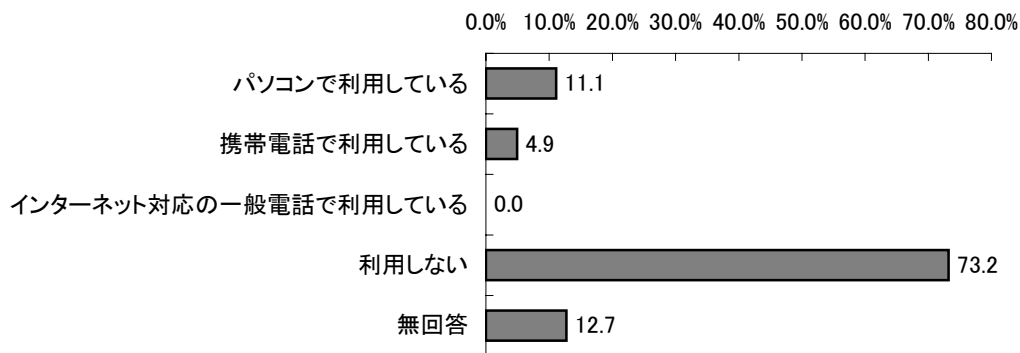
		調査数「n」(人)	十分	どちらかといえば十分	普通	どちらかといえば不十分	不十分	わからない	無回答
全体		306	1.6	3.3	21.9	21.6	17.6	24.2	9.8
年齢別	17歳以下	74	-	4.1	16.2	40.5	23.0	12.2	4.1
	18~29歳	61	-	-	31.1	31.1	13.1	23.0	1.6
	30~39歳	69	1.4	2.9	20.3	15.9	20.3	30.4	8.7
	40~49歳	37	8.1	2.7	21.6	2.7	21.6	32.4	10.8
	50~59歳	35	2.9	5.7	25.7	8.6	14.3	25.7	17.1
	60~64歳	8	-	12.5	12.5	-	12.5	37.5	25.0
	65歳以上	11	-	-	27.3	-	-	45.5	27.3
	無回答	11	-	9.1	9.1	18.2	9.1	9.1	45.5
障害程度別の	療育手帳A	176	0.6	3.4	24.4	20.5	16.5	22.2	12.5
	療育手帳B	115	2.6	1.7	20.0	24.3	18.3	27.8	5.2
	無回答	15	6.7	13.3	6.7	13.3	26.7	20.0	13.3

(3) インターネットの利用状況・利用内容

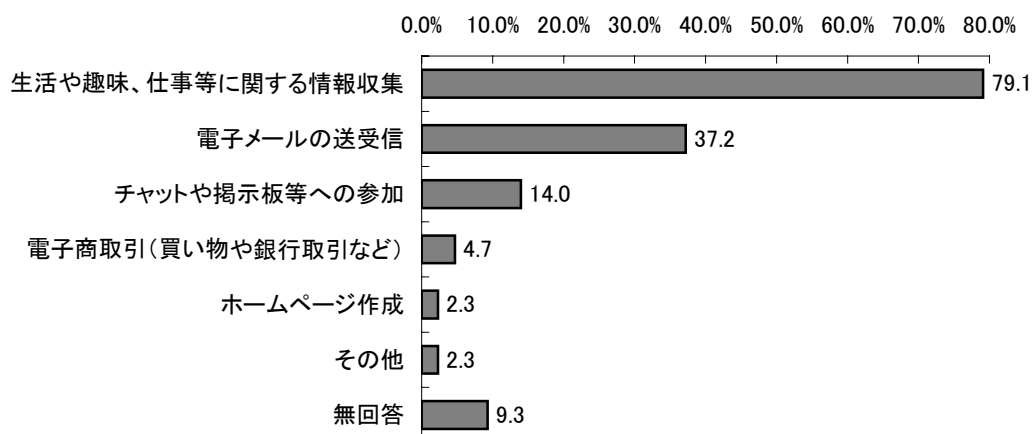
問28 家庭や職場などでインターネットを利用することがありますか。(○はあてはまるものすべて)

問28-1 (問28で1~3のいずれかを選んだ方のみお答えください) インターネットをどのようなことに利用していますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-77 インターネットの利用状況】(n=306)



【図表 3-2-78 インターネットの利用内容】(n=43)



インターネットの利用状況は、「利用しない」(73.2%)が7割を超えて最も多く、次いで「パソコンで利用している」(11.1%)となっている。

また、インターネットの利用内容は、「生活や趣味、仕事等に関する情報収集」(79.1%)が最も多く、次いで「電子メールの送受信」(37.2%)となっている。

年齢別にみると、「パソコンで利用している」の割合は、17歳以下(27.0%)や18~29歳(11.5%)で高い。一方、「携帯電話で利用している」の割合は40歳代(10.8%)で高い。

障害の程度別にみると、療育手帳BはAに比べて「パソコンで利用している」(14.8%)や「携帯電話で利用している」(10.4%)等のインターネットを利用している人の割合が高い。

第3章 調査結果[知的障害者（児）調査]

【図表 3-2-79 年齢別・障害の程度別 インターネットの利用状況】（%）

		調査数「n」 （人）	パソコンで 利用してい	携帯電話で 利用してい	インターネット で利用してい	利用しない	無回答
全 体		306	11.1	4.9	-	73.2	12.7
年 齢 別	17歳以下	74	27.0	5.4	-	64.9	6.8
	18～29歳	61	11.5	6.6	-	77.0	4.9
	30～39歳	69	4.3	2.9	-	82.6	13.0
	40～49歳	37	8.1	10.8	-	64.9	18.9
	50～59歳	35	2.9	2.9	-	71.4	22.9
	60～64歳	8	-	-	-	87.5	12.5
	65歳以上	11	-	-	-	81.8	18.2
	無回答	11	-	-	-	63.6	36.4
程 度 害 別 の	療育手帳A	176	9.1	1.1	-	73.9	16.5
	療育手帳B	115	14.8	10.4	-	72.2	7.0
	無回答	15	6.7	6.7	-	73.3	13.3

【図表 3-2-80 年齢別・障害の程度別 インターネットの利用内容】（%）

		調査数「n」 （人）	生活や 趣味、 情報、 仕事等に 関する	電子 メールの 送受信	チャット や掲示板 等への 参加	電子 銀行 取引 など （買い物 や）	ホーム ページ 作成	その他	無 回 答
全 体		43	79.1	37.2	14.0	4.7	2.3	2.3	9.3
年 齢 別	17歳以下	21	95.2	33.3	14.3	4.8	-	-	-
	18～29歳	11	63.6	45.5	9.1	9.1	9.1	-	9.1
	30～39歳	3	100.0	66.7	66.7	-	-	-	-
	40～49歳	6	50.0	16.7	-	-	-	16.7	33.3
	50～59歳	2	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0
	60～64歳	-	-	-	-	-	-	-	-
	65歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
程 度 害 別 の	療育手帳A	17	88.2	29.4	11.8	5.9	5.9	-	11.8
	療育手帳B	24	75.0	41.7	16.7	4.2	-	4.2	4.2
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0

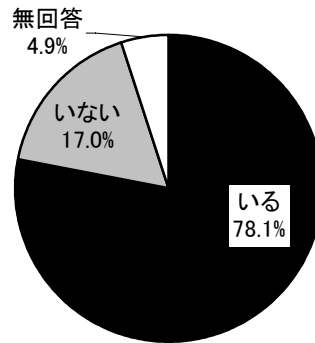
7. 災害対策について

(1) 災害時に頼れる人

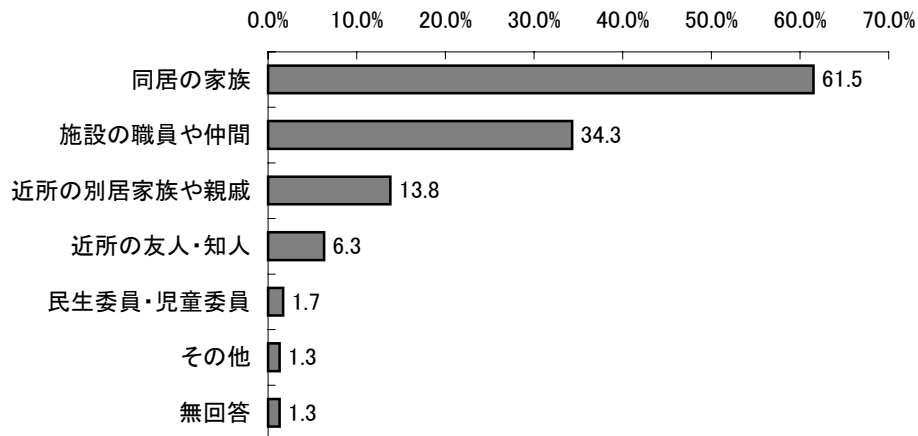
問29 地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人が身近にいますか。

問29-1 (問29で「1.いる」と答えた方のみお答えください) それはどなたですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-81 災害時に頼れる人の有無】(n=306)



【図表 3-2-82 災害時に頼れる人】(n=239)



回答者の8割弱(78.1%)は災害時に頼れる人がおり、その内訳では「同居の家族」(61.5%)が最も多く、次いで「施設の職員や仲間」(34.3%)となっている。

【図表 3-2-83 家族構成別(在宅生活者のみ) 災害時に頼れる人の有無】(%)

		調査数 「n」 (人)	いる	いない	無回答
全体		223	78.5	19.7	1.8
家族 構成 別	一人暮らし	5	80.0	20.0	-
	夫婦のみ	11	63.6	36.4	-
	父母等の家族と同居	188	78.2	20.2	1.6
	家族以外の人と同居	11	100.0	-	-
	無回答	8	75.0	12.5	12.5

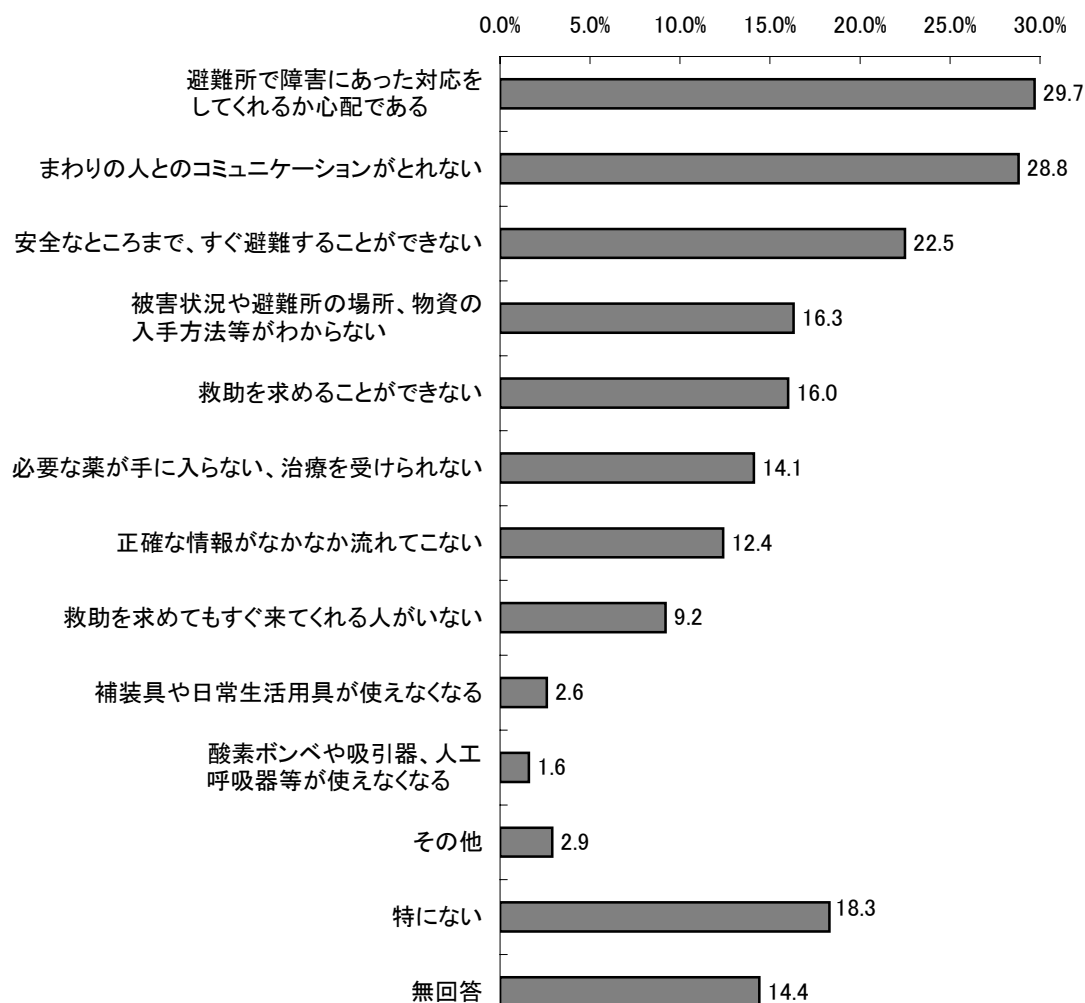
【図表 3-2-84 家族構成別（在宅生活者のみ） 災害時に頼れる人】（%）

	調査数「n」（人）	同居の家族	施設の職員や仲間	近所の別居家族や親戚	近所の友人・知人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全体	175	81.1	14.9	16.0	8.6	1.7	1.7	0.6
家族構成別								
一人暮らし	4	-	25.0	50.0	25.0	-	-	-
夫婦のみ	7	71.4	-	57.1	-	-	-	-
父母等の家族と同居	147	89.1	9.5	15.0	8.8	2.0	-	0.7
家族以外の人と同居	11	18.2	81.8	-	-	-	27.3	-
無回答	6	66.7	33.3	-	16.7	-	-	-

（2）災害時に心配なこと

問30 地震や台風等の大きな災害が起きた場合、どのようなことが心配ですか。（○は3つまで）

【図表 3-2-85 災害時に心配なこと】（n=306）



災害が起きた場合に心配なことは、「避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である」（29.7%）が最も多く、次いで、「まわりの人とのコミュニケーションがとれない」（28.8%）、「安全なところまで、すぐ避難することができない」（22.5%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Aでは「避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である」（33.5%）が最も多いが、Bでは「特にない」（27.8%）が最も多く、具体的内容では「被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない」（27.0%）が最も多い。

身体障害者手帳の有無別にみると、身体障害がある人（手帳を持っている人）はなしの人に比べて「安全なところまで、すぐ避難することができない」（31.9%）や「補装具や日常生活用具が使えなくなる」（5.3%）などの割合が高い。

【図表 3-2-86 障害の程度別・身体障害者手帳の有無別・家族構成別（在宅生活者のみ）
災害時に心配なこと】（%）

		調査数「n」（人）	対応で あし て障 害に あつ た心 配	い二ま ケわ ーリ シの ヨ人 ンと がの とコ れミ なユ	なが安 い避 難な す と こ ろ ま で、 でき ず	が所被 わ、害 か物 ら資 ない な入 手避 方難 法所 等場	き救 ない を 求 め る こ と が で	いい、 要 治 な 療 を 受 け に ら れ な な
全 体		306	29.7	28.8	22.5	16.3	16.0	14.1
程 障 度 害 別 の	療育手帳A	176	33.5	29.5	26.1	10.8	18.8	14.2
	療育手帳B	115	25.2	29.6	15.7	27.0	11.3	15.7
	無回答	15	20.0	13.3	33.3	-	20.0	-
無 帳 害 身 別 の 者 体 有 手 障	持っている	94	31.9	19.1	31.9	13.8	13.8	14.9
	持っていない	183	30.6	35.0	18.0	17.5	16.4	14.8
	無回答	29	17.2	20.7	20.7	17.2	20.7	6.9
家 族 構 成 別	一人暮らし	5	20.0	60.0	20.0	40.0	-	20.0
	夫婦のみ	11	9.1	36.4	27.3	27.3	27.3	18.2
	父母等の家族と同居	188	37.8	31.9	25.0	17.0	17.0	17.6
	家族以外の人と同居	11	36.4	18.2	-	27.3	-	9.1
	無回答	8	37.5	12.5	12.5	25.0	25.0	-

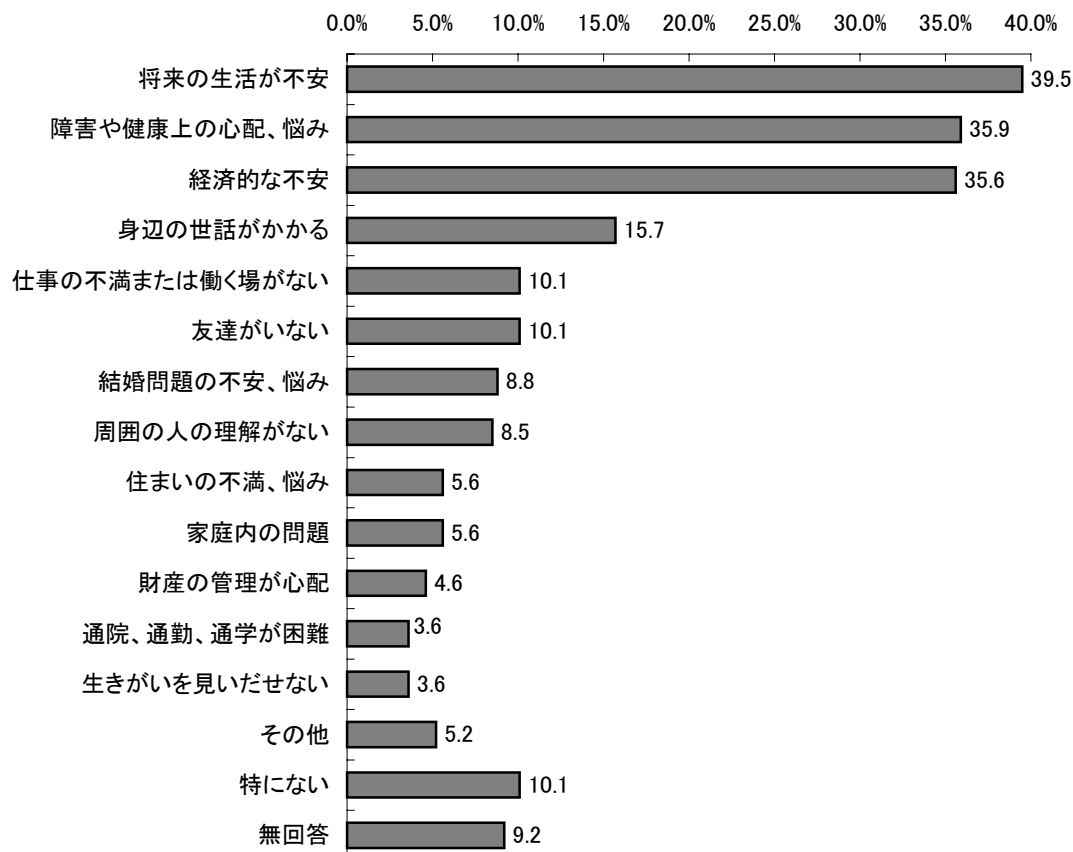
		調査数「n」（人）	流 正 れ 確 て な こ 情 な い 報 が な かな か	て 救 く 助 れ を 求 め る 人 が ても ない すぐ 来	が 補 使 装 え 具 な や 日 常 生 活 用 具	く 人 酸 工 素 呼 吸 器 等 が 使 え 器 な	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		306	12.4	9.2	2.6	1.6	2.9	18.3	14.4
程 障 度 害 別 の	療育手帳A	176	9.1	7.4	3.4	2.8	3.4	12.5	18.8
	療育手帳B	115	17.4	11.3	1.7	-	2.6	27.8	5.2
	無回答	15	13.3	13.3	-	-	-	13.3	33.3
無 帳 害 身 別 の 者 体 有 手 障	持っている	94	12.8	7.4	5.3	3.2	3.2	12.8	22.3
	持っていない	183	12.0	9.3	1.1	1.1	3.3	21.3	9.8
	無回答	29	13.8	13.8	3.4	-	-	17.2	17.2
家 族 構 成 別	一人暮らし	5	20.0	-	-	-	-	-	20.0
	夫婦のみ	11	36.4	18.2	-	-	-	9.1	-
	父母等の家族と同居	188	14.4	10.6	4.3	2.1	2.1	18.6	6.9
	家族以外の人と同居	11	9.1	9.1	-	-	9.1	36.4	9.1
	無回答	8	-	12.5	-	-	12.5	-	37.5

8. 生活全般について

(1) 困っていることや将来に対する不安・悩み

問3 1 現在の生活の中で困っていることや、将来に対する不安・悩みなどがありますか。
(○は3つまで)

【図表 3-2-87 困っていることや将来に対する不安・悩み】(n=306)



現在の生活の中で困っていることや将来に対する不安・悩みは、「将来の生活が不安」(39.5%)が最も多く、次いで「障害や健康上の心配、悩み」(35.9%)、「経済的な不安」(35.6%)となっている。

年齢別にみても、すべての年齢層で「経済的な不安」「障害や健康上の心配、悩み」「将来の生活が不安」の3項目が上位を占めているが、17歳以下では他の年齢層に比べて「身近の世話がかかる」(23.0%)や「周囲の人の理解がない」(17.6%)の割合が高い。また、40歳代では「仕事の不満または働く場がない」(18.9%)や「結婚問題の不安、悩み」(18.9%)の割合が高い。

障害の程度別にみると、療育手帳AはBに比べて「身近の世話がかかる」(21.0%)の割合が高く、BはAに比べて「仕事の不満または働く場がない」(19.1%)や「結婚問題の不安、悩み」(15.7%)の割合が高い。

【図表 3-2-88 年齢別・障害の程度別 困っていることや将来に対する不安・悩み】（％）

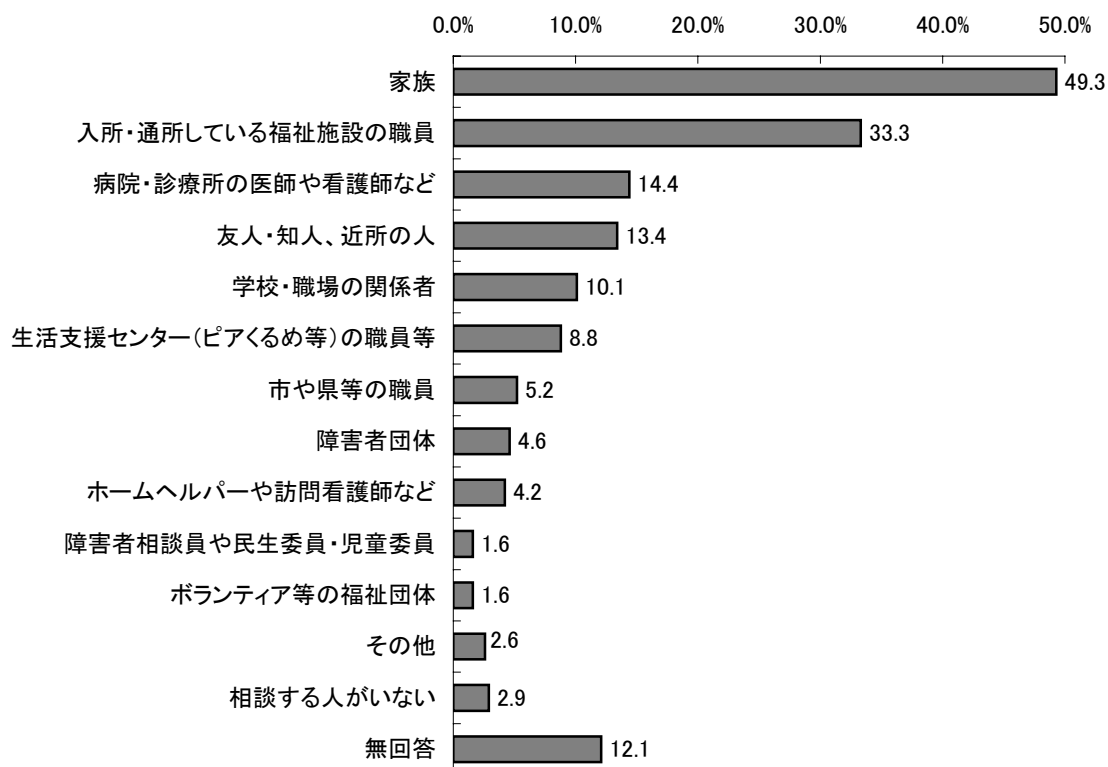
		調査数「n」（人）	将来の生活が不安	障害や健康上の心配、悩み	経済的な不安	身の世話がかる	場がない 仕事の不満または働く	友達がいない	結婚問題の不安、悩み	周囲の人の理解がない
全	体	306	39.5	35.9	35.6	15.7	10.1	10.1	8.8	8.5
年 齢 別	17歳以下	74	45.9	44.6	33.8	23.0	13.5	10.8	8.1	17.6
	18～29歳	61	49.2	44.3	47.5	13.1	6.6	8.2	14.8	8.2
	30～39歳	69	36.2	24.6	42.0	11.6	10.1	13.0	4.3	7.2
	40～49歳	37	40.5	27.0	35.1	13.5	18.9	16.2	18.9	2.7
	50～59歳	35	25.7	40.0	25.7	11.4	8.6	-	2.9	-
	60～64歳	8	12.5	25.0	12.5	-	-	12.5	-	-
	65歳以上	11	18.2	45.5	9.1	9.1	-	9.1	-	9.1
	無回答	11	45.5	18.2	18.2	45.5	-	9.1	9.1	9.1
程 度 害 別	療育手帳A	176	37.5	38.6	32.4	21.0	5.1	8.0	2.3	7.4
	療育手帳B	115	43.5	33.0	40.0	7.0	19.1	12.2	15.7	9.6
	無回答	15	33.3	26.7	40.0	20.0	-	20.0	33.3	13.3

		調査数「n」（人）	住まいの不満、悩み	家庭内の問題	財産の管理が心配	難 通 院、 通 勤、 通 学が 困	い 生 き が い を 見 い だ せ な	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全	体	306	5.6	5.6	4.6	3.6	3.6	5.2	10.1	9.2
年 齢 別	17歳以下	74	4.1	6.8	5.4	4.1	4.1	5.4	5.4	2.7
	18～29歳	61	6.6	4.9	4.9	4.9	3.3	3.3	8.2	1.6
	30～39歳	69	2.9	8.7	7.2	5.8	4.3	4.3	11.6	11.6
	40～49歳	37	10.8	-	2.7	-	5.4	5.4	10.8	8.1
	50～59歳	35	5.7	5.7	-	-	2.9	5.7	17.1	20.0
	60～64歳	8	12.5	-	-	-	-	-	37.5	25.0
	65歳以上	11	9.1	9.1	9.1	9.1	-	9.1	-	36.4
	無回答	11	-	-	-	-	-	18.2	9.1	9.1
程 度 害 別	療育手帳A	176	5.7	5.7	4.5	3.4	2.3	5.7	8.0	13.6
	療育手帳B	115	5.2	6.1	5.2	3.5	6.1	3.5	13.0	2.6
	無回答	15	6.7	-	-	6.7	-	13.3	13.3	6.7

(2) 困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先

問3 2 生活の中で困っていることや、将来に対する不安や悩みを誰（どこ）に相談していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-89 困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】（n=306）



困っていることや将来に対する不安や悩みの相談先は、「家族」（49.3%）が最も多く、次いで「入所・通所している福祉施設の職員」（33.3%）、「病院・診療所の医師や看護師など」（14.4%）、「友人・知人、近所の人」（13.4%）となっている。

年齢別にみると、17歳以下では他の年齢層に比べて「家族」（60.8%）や「学校・職場の関係者」（37.8%）、「友人・知人、近所の人」（33.8%）、「病院・診療所の医師や看護師など」（25.7%）の割合が高い。

在宅生活者の家族構成別にみると、一人暮らしや夫婦のみの世帯では、他の世帯に比べて「生活支援センター（ピアくるめ等）の職員等」や「ホームヘルパーや訪問看護師など」の割合が高い。

【図表 3-2-90 年齢別・家族構成別（在宅生活者のみ）

困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】（％）

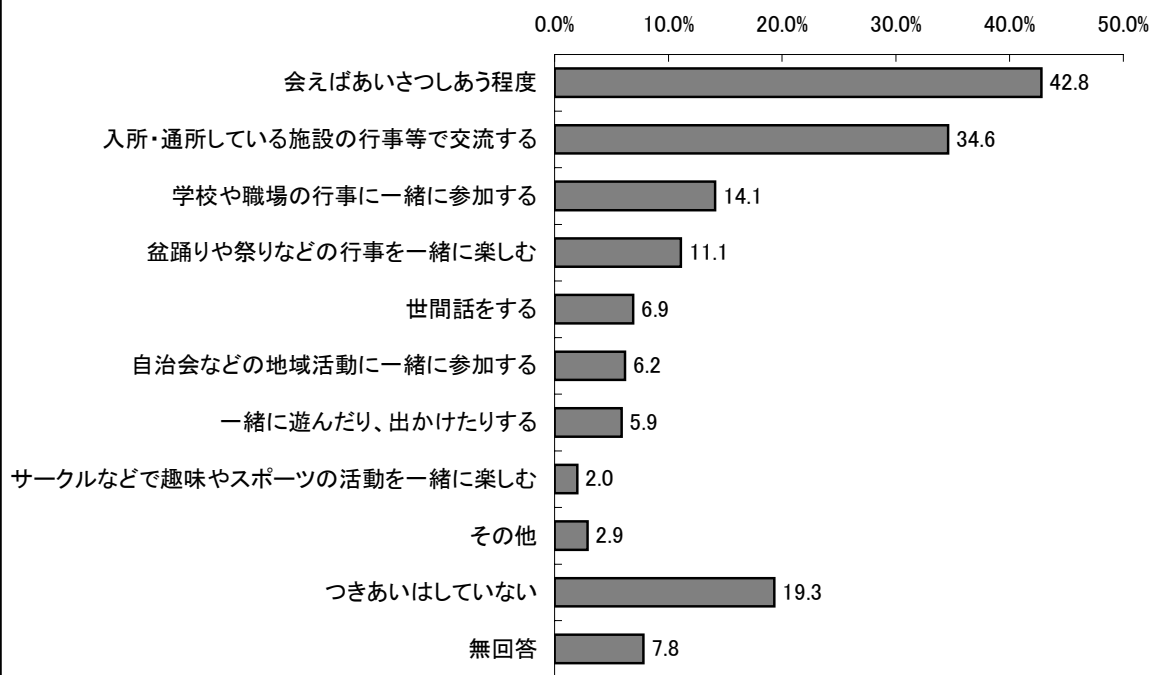
	調査数「n」（人）	家族	入所・通所している福祉施設の職員	病院・診療所の医師や看護師など	友人・知人、近所の人	学校・職場の関係者	生活支援センターの職員等（ピ）	市や県等の職員	
全体	306	49.3	33.3	14.4	13.4	10.1	8.8	5.2	
年齢別	17歳以下	74	60.8	16.2	25.7	33.8	37.8	5.4	2.7
	18～29歳	61	52.5	45.9	6.6	11.5	4.9	11.5	6.6
	30～39歳	69	44.9	34.8	8.7	8.7	-	8.7	5.8
	40～49歳	37	45.9	32.4	13.5	-	-	13.5	8.1
	50～59歳	35	42.9	40.0	11.4	2.9	-	2.9	5.7
	60～64歳	8	12.5	50.0	25.0	25.0	-	12.5	12.5
	65歳以上	11	45.5	36.4	27.3	-	-	9.1	-
	無回答	11	45.5	36.4	9.1	-	-	18.2	-
家族構成別	一人暮らし	5	20.0	-	20.0	20.0	-	40.0	20.0
	夫婦のみ	11	63.6	-	27.3	-	-	27.3	-
	父母等の家族と同居	188	62.2	23.4	17.6	18.6	16.5	10.6	5.3
	家族以外の人と同居	11	36.4	63.6	18.2	-	-	9.1	9.1
	無回答	8	-	12.5	-	37.5	-	12.5	-

	調査数「n」（人）	障害者団体	ホームヘルパーや訪問看護師など	障害者相談員や民生委員・児童委員	ボランティア等の福祉団体	その他	相談する人がいない	無回答	
全体	306	4.6	4.2	1.6	1.6	2.6	2.9	12.1	
年齢別	17歳以下	74	5.4	4.1	1.4	2.7	5.4	-	5.4
	18～29歳	61	1.6	3.3	3.3	3.3	1.6	3.3	6.6
	30～39歳	69	8.7	7.2	1.4	1.4	1.4	2.9	20.3
	40～49歳	37	-	2.7	-	-	2.7	5.4	13.5
	50～59歳	35	-	2.9	2.9	-	-	5.7	17.1
	60～64歳	8	-	12.5	-	-	-	-	12.5
	65歳以上	11	-	-	-	-	-	9.1	18.2
	無回答	11	27.3	-	-	-	9.1	-	9.1
家族構成別	一人暮らし	5	-	40.0	-	-	-	-	-
	夫婦のみ	11	9.1	18.2	-	-	-	27.3	-
	父母等の家族と同居	188	4.3	3.7	2.1	2.7	3.2	1.6	8.0
	家族以外の人と同居	11	-	-	-	-	9.1	-	9.1
	無回答	8	12.5	12.5	-	-	-	12.5	37.5

(3) 地域の人とのつきあい

問33 あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-91 地域の人とのつきあい】(n=306)



地域の人とのつきあいについては、「会えばあいさつしあう程度」(42.8%)が最も多く、次いで「入所・通所している施設の行事等で交流する」(34.6%)となっている。また、「つきあいはしていない」も19.3%を占めている。

現在の住まい別にみると、福祉施設入所者は、在宅生活者に比べて「入所・通所している施設の行事等で交流する」(68.0%)が7割弱と高く、その他の項目は全般的に低い。

【図表 3-2-92 年齢別・現在の住まい別 地域の人とのつきあい】（％）

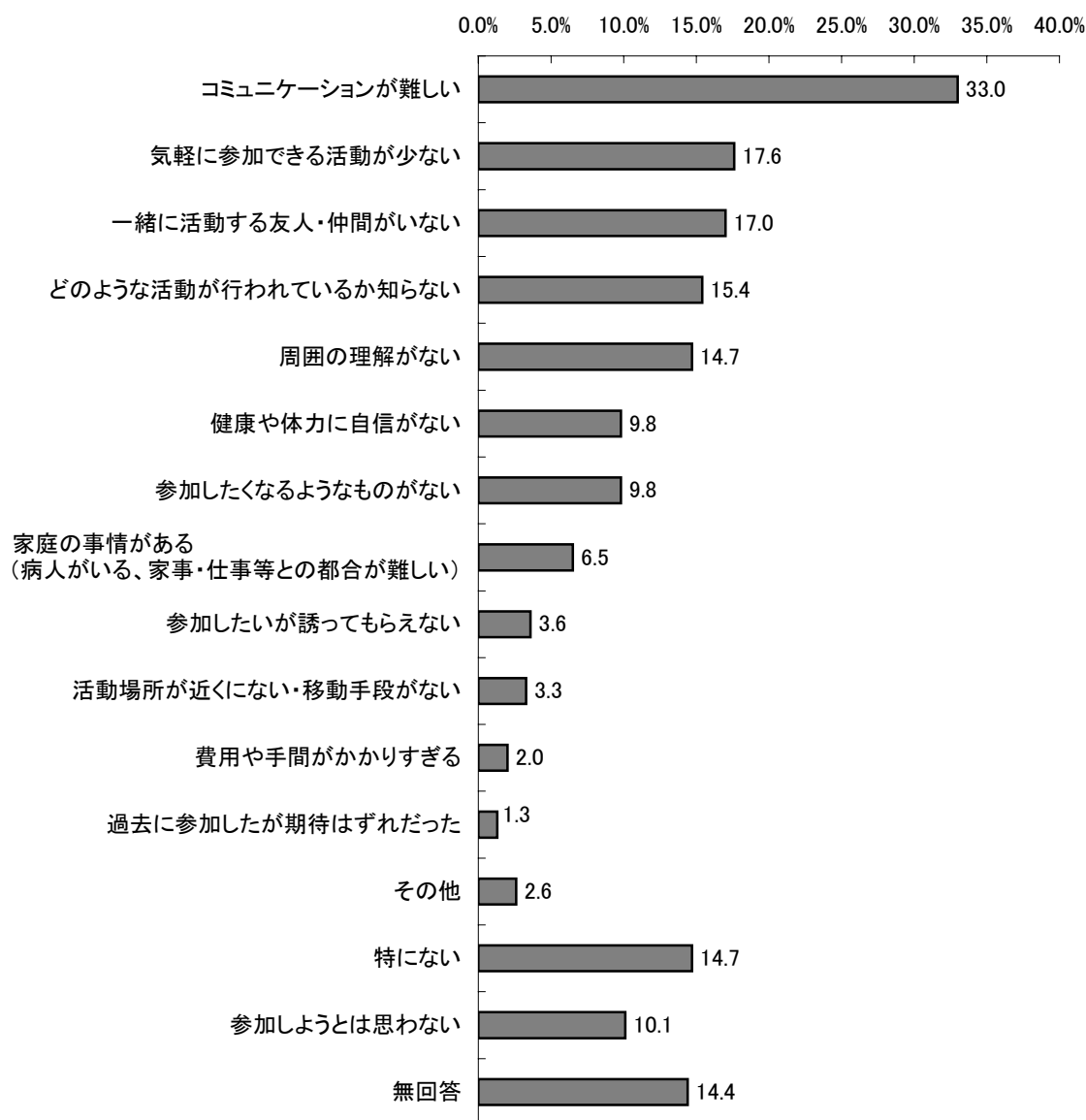
	調査数「n」（人）	会え ばあ いさ つし あう 程 度	入 所 の 行 事 等 で 交 流 す る 施 設	学 校 や 職 場 の 行 事 に 一 緒 に 参 加 す る	盆 踊 り や 祭 り な ど の 行 事 を 一 緒 に 楽 し む	世 間 話 を す る	
全 体	306	42.8	34.6	14.1	11.1	6.9	
年 齢 別	17歳以下	74	55.4	14.9	40.5	17.6	8.1
	18～29歳	61	39.3	45.9	6.6	4.9	1.6
	30～39歳	69	44.9	40.6	7.2	8.7	5.8
	40～49歳	37	37.8	37.8	2.7	13.5	8.1
	50～59歳	35	31.4	45.7	-	11.4	11.4
	60～64歳	8	62.5	37.5	-	12.5	-
	65歳以上	11	27.3	18.2	-	-	9.1
	無回答	11	18.2	36.4	27.3	18.2	18.2
別 住 現 ま 在 い の	福祉施設	75	17.3	68.0	1.3	14.7	1.3
	福祉施設以外（持ち家等）	223	52.5	24.7	18.8	10.3	9.0
	無回答	8	12.5	-	-	-	-

	調査数「n」（人）	に自 治会 など の地 域活 動 に 一 緒 に 参 加 す る	け 一 緒 に 遊 ん だ り 、 出 か	にス ー パ ー マ ー ケ ッ ト の 活 動 を 趣 味 や 楽 し む	そ の 他	つ き あ い は し て い な い	無 回 答	
全 体	306	6.2	5.9	2.0	2.9	19.3	7.8	
年 齢 別	17歳以下	74	14.9	9.5	1.4	5.4	17.6	4.1
	18～29歳	61	1.6	1.6	1.6	1.6	18.0	4.9
	30～39歳	69	1.4	5.8	1.4	2.9	18.8	8.7
	40～49歳	37	2.7	5.4	2.7	-	24.3	8.1
	50～59歳	35	8.6	8.6	-	-	20.0	11.4
	60～64歳	8	-	-	-	-	-	12.5
	65歳以上	11	-	-	-	9.1	27.3	27.3
	無回答	11	18.2	9.1	18.2	9.1	27.3	9.1
別 住 現 ま 在 い の	福祉施設	75	1.3	4.0	4.0	2.7	18.7	9.3
	福祉施設以外（持ち家等）	223	8.1	6.7	1.3	3.1	20.2	4.5
	無回答	8	-	-	-	-	-	87.5

(4) 地域活動に参加するときに妨げとなること

問3 4 あなたが地域の行事や活動に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-93 地域活動に参加するときに妨げとなること】(n=306)



地域の行事や活動に参加するときに妨げとなることは、「コミュニケーションが難しい」(33.0%)が最も多く、次いで「気軽に参加できる活動が少ない」(17.6%)、「一緒に活動する友人・仲間がいない」(17.0%)となっている。また、「特にない」が14.7%、「参加しようとは思わない」が10.1%となっている。

年齢別にみると、18～29歳では他の年齢層に比べて「気軽に参加できる活動が少ない」(37.7%)や「一緒に活動する友人・仲間がいない」(24.6%)、「周囲の理解がない」(24.6%)、「参加したくなるようなものがない」(18.0%)などの割合が高い。

現在の住まい別にみると、福祉施設入所者は、在宅生活者に比べて「特にない」(21.3%)や「参加しようとは思わない」(13.3%)の割合が高い。

【図表 3-2-94 年齢別・現在の住まい別 地域活動に参加するときに妨げとなること】(%)

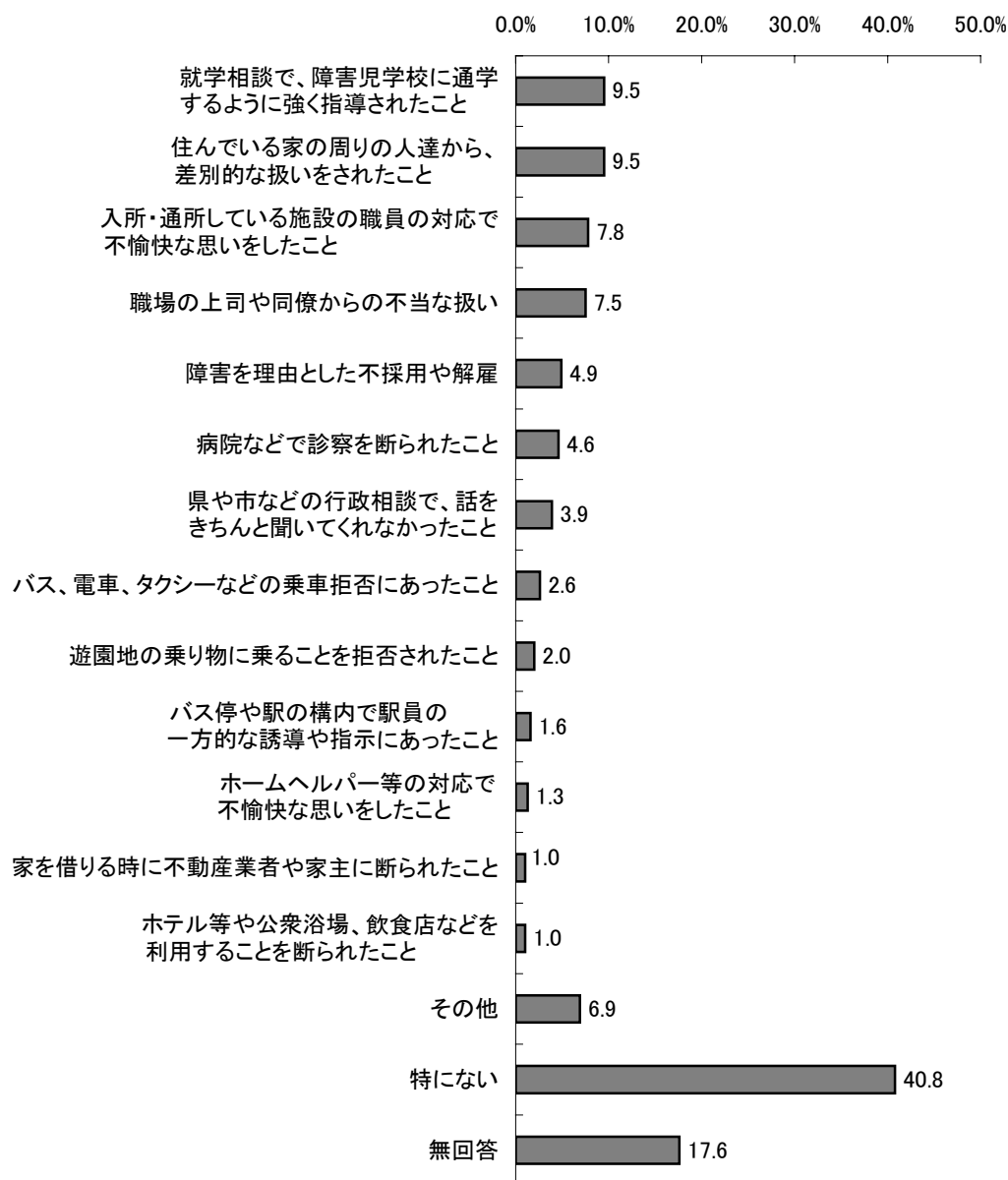
		調査数「n」(人)	難しいコミュニケーションが	が気軽に参加できる活動	仲間が活動する友人・	一緒に活動する友人・	どのような活動が行われているか知らない	周囲の理解がない	健康や体力に自信がない	参加したくないようになるような	家庭の事情がある(病気、家事・仕事等)の都合が難しい
全体		306	33.0	17.6	17.0	15.4	14.7	9.8	9.8	6.5	
年齢別	17歳以下	74	54.1	17.6	20.3	10.8	17.6	12.2	9.5	8.1	
	18～29歳	61	42.6	37.7	24.6	9.8	24.6	1.6	18.0	9.8	
	30～39歳	69	26.1	15.9	18.8	20.3	15.9	11.6	5.8	7.2	
	40～49歳	37	18.9	16.2	13.5	29.7	2.7	8.1	10.8	2.7	
	50～59歳	35	14.3	2.9	5.7	5.7	-	17.1	2.9	2.9	
	60～64歳	8	12.5	-	-	12.5	12.5	-	12.5	-	
	65歳以上	11	9.1	-	9.1	36.4	18.2	18.2	9.1	9.1	
無回答		11	27.3	-	9.1	9.1	18.2	9.1	9.1	-	
別住現在の	福祉施設	75	24.0	13.3	6.7	5.3	10.7	6.7	8.0	5.3	
	福祉施設以外(持ち家等)	223	37.2	19.7	21.1	19.3	16.6	11.2	10.8	7.2	
	無回答	8	-	-	-	-	-	-	-	-	

		調査数「n」(人)	参加したいが誘っても	活動場所が近くにない	費用や手間がかかりすぎる	過去に参加したが期待はずれだった	その他	特になし	参加しようとは思わない	無回答
全体		306	3.6	3.3	2.0	1.3	2.6	14.7	10.1	14.4
年齢別	17歳以下	74	4.1	4.1	2.7	2.7	6.8	14.9	1.4	6.8
	18～29歳	61	3.3	6.6	-	-	-	11.5	11.5	6.6
	30～39歳	69	7.2	2.9	1.4	2.9	1.4	13.0	13.0	11.6
	40～49歳	37	2.7	-	2.7	-	-	13.5	16.2	16.2
	50～59歳	35	-	2.9	2.9	-	2.9	17.1	20.0	34.3
	60～64歳	8	-	-	-	-	-	37.5	-	37.5
	65歳以上	11	-	-	-	-	-	18.2	9.1	27.3
無回答		11	-	-	9.1	-	9.1	18.2	-	27.3
別住現在の	福祉施設	75	-	2.7	1.3	-	1.3	21.3	13.3	22.7
	福祉施設以外(持ち家等)	223	4.9	3.6	2.2	1.8	3.1	13.0	9.0	9.0
	無回答	8	-	-	-	-	-	-	12.5	87.5

(5) 差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無

問35 あなたはこれまでに次のような差別的な扱いを受けたり、いやな思いをしたことがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-95 差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】(n=306)



差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験については「特にない」(40.8%)が最も多いが、具体的な内容では「就学相談で、障害児学校に通学するように強く指導されたこと」(9.5%)や「住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと」(9.5%)などがあがっている。

年齢別にみても、すべての年齢層で「特にない」が最も多いが、いやな思い等をした内容は、20歳代以下では他の年齢層に比べて「就学相談で、障害児学校に通学するように強く指導されたこと」や「住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと」の割合が高い。また、18歳～30歳代では他の年齢層に比べて「職場の上司や同僚からの不当な扱い」の割合が高い。

【図表 3-2-96 年齢別・障害の程度別 差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】（%）

		調査数「n」（人）	く校就 指に通相 導学談で、 されず障 たこと害 よう児 に強学	い人住 を達か をさで れたら こと差 と別家 の周 りな 扱	快設入 なの職 思員 いの をし た対 こと應 で不 愉施	の職 場不 当の 上扱 司い や 同 僚 か ら	用障 や害 解を 雇理 由 と し た 不 採	れた病 た院 ことな で診 察を 断ら	て、県 く、や れ話市 なな かつの かつち ことん と行政 と聞相 い談	たな、 ことの 乗電 車拒 否に あッ ッ
全	体	306	9.5	9.5	7.8	7.5	4.9	4.6	3.9	2.6
年 齢 別	17歳以下	74	16.2	16.2	9.5	1.4	4.1	8.1	6.8	4.1
	18～29歳	61	18.0	14.8	6.6	13.1	4.9	8.2	1.6	3.3
	30～39歳	69	7.2	7.2	8.7	13.0	8.7	2.9	4.3	1.4
	40～49歳	37	2.7	5.4	5.4	5.4	2.7	-	2.7	-
	50～59歳	35	-	2.9	5.7	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9
	60～64歳	8	-	-	12.5	-	-	-	-	12.5
	65歳以上	11	-	-	-	9.1	-	-	9.1	-
無回答	11	-	-	18.2	9.1	9.1	-	-	-	
程 度 害 別 の	療育手帳A	176	11.4	8.5	8.5	1.1	2.3	5.1	4.0	2.3
	療育手帳B	115	7.0	10.4	7.0	17.4	7.8	4.3	4.3	3.5
	無回答	15	6.7	13.3	6.7	6.7	13.3	-	-	-

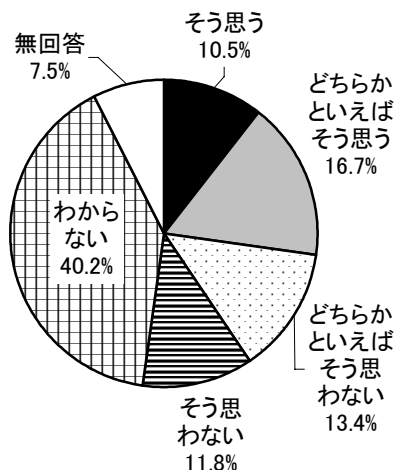
		調査数「n」（人）	こ遊 を園 拒地 否の され乗 たり こと物 に乗 と	示に にあ つ方 た的 ことな と誘 導構 や内 で指 駅	たバ 応ス こと一 と愉 快 な 思 い を し の 対	ホ ム 不 愉 快 な 思 い を し の 対	こ業 者や 借家 り主 に 断 ら れ た 不 動 産	こ飲 食ホ を店 断等 らな れど たを 利用 す場 、	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全	体	306	2.0	1.6	1.3	1.0	1.0	6.9	40.8	17.6	
年 齢 別	17歳以下	74	1.4	1.4	1.4	-	2.7	16.2	40.5	9.5	
	18～29歳	61	3.3	1.6	1.6	1.6	-	4.9	34.4	8.2	
	30～39歳	69	-	2.9	2.9	1.4	-	2.9	42.0	15.9	
	40～49歳	37	8.1	-	-	2.7	2.7	2.7	54.1	18.9	
	50～59歳	35	-	2.9	-	-	-	5.7	45.7	31.4	
	60～64歳	8	-	-	-	-	-	-	37.5	37.5	
	65歳以上	11	-	-	-	-	-	-	27.3	63.6	
無回答	11	-	-	-	-	-	9.1	27.3	27.3		
程 度 害 別 の	療育手帳A	176	2.8	1.7	1.1	1.1	1.7	6.8	41.5	21.0	
	療育手帳B	115	0.9	1.7	1.7	0.9	-	7.0	41.7	10.4	
	無回答	15	-	-	-	-	-	6.7	26.7	33.3	

9. 福祉全般について

(1) ノーマライゼーションのまちづくり

問36 「障害がある人もない人も、ともに生きていくことができる社会こそ普通の社会である。障害がある人も職場で一緒に働いていたり、地域活動やいろいろな催し物にもともに参加し、行動できるような社会にすべきである。」という考え方を一般に『ノーマライゼーション』と呼びます。久留米市は、この『ノーマライゼーション』の考え方を活かしたまちづくりをしていると思いますか。（○は1つだけ）

【図表 3-2-97 ノーマライゼーションのまちづくり】(n=306)



久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているかという問に対しては、「わからない」(40.2%)との回答が最も多い。ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしていると思っている人は27.2%（「そう思う」:10.5%、「どちらかといえばそう思う」:16.7%）、思わない人は25.2%（「どちらかといえばそう思わない」:13.4%、「そう思わない」:11.8%）であり、ほぼ同率となっている。

年齢別にみると、17歳以下では「どちらかといえばそう思う」(28.4%)が最も多いが、それ以外の年齢層では「わからない」が最も多い。概ね年齢が若いほど、ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人の割合が高く、20歳代以下では3割を超えている(17歳以下:35.2%、18~29歳:36.1%)。

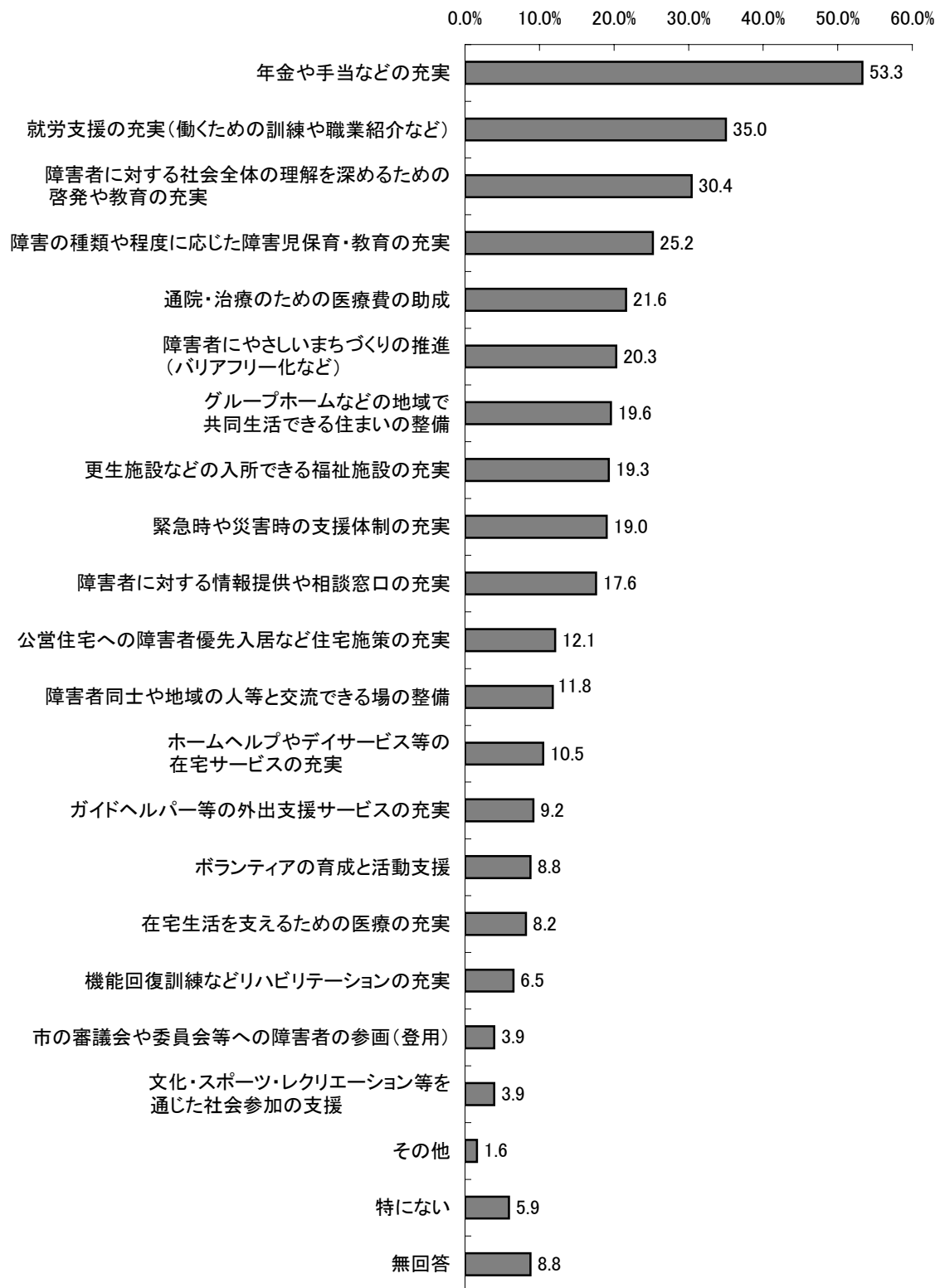
【図表 3-2-98 年齢別・障害の程度別 ノーマライゼーションのまちづくり】(%)

		(調査数「n」)	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえば	そう思わない	わからない	無回答
			そう思う	そう思うかといえ	そう思わ	そう思わ	ない	
			う	ば	わかないといえ	ない		
				ば	ば			
全体		306	10.5	16.7	13.4	11.8	40.2	7.5
年齢別	17歳以下	74	6.8	28.4	17.6	17.6	27.0	2.7
	18~29歳	61	8.2	19.7	21.3	14.8	32.8	3.3
	30~39歳	69	17.4	11.6	7.2	11.6	46.4	5.8
	40~49歳	37	18.9	8.1	10.8	10.8	45.9	5.4
	50~59歳	35	2.9	11.4	8.6	-	60.0	17.1
	60~64歳	8	12.5	12.5	-	-	62.5	12.5
	65歳以上	11	9.1	-	9.1	-	45.5	36.4
	無回答	11	-	18.2	18.2	18.2	27.3	18.2
障害程度別の	療育手帳A	176	9.7	16.5	14.2	11.9	38.6	9.1
	療育手帳B	115	13.0	16.5	13.9	10.4	42.6	3.5
	無回答	15	-	20.0	-	20.0	40.0	20.0

(2) 障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと

問37 今後、障害がある人の自立と福祉の向上のための支援として、久留米市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。(〇は5つまで)

【図表 3-2-99 障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】(n=306)



第3章 調査結果[知的障害者（児）調査]

障害者福祉施策として久留米市が重点的に進めるべきことは、「年金や手当などの充実」（53.3%）が最も多く、次いで「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）」（35.0%）、「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」（30.4%）、「障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実」（25.2%）となっている。

年齢別にみると、17歳以下では他の年齢層に比べて割合が高い項目が多く、「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）」（59.5%）や「障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実」（52.7%）、「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」（43.2%）、「ガイドヘルパー等の外出支援サービスの充実」（17.6%）、「機能回復訓練などリハビリテーションの充実」（14.9%）などで顕著である。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bいずれにおいても「年金や手当などの充実」が最も多いが、療育手帳AではBに比べて「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」（25.6%）や「更生施設などの入所できる福祉施設の充実」（24.4%）などの施設・居住系サービスに関する項目の割合が高い。一方、療育手帳BはAに比べて「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）」（53.9%）や「公営住宅への障害者優先入居など住宅施策の充実」（17.4%）などの割合が高い。

現在の住まい別にみると、福祉施設入所者は、在宅生活者に比べて「更生施設などの入所できる福祉施設の充実」（32.0%）の割合が高い。

ノーマライゼーションを活かしたまちづくりに対する評価別にみると、久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人は、そう思う人に比べて「障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実」（36.4%）や「障害者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリー化など）」（31.2%）、「更生施設などの入所できる福祉施設の充実」（26.0%）、「障害者同士や地域の人等と交流できる場の整備」（19.5%）などの割合が高い。

【図表 3-2-100 年齢別・障害の程度別・現在の住まい別・

ノーマライゼーションに対する評価別 障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】（%）

		調査数「n」（人）	年金や手当などの充実	就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介）	障害者に対する理解を深めるための啓発や教育の充実	障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実	通院・治療のための医療費の助成	障害者の生活の利便性を高めるための施策（福祉施設、グループホームなど）の充実	地域での共同生活などができる場の整備
全体		306	53.3	35.0	30.4	25.2	21.6	20.3	19.6
年齢別	17歳以下	74	52.7	59.5	43.2	52.7	24.3	20.3	18.9
	18～29歳	61	50.8	42.6	31.1	23.0	19.7	24.6	24.6
	30～39歳	69	58.0	26.1	29.0	15.9	24.6	20.3	26.1
	40～49歳	37	56.8	32.4	27.0	5.4	21.6	29.7	16.2
	50～59歳	35	57.1	14.3	20.0	17.1	20.0	11.4	11.4
	60～64歳	8	37.5	-	12.5	12.5	-	-	12.5
	65歳以上	11	18.2	9.1	18.2	9.1	9.1	-	9.1
	無回答	11	63.6	9.1	18.2	27.3	27.3	27.3	9.1
障害程度別の	療育手帳A	176	54.0	22.7	27.8	26.1	22.7	18.8	25.6
	療育手帳B	115	50.4	53.9	34.8	24.3	20.0	22.6	12.2
	無回答	15	66.7	33.3	26.7	20.0	20.0	20.0	6.7
別住現在の	福祉施設	75	54.7	17.3	29.3	14.7	18.7	13.3	14.7
	福祉施設以外（持ち家等）	223	53.8	42.2	31.4	29.1	23.3	23.3	22.0
	無回答	8	25.0	-	12.5	12.5	-	-	-
評価別に	思う	83	60.2	42.2	37.3	25.3	27.7	24.1	22.9
	思わない	77	58.4	39.0	41.6	36.4	19.5	31.2	26.0
	わからない	123	52.0	33.3	22.0	21.1	22.0	13.8	17.1
	無回答	23	17.4	4.3	13.0	8.7	4.3	4.3	-

第3章 調査結果[知的障害者（児）調査]

		調査数「n」（人）	更生福祉施設などの充実	緊急時や災害時の支援体制の充実	障害者に対する情報提供や相談窓口の充実	先入居など住宅施策の充実	障害者同士や地域の整備と交流できる場の確保	ホームヘルプやデイサービス等の在宅サービス	ガイドヘルパー等の充実
全体		306	19.3	19.0	17.6	12.1	11.8	10.5	9.2
年齢別	17歳以下	74	12.2	18.9	20.3	9.5	14.9	13.5	17.6
	18～29歳	61	26.2	21.3	21.3	18.0	19.7	8.2	11.5
	30～39歳	69	21.7	17.4	13.0	14.5	10.1	8.7	7.2
	40～49歳	37	18.9	18.9	10.8	5.4	10.8	16.2	5.4
	50～59歳	35	20.0	17.1	25.7	5.7	-	5.7	-
	60～64歳	8	25.0	12.5	25.0	25.0	25.0	-	-
	65歳以上	11	9.1	18.2	9.1	18.2	-	18.2	-
	無回答	11	18.2	27.3	9.1	9.1	-	9.1	9.1
程度害別の	療育手帳A	176	24.4	17.6	16.5	9.1	8.5	12.5	10.2
	療育手帳B	115	10.4	20.9	19.1	17.4	16.5	7.8	7.8
	無回答	15	26.7	20.0	20.0	6.7	13.3	6.7	6.7
別住現ま在いの	福祉施設	75	32.0	17.3	10.7	8.0	5.3	2.7	2.7
	福祉施設以外（持ち家等）	223	15.7	20.2	20.2	13.5	14.3	13.5	11.7
	無回答	8	-	-	12.5	-	-	-	-
価対シイノ別すヨゼーるンーマラ	思う	83	18.1	20.5	18.1	13.3	7.2	13.3	19.3
	思わない	77	26.0	24.7	19.5	9.1	19.5	14.3	11.7
	わからない	123	17.9	17.1	18.7	12.2	12.2	8.1	2.4
	無回答	23	8.7	4.3	4.3	17.4	-	-	-

		調査数「n」（人）	ボランティアの育成と活動支援	在宅生活を支えるための医療の充実	機能回復訓練などの充実	市の審議会や委員会等への障害者の参画（登用）	文化・スポーツ・レクリエーション等の社会参加の支援	その他	特になし	無回答
全体		306	8.8	8.2	6.5	3.9	3.9	1.6	5.9	8.8
年齢別	17歳以下	74	13.5	6.8	14.9	6.8	5.4	2.7	1.4	1.4
	18～29歳	61	9.8	8.2	3.3	1.6	4.9	-	8.2	4.9
	30～39歳	69	7.2	8.7	1.4	5.8	4.3	2.9	5.8	10.1
	40～49歳	37	5.4	13.5	8.1	-	2.7	2.7	5.4	5.4
	50～59歳	35	11.4	5.7	5.7	2.9	2.9	-	8.6	17.1
	60～64歳	8	-	-	12.5	-	-	-	25.0	12.5
	65歳以上	11	-	9.1	-	-	-	-	9.1	45.5
	無回答	11	-	9.1	-	9.1	-	-	-	18.2
程度害別の	療育手帳A	176	10.8	10.2	6.3	4.0	2.8	2.8	3.4	11.4
	療育手帳B	115	7.0	6.1	6.1	3.5	5.2	-	9.6	4.3
	無回答	15	-	-	13.3	6.7	6.7	-	6.7	13.3
別住現ま在いの	福祉施設	75	9.3	2.7	4.0	1.3	6.7	1.3	10.7	14.7
	福祉施設以外（持ち家等）	223	9.0	10.3	7.2	4.9	3.1	1.8	4.5	4.9
	無回答	8	-	-	12.5	-	-	-	-	62.5
価対シイノ別すヨゼーるンーマラ	思う	83	10.8	9.6	7.2	6.0	2.4	3.6	4.8	1.2
	思わない	77	11.7	13.0	6.5	6.5	2.6	1.3	2.6	2.6
	わからない	123	7.3	4.1	7.3	0.8	6.5	0.8	9.8	8.1
	無回答	23	-	8.7	-	4.3	-	-	-	60.9

10. 障害児の保育・教育等について

以降は、障害のある17歳以下の児童（74人）の生活状況や保育・教育に関する状況等について、その保護者に対して行った質問である。

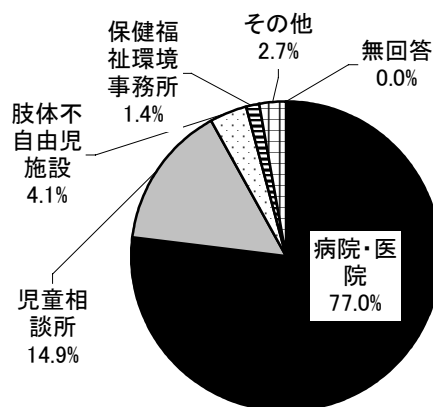
対象となる障害児は、療育手帳A所持者が56.8%、療育手帳B所持者が41.9%となっている。
 【「1. 基本属性」の年齢別分析参照】

(1) 障害の診断・判定

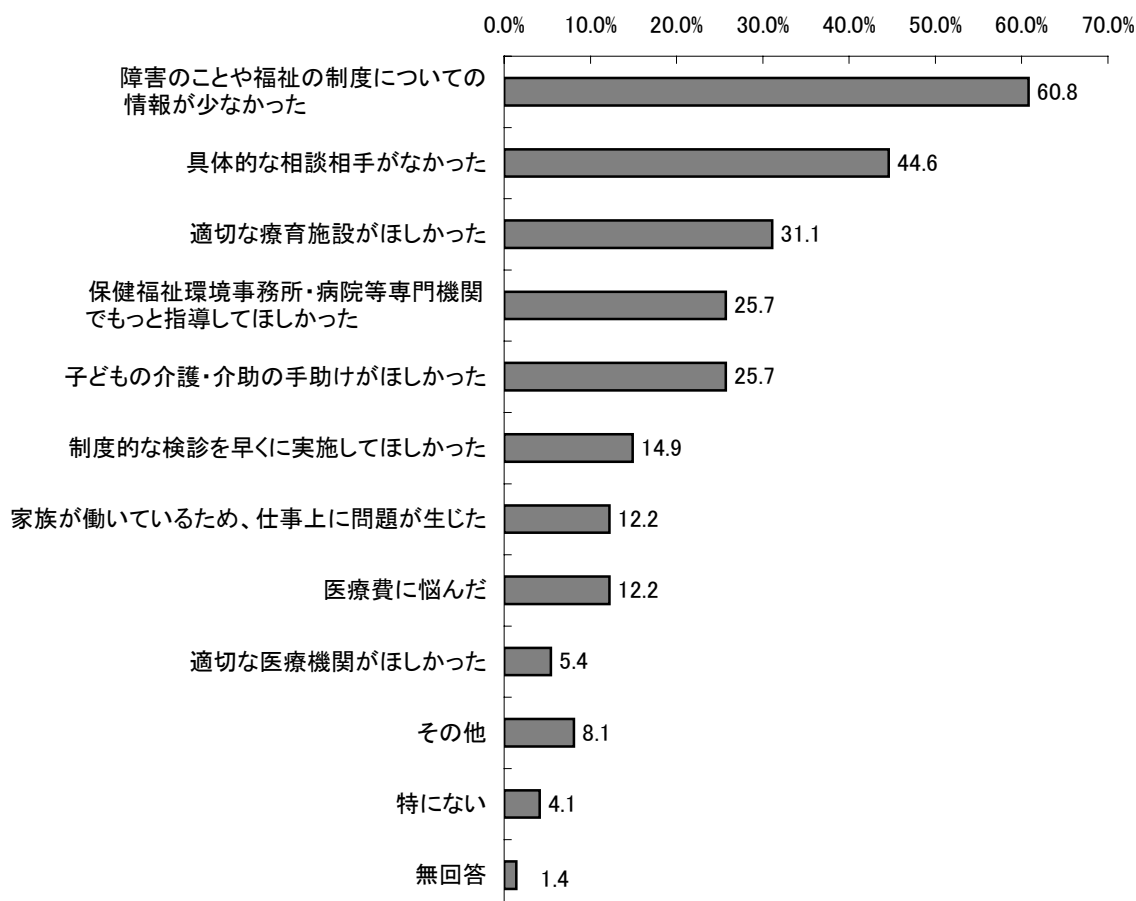
問38 お子さんの障害について、どこで診断・判定を受けてはつきりしたことがわかりましたか。（○は1つだけ）

問39 お子さんの障害の状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦勞、悩み、不安がありましたか。（○は3つまで）

【図表 3-2-101 障害の診断・判定を受けた場所】（n=74）



【図表 3-2-102 障害の診断・判定を受けた当時の苦勞や悩み】（n=74）



障害のある17歳以下の児童（74人）が障害の判定・診断を受けた場所は、「病院・医院」（77.0%）が最も多く、次いで「児童相談所」（14.9%）となっている。

障害の診断・判定を受けた当時の苦勞や悩みは、「障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった」（60.8%）が最も多く、次いで「具体的な相談相手がなかった」（44.6%）、「適切な療育施設がほしかった」（31.1%）となっている。

【図表 3-2-103 療育手帳の交付時期別 障害の診断・判定を受けた場所】（%）

		調査数「n」（人）	病院・医院	児童相談所	肢体不自由児施設	保健福祉環境事務所	その他	無回答
全体		74	77.0	14.9	4.1	1.4	2.7	-
療育手帳の交付時期別	2歳以下	13	100.0	-	-	-	-	-
	3～5歳	36	66.7	19.4	8.3	2.8	2.8	-
	6～8歳	13	92.3	7.7	-	-	-	-
	9～11歳	5	80.0	20.0	-	-	-	-
	12～14歳	5	60.0	40.0	-	-	-	-
	15～17歳	2	50.0	-	-	-	50.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-

【図表 3-2-104 療育手帳の交付時期別 障害の診断・判定を受けた当時の苦勞や悩み】（%）

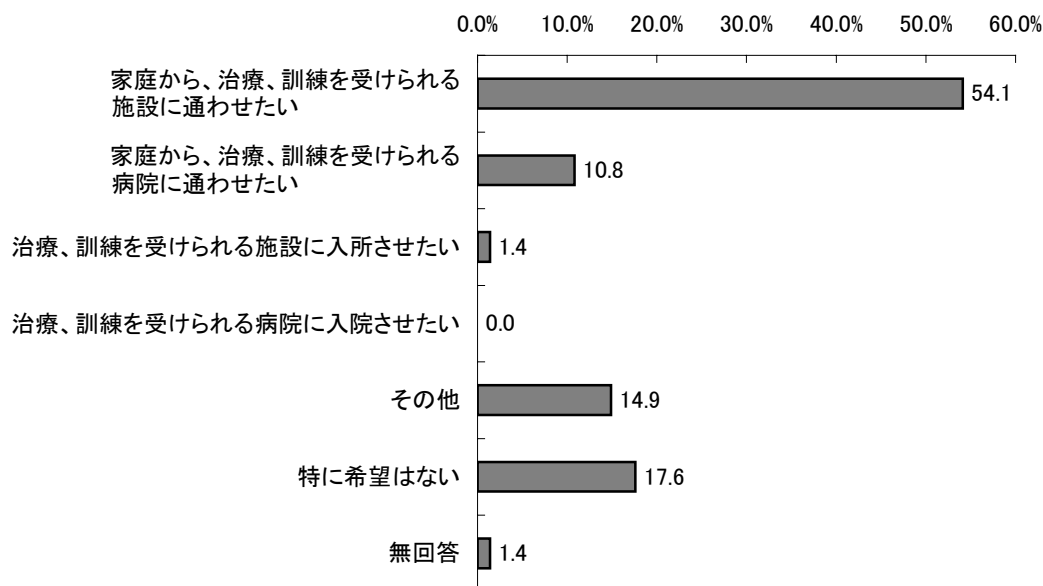
		調査数「n」（人）	なにかつたてのや情報社の少制	か具体的な相談相手がな	か適切な療育施設がほし	と保健福祉環境事務所つ	手助けのほしかつ助の	実制施的なほ検かをつ早くに
全体		74	60.8	44.6	31.1	25.7	25.7	14.9
療育手帳の交付時期別	2歳以下	13	69.2	38.5	38.5	15.4	38.5	15.4
	3～5歳	36	61.1	41.7	27.8	27.8	30.6	11.1
	6～8歳	13	53.8	53.8	38.5	15.4	-	23.1
	9～11歳	5	60.0	60.0	-	20.0	40.0	40.0
	12～14歳	5	80.0	40.0	40.0	80.0	20.0	-
	15～17歳	2	-	50.0	50.0	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-

		調査数「n」（人）	じめ、家族仕が働上いて問るがた生	医療費に悩んだ	か適切な医療機関がほし	その他	特にな	無回答
全体		74	12.2	12.2	5.4	8.1	4.1	1.4
療育手帳の交付時期別	2歳以下	13	15.4	7.7	-	7.7	-	-
	3～5歳	36	8.3	8.3	2.8	11.1	5.6	2.8
	6～8歳	13	23.1	15.4	23.1	7.7	-	-
	9～11歳	5	20.0	20.0	-	-	-	-
	12～14歳	5	-	20.0	-	-	-	-
	15～17歳	2	-	50.0	-	-	50.0	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-

(2) 今後の生活等についての希望

問40 お子さんの今後の生活や療育、訓練について、どのような希望をお持ちですか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-105 今後の生活等についての希望】(n=74)



今後の生活や療育、訓練については、「家庭から、治療、訓練を受けられる施設に通わせたい」(54.1%)が最も多い。また、「特に希望はない」(17.6%)が2割弱を占めている。

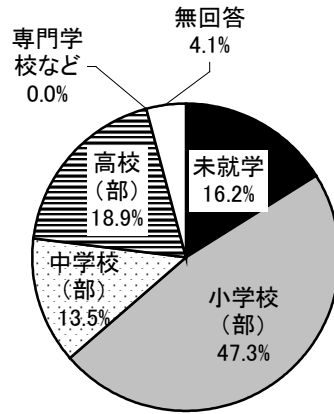
【図表 3-2-106 児童の年齢別 今後の生活等についての希望】(%)

	調査数「n」(人)	わを家庭 から受け たい 治療、 訓練	わを家庭 から受け たい 治療、 訓練	る治療、 施設に 訓練を 受け たい	る治療、 病院に 訓練を 受け たい	その他	特に 希望 はない	無 回答
全体	74	54.1	10.8	1.4	-	14.9	17.6	1.4
別児童 の年 齢	5歳以下	10	70.0	10.0	-	-	10.0	-
	6～11歳	34	55.9	17.6	-	-	8.8	14.7
	12～14歳	11	54.5	9.1	-	-	36.4	-
	15～17歳	19	42.1	-	5.3	-	15.8	36.8
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-

(3) 日中の過ごし方（就学先）

問4 1 お子さんは、現在、日中どのように過ごしていますか。または、就学されている学校は、次のうちどれにあたりますか。（○は1つだけ）

【図表 3-2-107 日中の過ごし方（就学先）】(n=74)



日中の過ごし方(就学先)は、「小学校(部)」(47.3%)が最も多く、次いで「高校(部)」(18.9%)となっている。

就学先別にみると、未就学では「保育園」や「通園施設」が多く、小学校(部)・中学校(部)では「障害児学級」が最も多い。高校(部)は全員「養護学校」であり、専門学校などへの進学者はいなかった。

【図表 3-2-108 未就学の内訳】

(上段：人、下段：%)

【未就学】	保育園	幼稚園	通園施設	その他	自宅にも通わず、どこにも通わず、
12	3	1	3	1	4
100.0	25.0	8.3	25.0	8.3	33.3

【図表 3-2-109 小学校(部)の内訳】

(上段：人、下段：%)

【小学校(部)】	普通学級	障害児学級	養護学校	盲学校	ろう学校	訪問教育
35	6	21	7	-	-	1
100.0	17.1	60.0	20.0	-	-	2.9

【図表 3-2-110 中学校(部)の内訳】

(上段：人、下段：%)

【中学校(部)】	普通学級	障害児学級	養護学校	盲学校	ろう学校	訪問教育
10	2	6	2	-	-	-
100.0	20.0	60.0	20.0	-	-	-

【図表 3-2-111 高校(部)の内訳】

(上段：人、下段：%)

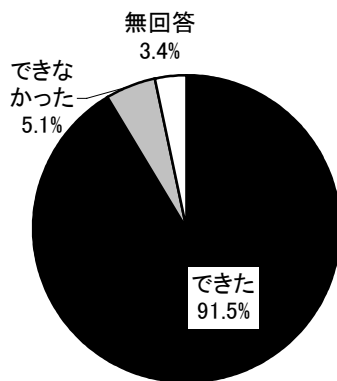
【高校(部)】	普通学校	養護学校	盲学校	ろう学校
14	-	14	-	-
100.0	-	100.0	-	-

(4) 学校等への入学（園）について

問4 2 通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。

(1) 希望通りの学校や園に入学（入園）できましたか。（○は1つだけ）

【図表 3-2-112 学校等への入学（園）について】(n=59)



希望通りの学校や園に入学（入園）できた人が 91.5%と大半を占めており、できなかった人は 5.1%となっている。

【図表 3-2-113 障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別

学校等への入学（園）について】(%)

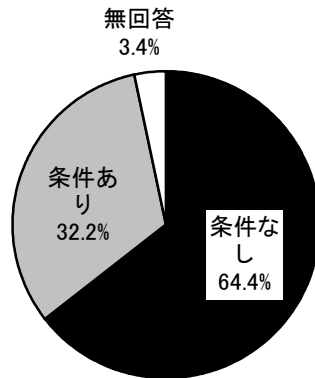
		調査数「n」 (人)	できた	できなかった	無回答
全体		59	91.5	5.1	3.4
障害程度別の	療育手帳A	34	91.2	2.9	5.9
	療育手帳B	24	91.7	8.3	-
	無回答	1	100.0	-	-
就学先別の	未就学	-	-	-	-
	小学校（部）	35	94.3	2.9	2.9
	中学校（部）	10	90.0	-	10.0
	高校（部）	14	85.7	14.3	-
	専門学校など	-	-	-	-
無障害身別の者 体有手障	持っている	15	93.3	-	6.7
	持っていない	41	90.2	7.3	2.4
	無回答	3	100.0	-	-

(5) 入学時の条件の有無

問4 2 通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。

(2) 入学するにあたって何か条件をつけられましたか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-114 入学時の条件の有無】(n=59)



学校や園に入学（入園）する際に条件があった人が 32.2%を占めており、条件の内容（自由記述）では、身体障害児と同じく「保護者による送迎」や「付き添い」などがあがっている。

学校や園に入学（入園）する際に条件があった人の割合は、障害の程度別にみると療育手帳B（20.8%）より重度のA（41.2%）で高く、身体障害者手帳の有無別でも、身体障害のない児童（29.3%）より身体障害がある児童（40.0%）で高い。

【図表 3-2-115 障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別 入学時の条件の有無】(%)

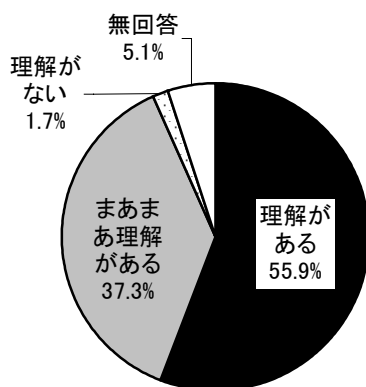
		調査数「n」 (人)	条件なし	条件あり	無回答
全体		59	64.4	32.2	3.4
程度 障害 別の	療育手帳A	34	52.9	41.2	5.9
	療育手帳B	24	79.2	20.8	-
	無回答	1	100.0	-	-
就学 先 別の	未就学	-	-	-	-
	小学校（部）	35	62.9	34.3	2.9
	中学校（部）	10	30.0	60.0	10.0
	高校（部）	14	92.9	7.1	-
	専門学校など	-	-	-	-
無帳 害身 別の 者体 有手障	持っている	15	53.3	40.0	6.7
	持っていない	41	68.3	29.3	2.4
	無回答	3	66.7	33.3	-

(6) 先生の理解

問4 2 通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。

(3) 先生の理解はありますか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-116 先生の理解】(n=59)



学校等での先生の理解については、「理解がある」(55.9%)が過半数を占めて最も多く、次いで「まあまあ理解がある」(37.3%)となっており、これらをあわせると、保護者の9割強(93.2%)は、先生の理解があると思っている。これに対して、「理解がない」は1.7%となっている。

【図表 3-2-117 障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別 先生の理解】(%)

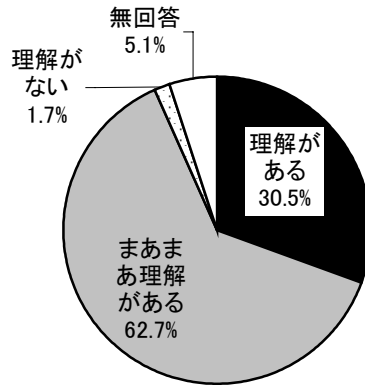
		調査数「n」 (人)	理解がある	まあまあ理解がある	理解がない	無回答
全体		59	55.9	37.3	1.7	5.1
障害程度別の	療育手帳A	34	58.8	29.4	2.9	8.8
	療育手帳B	24	50.0	50.0	-	-
	無回答	1	100.0	-	-	-
就学先別の	未就学	-	-	-	-	-
	小学校(部)	35	65.7	28.6	-	5.7
	中学校(部)	10	30.0	60.0	-	10.0
	高校(部)	14	50.0	42.9	7.1	-
	専門学校など	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	
無帳害身別の者体有手障	持っている	15	73.3	20.0	-	6.7
	持っていない	41	51.2	43.9	-	4.9
	無回答	3	33.3	33.3	33.3	-

(7) 友達の理解

問4 2 通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。

(4) 友達の理解はありますか。(○は1つだけ)

【図表 3-2-118 友達の理解】(n=59)



学校等での友達の理解については、「まあまあ理解がある」(62.7%)が6割を超えて最も多く、次いで「理解がある」(30.5%)となっており、これらをあわせると、保護者の9割強(93.2%)は、友達の理解があると思っている。これに対して、「理解がない」は1.7%となっている。

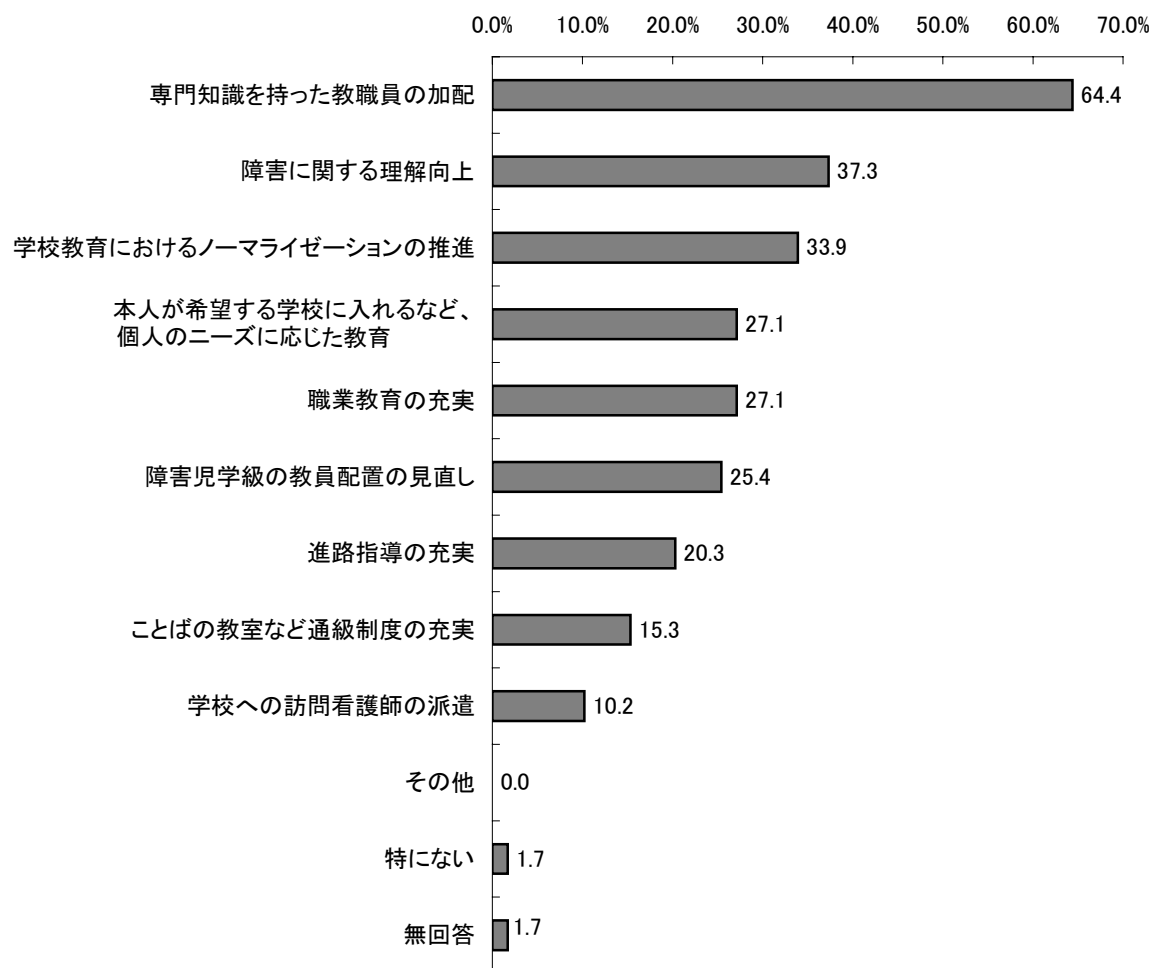
【図表 3-2-119 障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別 友達の理解】(%)

		調査数「n」 (人)	理解がある	まあまあ理解がある	理解がない	無回答
全 体		59	30.5	62.7	1.7	5.1
程 障 度 害 別 の	療育手帳A	34	26.5	64.7	-	8.8
	療育手帳B	24	37.5	58.3	4.2	-
	無回答	1	-	100.0	-	-
就 学 先 別	未就学	-	-	-	-	-
	小学校(部)	35	37.1	54.3	2.9	5.7
	中学校(部)	10	20.0	70.0	-	10.0
	高校(部)	14	21.4	78.6	-	-
	専門学校など	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-
無 帳 害 身 別 の 者 体 有 手 障	持っている	15	53.3	40.0	-	6.7
	持っていない	41	24.4	68.3	2.4	4.9
	無回答	3	-	100.0	-	-

(8) 教育に関する要望

問4 2 通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
 (5) 次のような教育に関する要望がありますか。(○は3つまで)

【図表 3-2-120 教育に関する要望】(n=59)



教育に関する要望は、「専門知識を持った教職員の加配」(64.4%)が最も多く、次いで「障害に関する理解向上」(37.3%)、「学校教育におけるノーマライゼーションの推進」(33.9%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳A・Bともに「専門知識を持った教職員の加配」が最も多いが、療育手帳AはBに比べて「障害に関する理解向上」(44.1%)や「学校への訪問看護師の派遣」(17.6%)の割合が高い。一方、療育手帳BはAに比べて「本人が希望する学校に入れるなど、個人のニーズに応じた教育」(33.3%)や「専門知識を持った教職員の加配」(70.8%)の割合が高い。

身体障害者手帳の有無別にみると、身体障害のある児童では「学校への訪問看護師の派遣」(40.0%)の割合が高い。

【図表 3-2-121 障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別 教育に関する要望】（%）

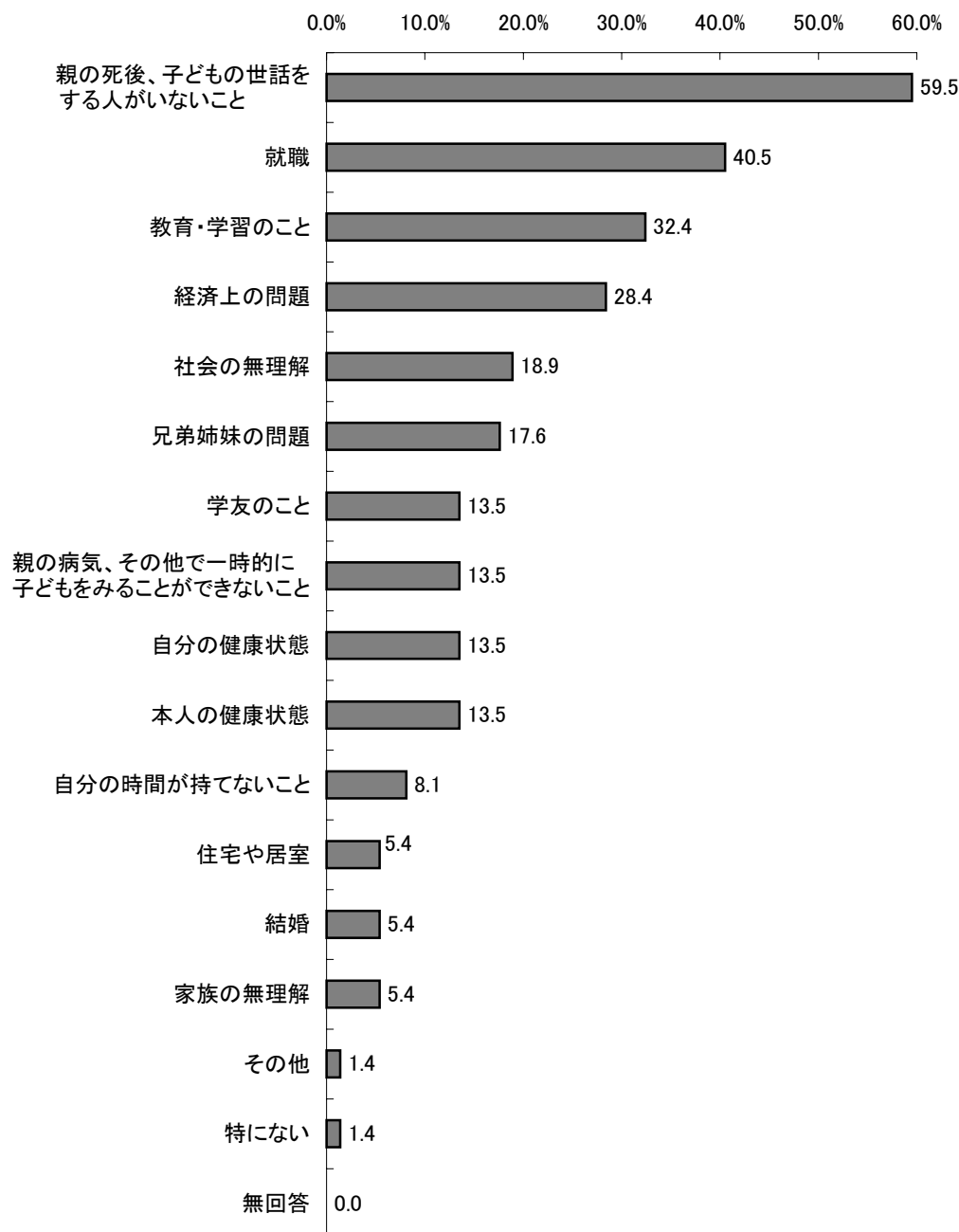
		調査数「n」（人）	専門知識を持った教職員の加配	障害に関する理解向上	進マ学校ライゼーシヨンの推	入本人が希望する学校にズにに応じた教育	職業教育の充実	の障害児学級の教員配置の見直し
全 体		59	64.4	37.3	33.9	27.1	27.1	25.4
程 障 度 害 別 の	療育手帳A	34	58.8	44.1	29.4	23.5	23.5	23.5
	療育手帳B	24	70.8	29.2	37.5	33.3	29.2	29.2
	無回答	1	100.0	-	100.0	-	100.0	-
就 学 先 別	未就学	-	-	-	-	-	-	-
	小学校（部）	35	71.4	25.7	42.9	25.7	31.4	34.3
	中学校（部）	10	60.0	30.0	30.0	60.0	-	30.0
	高校（部）	14	50.0	71.4	14.3	7.1	35.7	-
	専門学校など	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
無 帳 害 身 別 の 者 体 有 手 障	持っている	15	46.7	46.7	26.7	40.0	26.7	26.7
	持っていない	41	70.7	31.7	39.0	19.5	26.8	26.8
	無回答	3	66.7	66.7	-	66.7	33.3	-

		調査数「n」（人）	進路指導の充実	制 度 の 充 実 こ と ば の 教 室 な ど 通 級	派 遣 学 校 へ の 訪 問 看 護 師 の	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		59	20.3	15.3	10.2	-	1.7	1.7
程 障 度 害 別 の	療育手帳A	34	20.6	14.7	17.6	-	-	2.9
	療育手帳B	24	20.8	16.7	-	-	4.2	-
	無回答	1	-	-	-	-	-	-
就 学 先 別	未就学	-	-	-	-	-	-	-
	小学校（部）	35	8.6	17.1	8.6	-	-	2.9
	中学校（部）	10	30.0	10.0	20.0	-	-	-
	高校（部）	14	42.9	14.3	7.1	-	7.1	-
	専門学校など	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-
無 帳 害 身 別 の 者 体 有 手 障	持っている	15	13.3	6.7	40.0	-	-	-
	持っていない	41	24.4	19.5	-	-	2.4	2.4
	無回答	3	-	-	-	-	-	-

(9) 子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み

問43 お子さんを育てていくうえで、困っていることや将来に対する不安、悩みなどがありますか。(〇は3つまで)

【図表 3-2-122 子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み】(n=74)



子育てで困っていることや将来に対する不安・悩みは、「親の死後、子どもの世話をする人がいないこと」(59.5%)が最も多く、次いで「就職」(40.5%)、「教育・学習のこと」(32.4%)、「経済上の問題」(28.4%)、「社会の無理解」(18.9%)となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Aでは「親の死後、子どもの世話をする人がいないこと」(76.2%)が最も多いが、Bでは「教育・学習のこと」(48.4%)と「就職」(48.4%)が同率で最も多い。

【図表 3-2-123 児童の年齢別・障害の程度別 子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み】
(%)

	調査数「n」 (人)	親の死後、子どもと話をする人がいないこと	就職	教育・学習のこと	経済上の問題	社会の無理解	兄弟姉妹の問題	学友のこと	親の病気、その他で定期的にできないこと	
全体	74	59.5	40.5	32.4	28.4	18.9	17.6	13.5	13.5	
別児童の年齢	5歳以下	10	70.0	20.0	50.0	50.0	10.0	10.0	-	
	6～11歳	34	58.8	38.2	44.1	23.5	20.6	23.5	11.8	
	12～14歳	11	72.7	27.3	18.2	18.2	18.2	-	36.4	
	15～17歳	19	47.4	63.2	10.5	31.6	21.1	10.5	10.5	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	
程度害別の	療育手帳A	42	76.2	33.3	21.4	31.0	26.2	26.2	2.4	11.9
	療育手帳B	31	38.7	48.4	48.4	25.8	9.7	6.5	25.8	16.1
	無回答	1	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-

	調査数「n」 (人)	自分の健康状態	本人の健康状態	自分の時間が持てないこと	住宅や居室	結婚	家族の無理解	その他	特にない	無回答
全体	74	13.5	13.5	8.1	5.4	5.4	5.4	1.4	1.4	-
別児童の年齢	5歳以下	10	20.0	20.0	10.0	10.0	-	-	-	-
	6～11歳	34	8.8	8.8	11.8	2.9	2.9	5.9	-	-
	12～14歳	11	9.1	18.2	-	9.1	-	9.1	-	-
	15～17歳	19	21.1	15.8	5.3	5.3	15.8	5.3	-	5.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
程度害別の	療育手帳A	42	14.3	16.7	9.5	7.1	2.4	2.4	-	-
	療育手帳B	31	12.9	9.7	6.5	3.2	6.5	9.7	-	3.2
	無回答	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-